

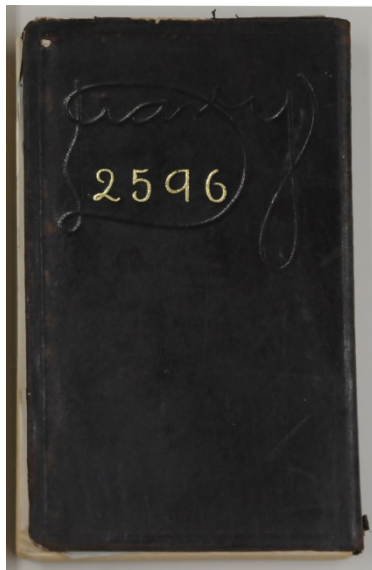


伊藤音次郎日記

1936(昭和 11)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成 30)年 6 月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。



一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

昨年ノ予定実行不能ナリシニヨリ本年ハ特ニ実行本位ニ進ムコト

- 一 交際ヲ減シ工場充実ノコト
- 一 能率増進ノコト

▲▼2ページ▲▼ 昭和十一年要記

- 一 四月軽飛行機完成
- 一 五月三式改造旅客機完成 タクシー開始
- 一 三月追陸軍グライダー注文
- 一 一月ソアラ完成 二月宣傳飛行
- 一 十二月追百馬力級軽旅客機完成ノコト
- 一 設計者雇入レノコト

▲▼3ページ▲▼ 1月

ソアラ完成
平松機完成

▲▼4ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月1日(水)

天気 晴

予期ニ反シタ上天気トナル。

八時起床

終日気分スグレズ 鈴木菊外挨拶ニ來タモノニモ會フノモイヤナ気分デ夜ハ五時過ぎ床
ニ入ッタガ眠レモセズ、キレグヲラジオガ終ツテカラキングヲ讀ミニ時頃眠ル。ヨク眠ッ
テ本年度ノ計畫ヲ静カニ考ヘタイト祈ツテ眠ル
大熊君來 練習未納金四十円入金アリ 竹中へ五円 魚屋へ五円 ベニヤ板廿七円余
支拂ヒヲナス

▲▼5ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月2日(木)

天気 曇小雨

九時ノ氣象通報ヲ聞イテ起床 漸ク頭ガハッキリシタ 昨夜豊田、吉田ガ來タノデ今日晝食ヲ皆ト共ニスルベク仕度ス 一時半頃漸ク揃フ 倍(ママ)食ニ今村竹中、信太郎四時頃終ル

夕方渡辺君來 一足違ヒデ吉田君等ニ會エナカッタ

年賀狀追加四十枚ヲ書ク

今日船橋デ此ノ日記ヲ徳次ニ買ワセル

▲▼6ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月3日(金)

天気 曇リ後晴

清平ニ平松君アブロスパー強度計算ヲタノミ、スケッチヲサセル

自分ハプライマリー機ノ胴体改造現圖ヲ引ク

夜ハ早ク床ニ入り笑ノタノラジオヲ聞ク 児供等ハ双六ニ興ズ

夜雨降ル 清平帰ル

▲▼7ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月4日(土)

天気 快晴

仕事初メ 平松氏九時頃來場サル

自分ハ朝ノ内ニ一月ノ作業予定ト各部ノ責任者ヲ定メル

三式ノ修理調書ヲ金太郎相手ニ作ル

十一時一寸前奈良原氏來。日本航空新聞ノ渡辺氏外一名婦人客來

定刻ヨリ遅レ十一時四十分頃ヨリ初メル カンタンニ挨拶ヲナシ奈良原、渡辺氏ノ挨拶

アリ。女工オクレテ來ル 太田オソク途中帰ルモノト出會テ引返ス 鈴木伊四郎ツヒニ

來ラズ 不都合デアッタ

今日ハ昨年ト違ヒ大分御馳走ガアッタガ來賓モナク大分余ッタノデ宅ノアルモノニソ

レ、持タセテ帰ス

今日ハイツモ工場内デヤルノデ新事ム所デヤッテ天気モヨカッタガアタカデアッタ

午後工業新聞ト実業ノ世界ヲ讀ム

▲▼8ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月5日(日)

天気 晴

午前三式ノ見積書ヲ作ル

午後信太郎ヲ相手ニ事務ト所長室ノ整備ヲナス 戸棚ヲ直シタリ 所長室本年ヨリ初

マル

瓦斯電ヨリ誰レカ來ルカト心待チニシタガツヒニ來ラズ

◆▼9ページ◆▼ 昭和11(1936)年1月6日(月)

天気 快晴 寒シ

今村出勤ヲ待ツタガ來ラズ 遂ヒニ休ム

朝鈴木ヲ呼び今年ノ會計方針ニツキ打合セヲナス。出來ルダケ支拂ハ月末ニマトメルコト 材料ハナルベク現金デ安ク買フコト。収入ハ成ベク一度銀行ニ入レルコト 支拂ハ鈴木ノ手ヲ通シテナスコト等 十一時頃青木正三君甲四ペラデウタレ危俛(ママ)トノ報アリ スグ渡辺ヲ呼ブ オソク、更ニ穴倉ヲ呼ブ。右アゴヨリ後頭部ヲヤラレタラシク、トテモダメトノコトニ、自宅へ報告シ渡辺へ入院サセル。入院後次第ニヨクタ方ニハ大体生命ハ取トメ得トノ見込ニツキ、ヤ、安心ス。三時帰宅後今村以外ノ各部長ヲ定メ呼び今年ノ方針ニツキ話ス

瓦斯電ニ電話ス。明日午後相談ヲスルトノコトニ今日間ニ合フ様見積書ヲ送ル

◆▼10ページ◆▼ 昭和11(1936)年1月7日(火)

天気 晴

今朝又太田佐藤遅刻 夕方呼ンデ注意ス

角急ギ帰ル様打電ス。今他ニ出テ不在 十日頃帰ルトノコト。

松坂、矢野休 作業遅レル

羽太氏ヨリ三島ノ金來タトノコトニ埴山貰ヒニヤル 三百円受取ル

青木君ズン、ヨクナル由 先ヅヨカッタ

鈴木作業ヘヤル ダメ

◆▼11ページ◆▼ 昭和11(1936)年1月8日(水)

天気 曇リ後晴

市川在郷デ自動車曳行ヲ行フ

松坂急(ママ)ガシイノニ今日モ休ンダノデ勝手休ミガ過ギル様ダカラ解雇シテモヨイ覺后(ママ)デ話シサセル ツヒニ出テ來タ。角ニモ十日迄ニ最(ママ)非帰ル様打電ス 明日發ツトノ返電アリ

鈴木上京 東日ヘヨリ瓦斯電ヘ聞イテ貰ワセル 外ニ三河ト佐藤ヘ支拂ヒヲナシアト材料ヲ取ラセル

信太郎二本ノ整理ヲサセル

▲▼12ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月9日(木)

天気 晴

信太郎友人が入團スルノデ東京駅迄見送りニ行ツタノデツヒデニ東日へ曳行用ノ索ヲ反(ママ)サセル。帰りニ佐藤へ片撚線ヲ取りニ寄ラセタガ又明日ニシテ呉レトテ貰ツテ來ナカッタ

十一時頃奈良原氏來場 今夜ノ木曜会ニ出席ノ爲メ上京セラル 自分ハ止メル
プライマリー稍ヤ進行ス 中島本日ヨリ出勤

晝乗池君ニ電話スル 見積書着イタ由 今週中ニ半金持ツテ行クトノコトデアッタ

▲▼13ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月10日(金)

天気 晴

角帰場 明日ヨリ出場ノコト

鈴木富田氏兄見舞ノ爲メ上京休

信太郎佐藤へワイヤー取りニヤル

羽太氏ト電話連絡 三島廿日迄ニ間合セルコト受合フ 結婚式ハ月末ノ由

▲▼14ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月11日(土)

天気 晴

午後清平研究所ノ試験器ノ係リ人ヲ連レテ來ル 見テ貰フ 分解組立ノ話シヲ佐藤ニ聞カセテタ方帰ル 清平二十一元ヤツテ途中夕食ヲサセル

羽太氏ヨリ昨冬廿七日拂下ノ品マダ大坂ニツカストノコトニ荒川沖ニ電話スル 八日ニ發送シタトノコト スグ其旨電話ニテ返事ス

▲▼15ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月12日(日)

天気 曇小雪

日出ズ冷エタタシタ日デアッタ

発動機ト女工ハ休マセアト全員グライダーニカゝラセル

カタログ参考書ノ引出シヲ整理シ、グライダー型録ノ原稿ヲ作ル

昨日カラ腹工合悪シク今日ハメシヲ廃シミクル(ママ)ト玉子ナドデスゴシ夜ハ早く床ニ入り腹ヲアタタル(ママ)

今日コソハ來ルト思ツタ瓦斯電ノ連中來ラズ

▲▼16ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月13日(月)

天気 晴

作業へ電話シタガ明日ニナルトノコト 止ムナク夕方イ式三〇〇ノケース上一個 サルノラジエター、計器ノクツ等出シテ三十五円ヲ作ル 女工二十円 大口二十円 十五円 持ツテ五時ヨリ上京 グライダー用羽布ヲ求メ沢田ト佐藤ニヨリスグ帰宅 八時 帰レバ魚興ガ來テ居タ 結局明日二十円作ツテヤルコトヲ約束ス 猪又へ暮ニ拂下タジ ユピター百二十五円ニテ賣約ス 日本大學寄付ノ百円ヲソレカラ出ス爲メアト二十五円ハボロノ代金ニ支拂フコト

▲▼17ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月14日(火)

天気 晴

奈良原氏來 五円渡 鳥飼氏來 十円渡ス 東京帆走ノ練習費調査ヲナシ基礎案ヲ作ル プライマリーハカドル 木工ダケ夜業ス 猪又ヨリ百円受取ル 夕方ナクナル 拂ワナイト思デモ止ムヲ得ザルモノノミデ出デシマ ウニハ氣ガ引ケル

▲▼18ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月15日(水)

天気 晴

局へ挨拶ヲ兼ネグライダーノ検査ヲ依頼ニ行ク 辻本氏一人 明日向カラ返事スルトノコトデアッタ。標式ヲ貰ヒ東日ニ行ク 瓦斯電へ電話カケテ貰フ 井上氏出張不在 乗池君ヲ呼び谷口氏ノ名儀(ママ)ニシテ判ヲ貰タカラ願書ヲ出ストノコトデアッタ。東京帆走ノ方針ヲ話ス 後チ清平ヨリ聞イタ處利根川君ガ練習所ヲヤリタイ希望ヲ持ツテ居ルトノコトデアッタ ソレニ羽太君モ共鳴シテ居ルラシイ。 梶村へ羽太氏へノ銀製模型ヲ注文シ帰ル途中奈良原氏へ寄り十八日ノ見学ノ件近藤少佐不在ノ由話ス 明日山崎君ニ聞イテ見テ呉レトノコトデアッタ

▲▼19ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月16日(木)

天気 晴

乗池ヨリ電話アリ 四時東日デ會ヒタシトノコト 三時半ヨリ上京會見 内金ガ出セズ完成後全額拂ニシテ呉レトノコトデアッタ 羽太氏

ト相談ノ上困ツタガ引受ケルコトス
青木正三君東京ノ病院へ轉院ス

▲▼20ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月17日(金)

天気 晴南風強シ 寒氣厳シ

昨日作業ヨリ埴山工場ノ分トシテ百円貰ツテ來ル コレデハ何ントモナラナイノデ更ニ
鈴木ヲヤツタガダメ
最二三日頭ガハツキリシナイ タ方早ク引上げ相撲ヲ聞ク。猪又來 夕食ハモヲ馳走ス
奈良原氏來 クラブヨリ十円渡ス
グライダー組立出來ル

▲▼21ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月18日(土)

天気 晴南風

今日モ寒シ

作業交渉サセシモ物ニナラズ ドウシテモ四五百円必要ナノデ昨夜中考ヘタグライダー
ー奨励金六百円デ隔(ママ)通ヲツケルコトニシタ方鈴木ト相談シタガ、相談相手ニナラ
ズ 佐藤三十円金入用ノ由 女工又廿五日迄ニ入ルトノコト ドウシテモ金ヲ作ル必要
アリ

安岡今日タツ予定トノ入電アリ

▲▼22ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月19日(日)

天気 晴

風止ミ静カナ上天気 八時半頃迄眠リ頭モハツキリトスル

猪又ヲ呼ビ先キノ借り貳百余円ニ合セテアト三百五十円作ラセ六百円ノ委任状ヲヤ
ル話シヲナス 今夜金ヲ作りニ行ツテ見ルトノコト 多分出來ルダロウガ五十円近イ利
子ハ一寸痛イ 半分ト云エバヨカッタアトデ氣ガツク

晝頃乗池來 グライダーヲ注文スル人ガアトカラ來ルトノコトデ嬉(ママ)ンデ居タラニ
人來タガ飛行機ノ方ノ人デ金モ持ツテ來ナカッタ 晝食ヲ出シ三時半頃帰ル 明日グ
ライダーノ方取引方ヲ依頼シテ居ク

今日ヤ、明ルクナッタ

寒氣厳シク海ハ二百米位迄氷ル

▲▼23ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月20日(月)

天気 晴

風弱ク上天気

奈良原氏來 所沢見学二月一日ノ由近藤少佐ヨリノ入電アリ

松永武吉氏ノ葬儀ノ爲メ上京 東日ノ羽太氏ト同行ス ツヒデニ羽太氏ノ家サガシニ
三軒同行シ協会ニヨリグライダー奨励金三島ノ分ト瓦斯電ノ分ヲ式百円出ルコトニ話
シヲキメ書圖(ママ)室ニテリンクスノ年鑑ヲ調べル 千九百二十六年ノ年鑑ニ出テ居ルノ
ガドウモアレラシイ 乗池ニ電話シタガ今金ヲ作ツテ居ルラシイトノコトニドウモアテニ
ナラナイ。今一度東日ニヨリグライダー発送ノ工場カラノ電話ヲ聞キ三島へ連絡ヲ依
頼シテ帰ル

錦糸町デ下車 二三買物ヲナス

▲▼24ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月21日(火)

天気 晴

時事 議会展散トナル

帝防ヨリ來テ呉レトノコトニ午後ヨリ上京 ツヒデニ局ニヨリ三式ノ標式ヲ貰ヒソアラ
ス。バーノ材料試験ヲ依頼ス(斎藤氏)

帝防ニハ奈良原氏モ居ラレタ 和泉氏ヨリ八七ニテ撰舉肅正ノ宣傳ニ九州迄飛行シタ
イノデ整備費トシテ式百円ダケ現金ヲツクルカラ間ニ合セテ貰ヒタイトノコト。作業デ
克蘭クケースサエ貸シテ呉レバ間ニ合セルコトヲ約ス。佐藤ニヨリ三ミリケーブル線ヲ
貰テ帰ロウト思タガヨコサナカッタ

帝防清水氏ニソアラ奨励金ニテ金隔(ママ)ヲ依頼シテ帰ル

▲▼25ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月22日(水)

天気 晴

朝作業ニ行キ加藤氏ニ克蘭クケースノ件依頼 スグ即答ヲ得ズ 梅木ト相談ノ上回
答スルトノコト 昨日朝スデニ申込シ居イタコトデアッタノニ之レハダメカモ知レナイ
ゴム紐ノ金帝防ノ返事ヲ待ツタカ、ツヒニ今日中ニナシ 止ムナク廿七日金持参ノコトト
シテ姫路製紐ヲ借りテ來ルコトニ鈴木ヲ上京サセル

▲▼26ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月23日(木)

天気 晴

三島ノ通航証写シガ入ルトノコトニ自分ハ克蘭クケースノ話シヲキメル必要アリ 鈴木
ヲ上京サセルコトニシタガ中々出來コズニ度呼ビニヤッタ 上京サセルツヒデ帝防ノ金出

來タラ貰ッテ來ル様ニス

自分作業ニ行ク 加藤氏來ラズ 妻君床ノ中 梅木君ノ宅ニ行キ奥山氏ト三人協議ノ
上クランクケースヨケレバ使用差支ナキコトナリ帰宅 午後佐藤ニ見ニヤル 使用出
來ル由。夕方帝防ヘ電話セシモメラシイ

十年度決算ヲ終ル 少シ利益ガアッタガ金ノ回収ノ出來ナイヲ見レバ無論本年モ一
杯、

◆◆27ページ◆◆ 昭和11(1936)年1月24日(金)

天気 晴

十一時東日ニ行ク 清水來ラズ 晝頃念ノ爲メ局ヘ電話シタラ丁度今清水ガ來タトノ
コト 三島カラ今朝帰ッタ由

東日デ四時頃迄羽太氏ノ來場ヲ待ッタガ來ラズ。江戸川ノ格納庫補助金清水ニ依頼
シテ奈良原氏ト協会ニ行ク。帝防ノ清水氏モ金出來ズ

今日ノ出席者高崎、佐藤、山崎、清平、奈良原、自分。清水オソク來 羽太氏明日正
午社ニ居ルカトノコト 金ヲ貰ッテ來ズ 中央亭初メテ借リル。奈良原氏風気味デ、
ツラソウデアッタ。明日午前中ニ和泉氏ノ貳百円出來ルトノコトデアッタ 十時過ぎ帰
宅。講談クラブガ來テ居タ 三時半迄眠レヌマ、讀ム

◆◆28ページ◆◆ 昭和11(1936)年1月25日(土)

天気 雪

連日ノ酷寒ノ天氣圖ガ少シクヅレタト思ッタラ雪ニナッテ居タ 午後カラ雨ニ變ッタ爲
メ沢山ハツモラナカッタ。

午前中トノコトニ帝防ヘ十一時半頃行ク 給仕ト女給ダケデ和泉氏ハ風ノ爲メ出テ來
ラレナイトノコト 清水氏モ今日ハ來ナイ由 社ニ行ク 十二時半羽太氏出社シタガ格
納庫ノ金來月初メ福知氏上京ノ上ニシテ呉レトノコト。尚アトノ東京帆走ノ計畫ニツ
キマトメテ出シタ方ガヨカロウトノコトデアッタガ今日ハ片道ノツモリデ金ヲ余リ持ッテ
來ナカッタノデ帰宅ノ電車賃不足 市川迄買ヒツヒデニ奈良原氏ニヨリ以上報告シテ
バスニテ帰宅 三時。今井三百円三時頃持ッテ來ルトノ電話アッタ由 待ッタガ夜ニ
入ルモ來ラズ 見ニヤッタラ幕張ヘ行ッタラシイ 明日ノ三島行キツヒニ断念ノ止ムナキ
ニ到ル

一時頃迄又眠レズ

◆◆29ページ◆◆ 昭和11(1936)年1月26日(日)

天気 晴

九時半床ノ中デ新聞ヲ見テ居タラ今井三百円持参 之レガ昨夜間ニ合ッテ居レバ今日三島ニ行ケタモノヲ 残念ナコトヲシタ。奈良原自分ノ名デ祝電ヲ打ッテ居ク
午後乗池ヨリ電話アリ 今日行ッタ筈ダカラ宜シクタノムトノコトデアッタノデ樂ンデ待ッタガツヒニ來ラズ

▲▼30ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月27日(月)

天気 晴

稲垣知足五七日 知足良道居士

稲垣君ヨリ三十五日忌明ノ香奠返シ來ル

乗池へ正午電話ス 本人風ノ爲メ行ケナカッタ上今日モ休ンデ居ルトノコト。グライダー書類コチラカラ送ルコトシマークヲ知ラセル様依頼ス

今井仁三百円借用証書ヲ渡ス 兄今井好房宛名トス

安岡ニグライダー學校資金ニツキ竹中今井等出資方交渉相談 安岡ヨリ話サセルコトトス

羽太氏ヨリ電話 三島へ送ッタゴム三十五歩デ三ツニ切レタトノコト スグ姫路製紐へ電話スル 代品送ルトノコト 財務出張所ヨリ二名來 種々懇談ノ末三島ノ奨励金貳百円ヲ委任状ヲ渡シアト二月末百五十円 残り百円程ヲ三月二十日頃ト云フコトニ話シマトマル

▲▼31ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月25日(土)

天気 曇リ後晴

英国皇帝陛下御大葬

グライダー學校計畫書作製ス 安岡ニ一部渡ス

佐藤安岡羽田ニ出張 四百五十クランクケース下一個借りル

作業ノ分ハ返スコトトス

夜英国ヨリノ御大葬実況放送ヲ聞ク 先キノ御発引ノハヨク聞エタガアノウンスガヘタデアッタ アトノ十時半カラノ分ハヨク聞エナカッタガカンターベリー大僧正ノ声ハヨク聞キ取レタ

▲▼32ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月29日(水)

天気 晴

帝防へ行ク 清水氏病氣 和泉氏ニ會フ 午後三時カラ清水氏モ三木君ニ行クトノコト

同行スルコトニシテ局ニ行キ南波氏ニ八七発ノ検査打合せ 一日カ三日ニナル由

再ビ帝防ニ行ク 三木氏 一人清水氏ニ行クコトニナリ其間布ヤスリヲ買ヒ三神田迄行キツヒデニ佐藤ニヨル 明日依頼ノ品出來ル由 四時過ぎニ度帝防ニ行ク 三木氏ヨリ電話アリ 和泉氏ニ會ツテ呉レトノコトニ會フ 清水氏明後日出デ處置スルトノコト 金ヲ呉レルトノ意味デモナイ 和泉氏ノ口吻デハ清水氏ニ渡シテアルラシイ話シ。羽太氏ノ祝品ヲ持ツテ行ク予定ガダメニナル 止ムナク帰宅

▲▼33ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月30日(木)

天気 晴

在所 帝防和泉ノ電話ヲ待ツ 二三日後ニシテ呉レトノコト 昨日ノ話シト又延ビル

▲▼34ページ▲▼ 昭和11(1936)年1月31日(金)

天気 晴

六時半起床 七時半ノ自動車ニテ上京 大森小林氏ヲ訪問 丁度在宅 先ヅヨカッタト思ツタガ、金ニナラズ。瓦斯電ニ行ク 乗池ニ會フ 大低(ママ)大丈夫ト思ツタノニ 榊君ガマダ來ナイカラ後ニ電話シテ呉レトノコトニ帝防ニ行ク 清水氏マダ出ズ 正午 乗池ニ電話スル 榊君金ヲツクリニ出テ居ルトノコト 式時頃知ラセルトノコトニ局ニ行ク。南波氏今カラ津田沼へ検査ニ行クトノコト スグ工場へ電話デ知ラセテ居ク。プロペラノ検査標ヲ写ス

片岡ニ會フ プウノ試験ニ霞ヶ浦へ行ク由

式時帝防ニ歸ル 乗池ヨリ電話ナク三時頃懸ケタガ乗池君居ラズ 四時過ぎ迄待ツタガ、ダメ。帝防ハ三日ニ清水氏出テ來ルトノコトデアッタガ、明日何ントカスル様依頼シテ帰宅。奈良原氏ニ寄ツテ歸ル

▲▼36ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月1日(土)

天気 晴

税金ノ爲メ三島ノ写真マダ來ヌノデゴムト共ニ送ツタカ返信料付ニテ清水ニ聞合セルゴムヲ日ヘ送ツタトノ事ニテ写真ノコトハ返ナシ

朝鈴木菊ヲ呼ビ三百円融通ヲ依頼シタガダメ 今日學生ガ金ヲ持ツテ來ル筈ダカラ來タラ五十円且三百円ヨコストノコトデアッタガ之レモダメ。作業へ電話カケサセル後 桂林來 六日ニイクラカ持参スルトノコト 乗池朝向カラ今日ハ多分出來ルカラトノコトデアッタノニツヒニダメ。帝防三木氏ヲ呼ンデ話シタガダメ。一錢モ這入ラナイ 止ムナクランクケースノ破レタノヲ猪又ニヤツテ二十二円余リヲ得米屋ニ支拂ヒヲナス

信太郎二帰途佐藤へ寄ラセルベク學校へ電話シタガ居ラストノコト 午後又懸ケタガ居ラズ 夜ツヒニ時間中洋服注文ニ行ツタトノコト 信用ノ出來ナクナッタノヲ悲シム
河村要二來 夕食ヲ共ニス
祝金二〇〇円三島グライダー分委任支拂

◆◆37ページ◆◆ 昭和11(1936)年2月2日(日)

天気 晴

寒風強シ 又海氷ル

破レタ克蘭クケースヲ賣ツテ米代ト少シ作ル 河村二五円餞別ヲヤル 満州へ入営スル
ノダソウダ

午後山崎氏來 夕食ヲ共ニシテ帰ル 本年次ギノ仕事ニ一人乗機ヲ作ルコトニ決定ス

◆◆38ページ◆◆ 昭和11(1936)年2月3日(月)

天気 晴

今日カラ風止ム

乗池へ手紙出ス 午後帝防電話シタガ清水氏マダ出ズ又明日トノコト

朝手紙デ午後カラ高崎航空会ノ理事操縦士三名デグライダーノ件デ來ルトノコトニ
待ツタガツヒニ來ラズ

今日又佐藤ガ二三円入ルトノコトニ古鉄ヲ出スコトニシテ十五円ヲ得 鈴木伊午後ヨリ
無断居ナクナル 金ヲヤラナイ爲ラシイガ不都合千万デアル

◆◆39ページ◆◆ 昭和11(1936)年2月4日(火)

天気 曇後雪

午前鈴木昨日ノ不都合ヲタシナメル 後所長室ニ來 右ハ当然ノ處置ナリト主張シタ
ノデ、考ヘ方ノ不都合ヲ話シタルモ分ラズ 進退ヲ考慮スル様注告(ママ)ス 奈良原氏
來 食後同道ニテ帝防ニ行ク。先ヅ東日二十年度飛行報告ヲナシ、羽田へ送ツタ灰色塗
料ノ金二十二円ヲ請求 二十円受取ル。グライダー學校ノ設立計畫書ヲ見セ考慮ヲ
依頼ス。カタログ稿(ママ)正ヲ印刷屋へ渡ス

帝防ニ行ク 清水氏帰ツタアト 奈良原氏清水ト會見ノ結果貳百円ノ金ハ事ム所ノ支
拂ニ費消シタトノコト 尚明日内務省ニ出頭 午後三時津田沼へ電話スルトノコトデア
ツタ。吹雪ハゲシク、佐藤ニヨリ買物シテ浅草橋駅へ六時頃ツイタガ電車ハ僅カニ一車來
タノミ 人ハ山ノ如クニ居ルノデ、アキラメ待ツ間近所デ夕食ヲ取ル 十時近ク駅ニ行
ク 大変スイテ居タ 十時半頃ノ電車ニ乗ル 十二時近ク漸ク船橋ニツイタガタクシー

モ動カズツヒニ駅前ニ泊ル

▲▼40ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月5日(水)

天気 快晴

ヒサノ妹キヨヲ羽太氏へ女中ニ貸ス爲メ鈴木ニ同道サセル 警視廳、協会、局、帝防へ寄ラセル

電話線切れ終日復旧ヲ見ズ

初発バスニ帰宅ス 案ジタ工場ノ屋根ハ何ントモナカッタ

午後多葉式翼組合セ方ノ考慮ヲナス

▲▼41ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月6日(木)

天気 晴

昨日帝防ヨリ五十円鈴木受取ル 第一ヨリ十円 猪又ヨリ拂下五十円受取り大工其他ニ小遣ヲヤリベニヤ板ヲ取ツテ残り少ナシ

帝防ヨリ九州飛行ヤルニツキ明日來テ呉レトノコトデ奈良原氏ニモ其旨打電ス。ガソリンハ金曜日晝頃持参スルカラ買ツテ呉レトノコトデアッタ

明治神宮ノ懸リ物今日持ツテ來タニハ驚イタガ丁度金ガアッタノデヤル

町税整理委員來 今月中ニ約半分 來月残りヲ支拂フコトナル 合計弐百七十余円アリ

沢柳氏ヘシプシートプスモスノ圖面譲リ受ケ方交渉ス

▲▼42ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月7日(日)

天気 曇リ小雪

帝防カラ來テ呉レトノコトニ上京 行違ヒ三木氏ガソリン代五十円持参ス 丁度正午着 一時過ギ清水氏來 奈良原氏ト協議 飛行予定表ヲ作製ス 内務省大乗氣ニテ二千五百円位出ル由 四時東日ニ行キ乗池ニ電話シタガ居ラズ。五時辭シテ歸ル

▲▼43ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月8日(土)

天気 曇リ雨雪

八七完成検査坂本石田両氏來場 雪マジリノ雨ノ中ヲ飛行シテ無事終了 ガソリン三木氏ツヒニ來ラズ カロウジテ終ル

晝食余り寒イノデ昨日東京デ買ッタ牛肉デスキ焼ニスル 大分氣ニ入ッタラシカッタ
奈良原氏來場

猪又ノ計算全部終ル 結局二百円ト此間ノ三十円借りトナル 帝防ノ肅撰飛行ニ金三
ナリソウナ處カラ佐藤行キタガル 安岡ト想(ママ)談ノ上モングースソレ迄ニ間ニ合セテ
居ケバ行ッテモヨイ事トス

▲▼44ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月9日(日)

天気 曇小晴

工場休 清平夕食後帰ル 廿一日広子ノ結婚式ニ歸リタイノデ旅費十五円 外ニ小
林サシ返ス金十五円ホシイトノコト 困ル時ニヨワッタヤツダ 大坂ハ少ナクトモ五十
円位ハヤラナクテハナルマイシ閉口

午後中格納庫ヲ住居ニ改造圖ヲ設計ス

帝防ヨリ今日ノ朝日ニ又日経デ出ルコトニナッテ帝防デ出ル様ニナッテ居ラナイカラ、
ガソリンガ貰エズ明日ノ飛行ハ取ヤメルト云ッテ來タ。実ニケシカランコトデアル
タ方加藤氏ヘヤリ廿五円受取ル 早速千葉ノメッキ取りニヤル

▲▼45ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月10日(月)

天気 晴曇夜小雪

鈴木ヲ局、警視廳、協会帝防ニヤル

埴山早朝來 羽田ヘプウヲ見ニ行ク由 瓦斯電ヘ寄リマグネト一貰ッテ來ル様話ス

鈴木夜九時頃帰ル 帝防明日ドウシテモ出サヌ由。

午後住居ノ設計稍ヤ完成セルモノヲ得 千二百円デ出來ソウデアッタ

▲▼46ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月11日(火)

天気 曇後晴

七時半安岡埴山ト相談ノ上ガソリンヲ心配シハ七出スコトニ決定ス 九時前奈良原氏
來 準備オクレル 汐モ今日ハ昨日ノ予定ヨリ遅ク十時半出發トキメル

十時ヨリ建国祭典ヲ上ゲル 奈良原会長ノ発声ニテ万歳三唱

十時五十分飛行機出發ス 八七プラグ悪クナリ中止サセル 十一時四十分帰着 晝
食ヲ奈良原安岡梅沢埴山ト共ニス

税務署ヨリ來 五円余リノモノ明後日持参サセルコトニ約束ス

▲▼47ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月12日(水)

天気 晴

待チニ待ツタ練習生今日入學ノ事ト期待シタ處朝九時頃電話ニテ今日ハ行ケナイ十八日頃ニ行クトノ知ラセ。今日ノ入學金ヲクラブデモ工場デモ如何ニ待ツタカソレガフイニナツテガツカリハヨイガスグ米代ニ困ル 大工ニモヤラネバナライノヲスベテ延バシ米代ダケ埴山ニ猪又デ借りサセル

タ方平松氏ニ今日完成ノ予定ト尚多少先キ借リノコトヲ依頼ス

横濱ノ渡辺來 神奈川縣ノ撰舉肅正飛行一回五十円デ三回頼ムトノコト アンリオカ、八七ドチラカラ使フコトトシテ飛行場ヲ見ニ安岡行ク

◆◆48ページ◆◆ 昭和11(1936)年2月13日(木)

天気 晴上天気

カウスボタント金属ペラ一本猪又ニ出スコトニシ家内ノ方ノ無儘五十円借リサセル 晝迄三間ニ合ハズ内十五円ダケ猪又ヨリ受取り税金ヲ五円四十錢ヲ支拂ヒ上京 帝防ニ行ク 石田氏來ラズ 奈良原氏ニ依頼シテ東日ニ行ク 四時頃漸ク羽太氏ニ會フ。ソレヨリ先キ清水君ヨリ羽太氏ト福知氏間ニ間隙ヲ生ジ、グライダーニ關シテ羽太氏今ノ處何シニモシナイトノコトニ、今日ノ用件中材料代ノ件ハヤメテ洲崎ノグライダーヲ津田沼へ運ブコトノ諒解ダケ得ル。帝防ヲ奈良原氏日ニ來 富田氏ノ代理ガ來タトノコト。トイフエル八百円ト予定シテ半分出サセルコト 協会奨励金ノ外ハ工場ニテ援助スルコトニ話シタ處大變ヨロコビデ行ツタトノコト

帝防ニ歸リ岡田氏ニ會ヒ今月中延バシテ貰フ様ニ話シ眞中板ヲ買ツテ歸ル

◆◆49ページ◆◆ 昭和11(1936)年2月14日(金)

天気 晴

午前帝防ヨリ飛行決定シタカラ奈良原氏ト來テ呉レトノ電話アリ 市川ニヨリ共ニ上京ス 内務省ヨリ五百円 聯盟ヨリビラ代トシテ四百円デルダケトノコトニ決(ママ)局飛行士ノ報酬貳百円ニテキメル 各方面ノ手續キ準備ヲナシ七時半奈良原氏ヨリ一足先キニ帰途ニツキ漸ク終自動車ニ間ニ合フ 乗池へ電話スル 十六日來ル由

◆◆50ページ◆◆ 昭和11(1936)年2月15日(土)

天気 晴暖

広島着陸ノ爲メ練兵場ノ使用方局カラ打電シテ貰フ爲メ九時ヨリ上京 其前安岡ト打合セ 工場ハ今村ニ云ヒ付ケ鈴木伊ヲ千葉鈴木ヘ家ノ仕末ヤ協会ノ金ノ件ニテ出張

サセル

局ニテ井上氏ニ広島ノ件依頼。安岡不在ニツキ十八日検査ニ三式操縦ヲ埴山ニヤラセルベク拡張ヲ認定デ貰フコト諒解ヲ得 佐々木泰助ノアブロ経歴ヲ調査ス

十一時帝防ニ行ク 奈良原安満中将来 村升ニテ中食 終ッテ安岡ノ報酬ノ内半額百円ト準備金五十円受取リスグ買物ヲシテ帰場。三式廻ラズ九時迄夜業シタガダメ 佐藤出張ヲ中止サセル

▲▼51ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月16日(日)

天気 曇リ後晴

七時半安岡江戸川ニ行ク 自分ハ仕事ノ事ヲ差(ママ)圖シテ後洲崎ヘグライダーヲ取リニヤッタトラックニ乗ッテ行ク

中央氣象台デ天候ヲ聞クト中部日本ハ全部快晴トノコト 型ノ如キ出発式アリ協会ヨリ井上少将来場 中央肅正聯盟ヨリ数名來 十時三分離陸 午後二時五十五分大坂ニ安着ス 広島ノ許可モ出タトノコトニ明日ハ予定通り出発來ル 出発後奈良原氏ニ注意シテ清水氏ヨリ大貫伊藤氏ニ地代ノ話ヲ諒解求メサセテ帰ル 瓦斯電ヨリ計器來

三式本日モ廻ラズ

▲▼52ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月17日(月)

天気 晴

三式今日モツヒニ廻ラズ 結局カーブレーターノガソリン不足ト決定シタガ明日ノ検査見込ナク局ヘ電話シテコトワル

近藤少佐ニホールスコットニサイクル寄贈ノ手紙、大蔵其他式三手紙出ス

平松來 鋳力屋ガ丁度帰ッタアトデアッタノデ馬鹿見タ

朝加藤氏ニ電話シタガダメ 猪又ヨリ二十円借り檜材ヲ引取りサンソヲ取ル 昨日小田原在ニ不時着ノアンリオ無事帰還ス

武中、島ニグライダー學校ノ件話ス

▲▼53ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月18日(火)

天気 晴

奈良原氏來

新入學吉田君來 之レデクラブヨリ百円入り、塗料ヲ取リタカッタガソレデハドウニモナラナイノデベニヤトワイヤーダケ取り家庭持チニ五円ヅ、分ケル

安岡広島着 発故障ニテ広島泊リ
三式少シ廻ル様ニナッタガ八百廻轉以上出ズ

◆▼54ページ◆▼ 昭和11(1936)年2月19日(水)

天気 曇リ

福知氏ニ挨拶ノ爲メ上京 先ヅ羽太氏ヲ自宅ニ訪問 聯盟ヤ社ノ方針ヲ大体伺ヒ共ニ
航空局ニ行ク 福知氏モ來局サレ挨拶ス 社道同道シタ。羽太氏ノ話シデハブレタラジ
プシーモスヘライアンノライトデ何ニカ作ルダケノ予算ヲ三万円弱アルラシイ ジプシー
ヲ最(マ)非ニト羽太氏ニタノミ居イタガ福知氏ニ話シソビレタガ今日日本飛行機へ
行ク予定トノコトデアッタガ竹崎氏死亡ノ爲メ行カナイラシイ

帝防ニヨリ安岡鳴尾ゴルフリンクニ不時着ノ報ヲ聞ク 機体無事 和泉氏ヨリ十五円
受取ル

帰途買物シテ帰ル 八時着 安岡主ノカムギヤー破損ノ由 佐藤ヲ呼ブ 其儘直セル
トノコトニ堂ビルホテルニ電話シタガ居ラズ 大蔵へ電話シタガ大蔵モ不在 一所ラシイ
ノデ成ルベク直シテ帰ル様事傳ヲ頼ム

◆▼55ページ◆▼ 昭和11(1936)年2月20日(木)

天気 晴風

安岡帰ル カムギヤー下ノ方デアル爲メ分解セネバナラヌトノコト

三式廻ラズ 佐藤出張不可能 三式出來ルマデマセルコトニス

帝防ニ対シ決算書ヲ作り安岡上京ス アト貳百円近クアリ安岡ノ分百円

伊藤昨日休ンデダメデアッタノデ更ニ今日ヤル。早く帰ル様云ッテ居イタニ夜ニナッテ
モ帰ラズ

◆▼56ページ◆▼ 昭和11(1936)年2月21日(金)

天気 晴

加藤氏ニ電話シタガダメ。安岡帰ラズ 帝防へ電話スル 昨日安岡ノ分四十四円ダケ
渡シタトノコト 奈良原氏居ラレタノデ苦境ヲ話ス

鈴木晝頃ヨリ正憲ノ協会ノ金受領ノ爲メト母ニ家ヲ明ケサセルノニ出張ス

瓦斯電ヨリ金呉レルトノ電話アリスグ上京 三時ツク 全額貰フ 羽太氏ト一所ニ話シ
ヲ聞キタイトノコト 羽太氏丁度羽田ニ居ルトノコトニ行ク。津田沼へ電話スル 三式千
五百五十廻轉出タトノコトデ一安心ス
プウノ製造機ノテストヲ見ル

悟空林ニ行キ八時頃迄会食 別ニ大シタ話シモナク披露ノコトダケデアッタ 帰りノ自動車中ジプシーノコトヲ聞ク。一万円予算ガアリ注文呉レルトノコト グライダーモ二台乃至三台以上六作ル由

▲▼57ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月22日(土)

天気 晴

昨日ノ記事ハ本日ノモノナリ

▲▼58ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月23日(日)

天気 雪

今日ハ晴レトノ予報ガ朝起キテ見ルトスデニ一二寸積モツテ居テドン、降り午後ハ二三時間雨ニナッタガ又雪トナリ夜ニ少シ風モ加ワル 一尺以上積ル
昨日ノ金ノ内少シ皆二分ケ、牛肉ヲ買ツテ來タノデ伊藤、太田、布施二分ケテヤル

▲▼59ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月24日(月)

天気 曇リ

帝防今日金ニナル予定ナノデ午後カラ上京 スグ帝防ニ行ク 清水氏居ラズ 東日ニ行キ局ニ電話シテ三式ノ検査ノ件聞ク 明後決定シタイトノコトニ其旨羽太氏ト乗池氏ニ通知スル。五味印刷出來タトノコト 津田沼へ送ル様清水君ガ話シタ由 ニューム板ヲ買ヒ三河へ五十円内拂ヒス

帝防ニ再度行ク 今日モ内務省金ニナラズ 明日モアブナイラシイ 尚明日午後五時ヨリ飛行館デ飛行報告ノ披露会ヲヤル由

今朝日本塗料入金ニツキ水野辨ゴ士ヨリスグ送金セネバ手續キスルトノ電報ニ対シ今一度木下氏ト相談スルコトノ依頼電報ト手紙ヲ出ス 木下氏ニモ出ス 朝日ニヨリ河内君ニ會ヒジプシーモスケッチノ件依頼ス 中野君明日帰ルカラ同君ニ相談シテ呉レトノコトデアッタ

▲▼60ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月25日(火)

天気 晴

午前中在所 斎藤國松ノ母ニ対スル支拂依頼書ヲ受取ル 菊池へ援順ニテ金渡ス旨打電ス

午後ヨリ上京 小カイ買物ヲナシ協会ニ行キ小野氏ニ長山ノ件依頼シテ居ク 兎三角

願書出シテ呉レトノコトデアッタ

帝防ノ飛行晚餐会 内務省、聯盟ヨリ來 六時半頃ヨリ初メ八時終ル 安岡 佐藤、
ニ清水氏ヨリ四十円受取り渡ス 清水・和泉両氏共上気(マ)嫌デアッタ。コンナコトデ
ハ仕方ガナイガ

カタログ十冊ダケ受取ル 皆來会者ニ分配ス

大貫氏奈良原氏ト同道シテ帰ル

▲▼61ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月26日(水)

天気 薄曇リ雪

時事 斎藤内大臣岡田首相高橋蔵相即死 鈴木侍従長重傷

朝チラホラシタノガ大雪トナリ終日降り夜ニ入ッテ止ム 十センチ程ツモル
局ト帝防長山君ノ協会ヘノ願書ノ件ナドデ上京 浅草橋下車 円タクヲ拾ッテ局ヘ行
ク 運轉士ハ今日ノ出來事ヲ御存ジデスカトノコトニ聞クト大クーデターガ行ワレ首相
蔵相内相斎藤實ヲ重臣ガ多数殺サレタトノコト。半信半疑デ局ニ行クト事実デアッタ
帝防ヘ電話スル 清水氏居タガ其爲メ内務省ノ金モ取レナイトノコト 宮城前ハ鉄條網
ヲ張ッテ機関銃ガソナエラレテ居ルトノコト。日日ニ行ク ドコモ仕事ナドシテ居ナイノ
デ日日デ様子ハ聞キネガノマヽノ少シノ活動写真ヲ見タ イソイデ帰途奈良原氏ニ報
告シテ帰宅 終業後工場員全部ニ流言ヲツヽシム様警告ス
放送モ全部取ヤメニナリ○時ニ東京警備司令部カラノ警戒ニ関スル放送ガアッタ
青年ノ将校ノ行爲ト云フコトダケ分ッタ

▲▼62ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月27日(木)

天気 薄曇リ

辻本坂本氏來 三式検査終了シタガ一番シリンダー油漏ルノデ取替エルコトニナリ不
合格。クラブアンリオ内部、相羽ペラ、ソアラ―胴体終ル

奈良原氏來

鈴木帝防ヘツキキリデ金貰フ様ニヤッタ 午後電話デ話シタガダメラシイトノコト
安岡ヨリ金ナクテ仕事ニナラストノコト
カタログ到着ス

▲▼63ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月28日(金)

天気 雪

時事 反軍ハ麻布三聯隊ノ二箇大隊ラシイ

今日モ又終日雪

飯沼ニ電話シタガ要領ヲ得ズ 雪ノ中ヲ行ク 行ツタガモングースハ何シモナク失望。
渡辺一英君ト會ヒ同行シテ機関學校ヲ見ニ行ク 事ム所教室ニ階建一棟ト二百坪余
リノ鉄骨ノ工場トガ出來テ居タ 發動機ハ相當アツタ 學生ハ今四五十名ダトノコトダ
ガマダ正式ナ授業ハシテ居ラナイラシカッタ
帰途タクシーデ來タガ帟ノ門附近カラ芝田村町五丁目位カラ交通停止デ飛行館ニハ
這レナカッタノデ新橋ニテ乗車 日日ニモ寄ルコト出來ズ帝防ニ行 奈良原氏ト會フ
五時頃迄居テ帰ル 清平ニ會フ。内務省ハ近ヨルコトモ出來ズ金ニナラズ
夜安岡ヨリ又電報ニテ金ナクテ困ルトノコト

▲▼64ページ▲▼ 昭和11(1936)年2月29日(土)

天気 曇リ

時事 反軍帰順ス 岡田首相生存セリ 松尾大佐代ッテ死ス

今朝五時半ヨリ通信機関交通機関停止サル

天皇陛下ノ勅命ヲ奉ジ戒嚴司令官ヨリ帰順ヲカン告ス 午後二時迄ニ全部帰順 一
発ノ銃声モ聞カナカッタコトハ上出來デアッタ 夕方ヨリ全部旧ニ復ス 岡田首相ハ生存
シ死体ハ岡田首相ノ義弟松尾大佐デアッタノハ意外デアッタ

野呂君ニ電報デモト思ツテ居タラ丁度來テ百円呉レタノデホット一イキシタガ正憲ノ
母ヲ移轉サセル爲メ鈴木ト大ロヤル 午後奈良原氏へ五円持参。午前安岡へ二十円
ダケ電送ス 結局夕方保健署ノ又ウルサイ奴ガ來テ五円ダケヤル

祝金一五〇

今井好房三〇〇

今井分ソアラー奨励金

▲▼65ページ▲▼ 3月

ソアラー完成

平松機イソグ

アト注文グライダート大毎機契約ヲ進メルコト

▲▼66ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月1日(日)

天気 曇リ晴

九時近ク迄寢ル

今月中二大毎機契約ヲシタイモノニツキ準備ヲナスコト

氣ニ掛ル日本飛行機塗料ト姫路製紐、佐野ノ小切手等アレドモ何ントシテモ塗料ヲ取ツテ平松機ヲ仕上ゲル必要アリ ヲレ連ハソノ金ノ這入ル迄ハ何ントカ引延シ策ヲ講ズト云フヨリ打ヤツテ居クヨリ外方法ガナイノデ度キヨウヲ極メルト安心ガ出來テヤ、ノンビリシタ氣持ニナリ午後獨リデ暮ナドヤル

鈴木京(ママ) 引延シノ爲メ安元、片岡二人大口ニツケテヤル 随分キタナカッタソウダ

夜清平來 泊ル

▲▼67ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月2日(月)

天気 雪後晴

朝カラ雪 晝頃迄降り後晴レタ

鈴木ヲ帝防ヘヤル

安岡ヨリ手紙來 アトマダ百円入ル由

今夜ハ家内ガ馬鹿ニ酒ヲノマセタノデイツモヨリノミ過ギタ

▲▼68ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月3日(火)

天気 晴

帝防自分ハナセナイノデ今日モ無イ金デ旅費ヲ作り鈴木ヲヤッタガ夜宅迄聞キニヤツタガツヒニダメ 明日ハヨカロウトノコト

奈良原氏來 終日居ラレル 竹崎君來

明日奈良原氏モ帝防ヘ行クトノコトニ依頼ス

安岡ヨリ又電報ガ來タノデ晝頃大坂ノ大毎格納庫ニ電話ヲカケ藤原ニ行キ金ヲ取ル様話ス

三嘴來 十年式ガホシイトノコトニ野呂君ヲ呼びニヤリ話ス 三嘴千二百ツケ野呂君千三百五十円迄下ゲ双方考ヘルコトニシテ分レル

▲▼69ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月4日(水)

天気 晴

鈴木ニ今日モ帝防ヘヤル 奈良原氏モ行ク筈

六時起床 モングースノシリンダー取替ノ爲メト下見ニ霞ヶ浦ニ行ク 井上氏ト同車ス 木暮及一名オソク一汽車待ツ 午前中ニ下見終ツタガシリンダーハ皆新ラシイ、タイプノモノノミデナカッタ 古川ニテ晝食後二時ニテ帰ル 作業ニ寄ル 妻君風デ寢テ居タ

奥山君居タガ大工ガ來テ居テ之レモ金ノ話シラシク帰電話ヲ借りテ第一へ明日ハ行ク様話シテスグ帰宅

夜九時頃鈴木來 今日モダメ 今週中ニハ出ル筈トノコトデシタトノコト。明日横須賀へ行ク様ニシ帰りニ寄テ上ルコトトス

▲▼70ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月5日(木)

天気 薄晴

横須賀へ鈴木出張サセル

平松氏來 三百円内入 信太郎ノ學費ト女工デ百円消エル

奈良原氏來。竹崎君來場

名古屋水野氏ヨリ十日迄二百円送金セヨトノ手紙來

佐野ヨリ小切手入金シタカトノハガキアリ

作業へ手紙持ッテ使ヲヤッタガ後電話スルトテ其儘トナル

帝防五十円ダケ送金シタル由

▲▼71ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月6日(金)

天気 曇小雪

風気味ガ直ッタラ例ノセキデ今朝五時前セキコンデ上ゲテカラ胃ガ変ニナリツヒニ床ニツク 物ヲ喰トヤ、ヨイガ空腹ニナルト上ゲソウニナル 夜迄ツゞク

安岡ヨリ電報アリ 五十円來タガ帰レヌトノコト

夜新世界へ電話スル 恵美須町ノ方ヘタ方三人來タトノコトニ明朝六時津田沼へ電話スル様タノム

今日モ帝防へ鈴木ヤル 今週中ト云フノダカラ今日ハヨカロウト思ッテ。外局長山

▲▼72ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月7日(土)

天気 曇リ

鈴木帝防へヤル

八時頃駒林氏來 平松機。ラト脚支柱一本、アンリオ尾翼一枚内部検査ヲ終リ十一時頃帰ル

午後ヨリヒサヲ羽太氏へ連レテ上京 奥サンモ留都(ママ)デアッタノデキヨト一所ニ居イテ東日ニ行キ羽太氏ニ報告 乗池君ハ電話シタガ居ラズ 五時迄待ッタガツヒニ電話カ、ラナカッタ。吉原君ニ電話スル モングース新品バカリダトノコト シリンダーノ予備ハナイ由。朝日ニ一台アルトノコトデアッタ

之レヨリ先キ朝日ニ中野氏訪問。シプシーモスノ件 朝日デハ整備シナイカラ呉レテモヨイトノコトデアッタガ兎ニ角借リルコトニシテ來週中ニ貫ヒニ行クコトス

▲▼73ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月8日(日)

天気 曇雪

吹付屋來タガ遅カッタノデ尾翼ダケシカ出來ナカッタ 光沢ガ全然ナイ。説明書ニヨルト二%アセトント入レル筈ガ二十乃至三十%入レナケレバ出來ナイトテ薄メテ居タノデ其爲メカト思ワレル

奈良原氏十一時頃來 午後清水山崎來 夕方利根川氏來場 利根川氏何シノ話シモナカッタガ多分練習場ヲヤル諒解ヲ求メニ來タモノト思ワレル

安岡へ手紙ト電報ヲ打電ス 返電ナシ

鈴木昨日二十円送金セズ自分ノ支拂ニ當テタル由 帝防ハ勿論送金セズ

▲▼74ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月9日(月)

天気 小雪晴曇

局ニ出頭 シプシーモスニブレダノ發動機取付ル事諒解ヲ得 駒林、石田兩氏。帝防ニヨル 清水氏未出勤 奈良原氏ニ會フ 東日ニ行キソガオープライマリー修理ノ材料代ダケ持ッテ貰フコトヲ依頼シ金額ヲ出ス 百七十五円也 大坂へ照介(ママ)スルトノコトニ明日ヲ依頼シテ朝日ニ行キ中野、河内氏ニ會ヒモングースノ件交換方依頼ス 再ビ帝防ニ行ク 五時迄待ツタガ帰ラズ。清水君來 今夜山崎、利根川氏ト會ッテ呉レトノコトニ飛行館デ會フ 会食ス 又七八月ノ提案ハ利根川君ノヤルクラブニツイテ諒解ヲ得タイ希望デアッタ 清水君ハソレヲ僕等ガ氣ヲ悪クスルダロウト心配シテ居タラシイ。ソナ考へ更ニナイノデ皆嬉(ママ)ンデ分レル 十時帰宅

▲▼75ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月10日(火)

天気 晴

昨夜帰ツタが大坂カラ何ニモ知ラセナク早朝兄ノ宅へ電話ヲカケタガ持チ主ナイトテカハラナカッタガ見レバ自分ノ机ノ上ニ二人汽車デ帰ルカラ金送レト來テ居タ。上京先ツ帝防ニ行ク 奈良原、玉置兩氏居タ 清水氏マダ來ラズ 東日ニ行ク 五時前グライダーノ材料費百八十円受取リスグ中央郵便局へ行ツタガ時遅ク爲替出來ズ 水野へ明日五〇オクルアト四五日延期ヲ依頼電報ヲ打ッ 帝防ニ行ク 通知書ガ行ッテカラ取りニ行カネバ受領出來ナイトノコト 昨日ハ電話ヲカケルカラコイトノコトデアッタ由ニ聞テ居タガドンナコトナンダカ。後チ清水氏來。昨日ノ電報ニ対シ送金ノ事アリガソ

リンノ無イト云ッタコトニツキ安岡ガノンデ仕舞ッタノダロウトカ雲助式ダトカ悪声ヲ和泉氏カラ聞カサレタガ結局佐藤ダケ早ク帰ル様打電 三木氏ニ立替サセルコトナ
ル

帰宅シタラ四時半頃 八七飛ンデ帰ッタ由

▲▼76ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月11日(水)

天気 晴

安岡ヨリ報告ヲ聞ク 全部勘定ハ支拂ツテ來タトノコト 五十円ヲ菱川カラ 百二十
円ヲ兄カラ借りタトノコト 兄ニヨク金ガ出來タト思ツタ 帝防へ同道 途中奈良原氏へ
報告ニ立寄ル 清水和泉氏ニ報告 昨日ノ馬鹿々々シイ口論ハタエテシマウ。今日モ金ニ
ナラナイ由ダカ、ナントナクアヤシイ氣持チガスル
朝日ニヨッタガマダ小林君ニ相談シテナイトノコト 菓子ヲ一折持参ス 帰り買物ヲナス
今朝水野へ五十円送金ス
右デ昨日ノ金全部ナクナル

▲▼77ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月12日(木)

天気 薄曇夜雨

帝防へ安岡ヲヤル 夜ノ木曜会ニ安岡出ルコトニ自分ノ意見ヲツタエテ居ク
拂下通知アリ 自動車ヲ賣レタカ外ノモノハ何ニモナカッタ。三百ノシリンダーケースト、
四五〇ノシリンダーダケアッタノデ猪又ニヤルコトニシテ三十円話シ明日ヨモストノコト
ニキメル

鈴木ノ報告ニ鈴木正憲ガ又借りシタ八百屋ニ進メラレテ過日協会カラ貰ッタ五十円ヲ
横領シタト警察へ告訴シタ由 馬鹿々々敷シクお話ニナラナイ。安岡ノ話シデハ藤原モ
話シガアルカラトテ金ヲヨコサナイトノコト。人ノ世話モモウ止メニセネバナラナイ

▲▼78ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月13日(金)

天気 曇り雨

安岡帰ラズ テッキリ昨日金ヲ貰ツテ帰ラナイモノト思ヒ、午後鈴木ヲ上京サセル
午前グライダーノ羽布ヲ断チ午後グライダー 軽飛行機ノ性能表調査ヲ行フ

▲▼79ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月14日(土)

天気 晴

二三日前カラ南風トナリ温カク急ニ草ガノビテ來タ

朝内務省ヘ電話デ聞カセル 奈良原氏モ來 四五日前ニ支拂ツタトノコト晝頃分ル 奈良原氏スグ上京ス

夜同氏宅ニテ話シヲ聞ク 清水氏ニモ金ハ見セズ 和泉氏ガ事ム所ノ支拂ヲシテアト百五十円程 残りハ和泉氏ノ立替ニ取ツタトノコトデアッタ。明後日午後一時カラ集ッテ善後策ヲ協議シタイトノコト 自分ハ行カナイト事ワル 何ニモ行ク必要ハナイカラ 八時半ノ終自動車ニテ帰ル

練習生佐藤ヨリ五時間分入レル 之レデ明日ハ一寸シノゲル
清平來

▲▼80ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月15日(日)

天気 晴

南風後止ム 奈良原氏竹崎氏來 八七何ントカ買フ様イタシマストノコト 價千円。安岡菅井ヘ行ク 午後電話アリ 千円以下デ賣フナイコト 今夜身延ヘ場所ヲ見ニ行ク由 埴山ニ免状写シト堪航証写シヲ持ッテ來ル様トノコトニ持参サセル
市川椎名氏來 八十円請求アリ 廿五日迄ニ届ケルコトヲ約ス

清平夜帰ル

震災後家具デビドメニ会ワレタ浦尾ヨリ電話アリ 機械ノコトデ会ヒタイトノコト 十七日來場スル由

▲▼81ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月16日(月)

天気 晴

今日帝防ヘ奈良原氏行カレタガ局ノ拂下代金ダケデモ呉レタラト思ッテ鈴木ヲヤル 安岡昨夜身延ノ飛行大會ノ場所ヲ見ニ菅井ト同行ス

平松氏來ラズ

午後輕飛行機調査ヲナス

▲▼82ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月17日(火)

天気 曇後雨

平松氏貳百円持参 スグ鈴木ヲ上京 局ノ拂下代金納入 買物ヲヤル アト百円ヲソレ、小サナ買物 オオツタヤ工場ノモノニヤッタノデナクナル

佐々木泰介君來 アブロノ金請求シテ呉レトノコトデアッタ 安岡帰ラズ

町税徴収員來 平松機完成ノ上百五十円 アトグライダーノ金デ入レルコトニス

三日程前カラセナカガ痛ク晝ハサホドデモナイガ夜寢ルト反ツテ痛クナル様ダ 一向ナクナラナイノデヤ、心配ニナル 仁三郎寢小便ノ御灸ヲ一昨日ヤツテ貰ヒ昨日ハ宅デヤツタガ二日共夜ヤツタノデ今日又連レテ行ツタラ又数多クヤツタトノコトデモウイカナイト云ツテ居タ

◆◆83ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月18日(水)

天気 晴

奈良原氏來

検査官來場ノ予定ナリシモ第一ニテオソクナリツヒニ來ラズ グライダーダケ洲崎デ検査受ケルコトニス 清水君來タガタ方帰ル 明日洲崎へ輸送ノコト

練習生父伊藤氏來 入会決定

夜石橋帰場ス

明日羽田へモスツヒデニ取りニ行クコトニス

◆◆84ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月19日(木)

天気 晴

練習生伊藤ガ入会金ヲ入レル予定ニテ支拂ヒ方法ヲ安岡ト取キメテ居タ處タ方ニ到リ持ツテ來ルトテ金ヲ取りニ行ツタマ、國へ帰ツテ仕舞ツタトノコト 栄助、大工、大口ナド皆金ヲヤルツモリデ待タセテ居イタノダガダメニナリ事ウルノニ困ツタ 村山ダケ安岡ドコカデ金ヲ作ツテ來タノデ五円渡ス

明朝洲崎へグライダーノ検査ヲ受ケニ三人行カネバナライノデ困ツタガ之レモ安岡作ツテ來ルコトニナツテ風呂ニ入ル

グライダー洲崎へ送りツヒデニ羽田へ朝日ノモス貰ヒニ今村ヲヤル 四時頃帰ル 上翼一枚ダケデアトハ何ントモナカッタ

◆◆85ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月20日(金)

天気 晴

六時前起床肥田木斎藤ヲ連レ洲崎ニ行ク 九時検査終リ自分局へ西川氏向ニ行ク 石田氏ガ行ツタトノコトニスグ引返ス 晝迄試験終ル ソリーズバヅン器ウマク行ク。局ニ出頭 三時迄待ツタガアトデ堪航証貰ヒニヤルコトニシテ東日ニ行ク 大藏今日ロックヒードデ來タトノコトデアツタ。協会ニヨリクラブノ会合ニ出席

今日ハ割二人ガ多カッタ 高崎ヨリ重田氏モ來 競技会ノ予算ト実行方針定マル。後チ小栗君ノ茶房ニヨリアト田中ガ最(ママ)非顔ヲ貸シテ呉レトノコトニ行ク 工場ヲ合同

シタイトノコトデアッタ 考慮ノ旨ヲ答ヘテ帰ル 十二時半帰宅

◆◆86ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月21日(土)

天気 雨

菅井君來 安岡昨日會ッテノ話シニテ八百円内四百円内入 アト三ヶ月以内ニ支拂フ
約束ニテ契約書ヲ作り四百円受取り之レニ急場ノ支拂ヒヲナス
奈良原氏ニモ來テ貰ヒ右決定ス

大坂ノ兄ノ方ダケアト金マデ待ッテ貰フコトニシ見(ママ)延飛行機成ベク入金サセルコト
ニス

◆◆87ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月22日(日)

天気 晴

ウララカナ上天氣トナル

心持チニシタ大坂ノ飛行クラブノ人達ツヒニ來ナカッタ

丸山柴谷君ヲ連レテ來場 八七買ヒタイトノコト 一足オクレタガ丁度午後サルデ菅
井君來タノデ話ス 百五十位付ケテ呉レタラ賣ッテモヨイトノコト二千弍百円デ話シタ
ガ結局千百円デ買ヒタイトノコト 處ガ引渡シガ廿三日大會後ニシタイノガ先方ハ廿
五日ニ大坂ヘ飛行シタトノコトニテ、ツヒニ不調ニ終ル

◆◆88ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月23日(月)

天気 曇後晴

午後三時八七サル皇国飛行協會ノ名ヲ入レテ身延ヘ出發 四時半無事到着ス

平松氏來 村山大工明後日満州ヘ行クトノコトニ金ガ入ルノデ明日持ッテ來テ貰フコト
ニキメル。アブロニ次第二完成近ヅク。局ハ三四日後ニ検査ニ來テ呉レルコトニナル

仁三郎お灸アト一日行ケバヨイコトニナル 一昨日カラ夜起サナイノダガ、ツヒニヤラ
ナクナッタ 今度ハ徳次ノ手ガ、ナオルカ見テ貰ワセルコトニス

今日ハ終日大變氣分ガヨカッタ

◆◆89ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月24日(火)

天気 曇晴

朝丸山來 大坂カラ八七ノ出資者來縣シタカラ一昨日ノ條件ニテキメタイトノコト
スグ身延ヘ打電ス 安岡ヨリ承知シタ廿六日帰ルトノ返電アリ 丸山同道上京ス 大西

土地会社ノ人ニ會フ。千式百円デ契約書ヲ作り廿七日引渡しノコト 五百円内金受
取ル。仮譲リ渡し書ヲ作ル 丸山君ニハ千式百円ナラ、イクラカヤルコトニシ千百円ナラ
ヤレナイト話シテ居ク。七時半頃帰宅 東日ニモヨル 福知氏ニ會フ 安岡ノ札ヲ述ベル
又スパナ―問題ヲ聞カサレル

◆◆90ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月25日(水)

天気 曇リ

拂下引取りニ竹中大枝出張 大型ノトラックヲ持ッテ行ッタノデタ方自動車ヲ乗セテ
帰ッテ來タ 霞ヶ浦デハ雪ガ大分降ッタトノコトデアッタ 道理デ今日ハ中々寒イ
平松君來 百円受取ル 松岡氏ニ三日中ニ來ル由

奈良原氏ヨリ手紙來 身延ヘ行ク由 税金ヲ拂ッテ呉レトテ督促状ガ這入ッテ居タ
七円七十錢バカリ

徳次今日ハトイフェルデ式回練習シタ由

◆◆91ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月26日(木)

天気 晴風

北西ノ寒風強シ

午後三時過ギ音ガスルノデ出ルト帰ルマイト思ッタハ七トサルガ降テ來タ 風ハゲシク
サルノ着陸ハアブナカッタ

朝奈良原氏ヘ十円信太郎二届ケサセ、ゴム紐ヲ買ヒニヤル

練習生吉田ノ父來 二時間分ト三月十一日ヨリ四月十二日迄ノ食費会費一ヶ月分
受取ル

◆◆92ページ◆◆ 昭和11(1936)年3月27日(金)

天気 晴

平松改造アプロホボ出來ル 廻シタガ千回轉以上出ズ 夜業シテ小部分完成ニツトメ
サセル

銀行ヨリ二百三十円引出ス アト二十円残ル 八七ノ金五百円ナクナル 中台へ百円
安岡へ六十円 菅井ガソリン代五十円支拂フ

クラブ例会三三時ヨリ奈良原氏同道上京 洲崎へグライダーノ練習ヲ見ニ行ク アト
二回デ終リト云フ處デアッタ 例会ハ山崎、上原、清平、清水、高崎、衣笠、奈良原自
分 会則中AB会員改正ノ件ヲハカリ後チグライダー學校設立計畫書ヲクバリ資金ニ
ツキ借入レカ寄付カニツキ想(ママ)談シタガマトマラズ 突然ノコトデモアルノデ考慮ヲ

乞ヒ自分デ聞キニ行クコトニス

十二時帰宅 夜業丁度終ル處デアッタ

◆▼93ページ◆▼ 昭和11(1936)年3月28日(土)

天気 晴

辻本宮本氏來 三式一時間飛行シ油出ズ成績ヨキモ局へ帰ッタ上決定スル由。クラブローン同様内部終ル

平松機發動機廻轉セズ 重量ト重心點ヲ計リタルダケ

市川グライダー終ル

奈良原、椎名郡司氏來場

水野氏ヨリアト五〇円スグ送レトノ入電アリ

大坂大西土地金送レト打電ス 夜明朝行クトノ返電アリ 菅井ヨリ電報アリ 安岡夜行ク

◆▼94ページ◆▼ 昭和11(1936)年3月29日(日)

天気 晴

七時半頃大西土地ノ奥村氏ト阿部君來 昨日午後思ヒ立ッテ來タノデ小切手ダトノコト 七百元ノ大坂ノ小切手ナノデコチラデ取ルト遅クナルノデ八七デ安岡不在ニテ黒沢ニヤラセルコトニシ黒沢ニ小切手ヲ持タセテヤリ明日電送サセルコトトス。ガソリン代受取ル 電報電話料立替二三円トペンキヤノ金立替ル 午後一時十五分出発ス 五時廿七分木津川着

午前電話アリ 午後大坂ノ中山氏來 久シ振リノ來場ニ工場ヲ案内ス 西店主人ノ話シヲ聞ク 四十日バカリ米沢ニ行ッテ居ラレタトノコト 三時頃ヨリ成田山ニ案内シ歸リニ奈良原氏ヲサソヒ川甚ヘ夕食ニ行キ十時過ギ帰宅ス。鹿児島縣ノ川辺君ヨリ内田次郎墜落死ストノ電報ガ來テ居タ

◆▼95ページ◆▼ 昭和11(1936)年3月30日(月)

天気 晴風

又風強シ

税金問題ニツキ協会奨励金ニアテハメルベク鈴木ニ町役場ト縣廳へ出頭サセ諒解ヲ得鈴木正憲残リ二円五十錢(寄附ノ分)全部渡シニヤル

大坂ヨリ四百四十五円來 ペンキヤト電報料立替來ラズ

平松氏來 アト金全部ヲタノム 少シ引イテ呉レトノコト 結局松岡ニ使ワレタト云ッ

テ居ルガ自分デ使ツタラシイ様ニ思ワレル 明日晝局デ會フ約束ス
プロペラーニピッチ調ベヲ行フ アプロトサルヲ少(ママ)サクシー三分ピッチヲ増ス方針ヲ
取ル

菅井ヨリ電話電報ニテ請求來ル

▲▼96ページ▲▼ 昭和11(1936)年3月31日(火)

天気 晴北風寒

九時ヨリ上京 羽太氏訪問 モスノ件 昨日ブレダ破損シタル由 早ク作ルコトニナルダ
ロウトノコト グライダー製作ノコト 丁度手が明クカラト話シタガ予算ガ六月以後デ
ナイト金ガ出ナイトノコトデアッタ。同行シテ局ニ行ク

平松氏十分程前迄待ツタガ帰ツタトノコト 後電話アリ銀坐ニテ会見 百五十円受取
ル 一時半ノ桜ニテ熊本へ出發スルノデ見送ツテ帰ル。安岡ニ渡シタハ七ノ金菅井へ渡ス
内百五十円借りテ來タトノコト 大ニタスカッタ 保俵(ママ)署ト工場員ニ分配ス
市川ノ登録申請ヲナス 平松氏ニ會フ モングースヨサソウデアッタ

▲▼97ページ▲▼ 4月

ソアラ―完成

モス契約

グライダー注文取リ

グライダー學校

▲▼98ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月1日(水)

天気 晴

風ナク春日和

奈良原氏小供ヲ連テ來場 金エヲヤラセテ貰ヒタイトノコト ニヶ月程通ワセタイ様
子デアッタガ自動車賃ダケデモ七円余カゝルデ來テ貰フコトニシタ。夕方帰ラル 漸ク
五円シカ金ガ出來ナカッタ

平松改造アプロニ式ノペラニテ飛行シテ見ル 前后ハテールヲ一穴下ゲレバ丁度ヨサソ
ウデアッタ 三式ノペラニテ地上千八百 空中二千 水平飛行千四百乃至千四百五十
ニテ百キロ出ル 其旨スグ熊本宛飛行便ヲ出ス

今日ハ晝間カラ眠カッタ 夜早寢ス

▲▼99ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月2日(木)

天気 曇リ

アプロ改造。ラ千百四十ヨリ廻ラズアキラメル

信太郎ヲ相手ニ三式ノピッチ計算ヲナシ一米五百ノモノヲ作ルコトトス

信太郎モスノスケッチヲ初メテカラ物事ニ熱心ニナツテ來タコトハ大変嬉(マ)バシイコ
ノ調子デ進ンデ呉レタラ學校ヲ出ル頃ハ相當役ニ立ツ者ニナルダロウ

名古屋水野ヨリ四時午後二時迄ニ送金セヨトノヤカマシイ手紙來

▲▼100ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月3日(金)

天気 雨

終日降ル 夜止ミ夜中ヨリ風強クナル

奈良原氏來 學校ノ資金問題ニツキ相談シタガ全然相談相手ニナラナイ コンナコトニ
ナルト一人苦シマネバナルマイ

▲▼101ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月4日(土)

天気 晴

クラブデ廿五円金ヲ作ツテ呉レタノデ五円持ち上京 局ニ行キアンリオノ検査願書ヲ
出ス。明後日船橋ニ行クカラ一所ニヤロウトノコトデアッタ

南波氏ト東京駅迄同行シ東日ニ行ク ブレダ発多分無事トノコトデアッタ。明後日検
査ノコト工場へ電話ス。

上原閣下ニ相談スベク(學校ノコト)電話カケタガ変ツテ居テカ、ラズ 帝防ニ行キ八七
ノ計算書ヲ玉置氏ニ渡シテ居ク。帰途鳥飼氏ニヨル マダ何ントモナツテ居ナカタノデ
其儘引取ルコトニス 船橋第一ニ立寄り明後日ノ検査ノコトヲ聞ク 二台アル由 青木
氏休。丁度日本航空史ノ人が來テ居テツヒニ二十円デ買フ約束ヲナス。作業会社ニ寄
リ三十分程話ス。加藤氏帰ラナイデ弱ツテ居タ。帰宅 黒沢ヨリ明後日帰ルハ七賣リ
タシ外ニ買ヒタイトノコトデアッタ

▲▼102ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月5日(日)

天気 晴

クラブノアンリオダケ仕事ヲナス 松坂ト角。ペラモヤル

奈良原氏松山ノ加藤十郎氏同道來 八七ホシイトノコト 丁度黒沢カラ昨夜八七賣
ルトノ電報アリ 黒沢ノ帰ルノヲ待ッタガツヒニ來ラズ

児玉静治氏ノ友人児玉氏外式三人來 工場ヲ案内ス
ペラノピッチ計算ニ終日カル

明日エミ子ノパス徳次ノ本、ガ入ル處へ伊藤ト太田ガ昨日岡田ニ児供ガ出來タトノコト
ニ金ガ入ルノデッヒニラジエーターニケカバー一組ヲ出ス 三十七円五十余錢ヲ得テ
分配ス 明日ハ又水野ノ五十円ガ入ルノダガ

▲▼103ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月6日(月)

天気 晴薄曇

朝作業予定ヲ作り今村ニ渡ス 今村出勤オソクシカモ晝前ニ歸ル モスノ圖面急グコト
ヲ云ツテ居ク 国カラ人ガ來テ居ルトノコト。アンリオ見込書作製

船橋へ行ク 十一時検査官井上、木目田両氏來 アンリオ船橋ニ運搬シテ見テ貰フコト
トス 二時半終ル 井上氏同道ニテ三式ノペラ見テ貰フ 合格 之レデ昨日仕事ヲサセ
タ甲斐ガアッタ。黒沢今朝來 加藤氏同道上京シタガ午後奥村氏同道來 八七賣ルニ
ハ代リノ機体ガホシイトノコトデアッタ 結局奥村氏ト加藤氏同道下坂交渉ノコトニス
代機依頼ヲ受ケル ネピヤ改造ペラ予定通り出來ズ。原寸ニ合セ更ニピッチ計算ナス
水野送金出來ズ 明日電送ノコト埴山ニ依頼ス 其旨水野打電ス
内田次郎葬儀本日国デ行ワル

▲▼104ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月7日(火)

天気 晴

所沢拂下ノ爲メ六時半ヨリ出張 雨ガ降りソウナノデ昨夜カラ靴ヲ直サセタリ傘ヲ
持ツテ行ツタラ、スツカリ上天氣ニナル 拂下ハ晝迄ニ終リ晝食後朝日ノ中野君ト近藤
少佐ニ會ヒニ學校へ行ク モウ帰ツタトノコト 校長モヤハリ帰ツタアト 中野氏ニ便乗シ
テ新宿ヨリ研究所ニ行ク。スツカリツカレル 田中先生ニ一寸挨拶ヲシテ東日ニヨル 福
知氏上京中會フ。ブレダ発羽田ニ來テ居ルトノコトデアッタ

帰宅。名古屋水野ノ方埴山送金シテ呉レタトノコト 一安心シタガ、太田ト梅川ガ大
問題ガアルノデ何ントカセネバナラナイ

▲▼105ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月8日(水)

天気 曇雨

今朝床ノ中デ考ヘツヒニトラックヲ猪又ニ拂下ルコトニキメル 貳百円ニテ定メ昨日ノ五
十円ヲ差引クト百五十円受取ルコトス 今日内五十円受取ル 先ヅ梅川父病氣ノ
爲メ神戸へ出發サセル

篠崎町ノ聯合会長來場 格納庫ノ殘金七十八円余アリ内五十円内入ス。尚格納庫地所ノ件 ヨシ川ヲ謝禮ノ件話アリ 明日上京ノ節相談スルコトトス
船橋ノ長島氏來 昨夜來タ千葉君ノ件 來月カラ入所サセルコトトス。夜具持參ノコト

◆▼106ページ◆▼ 昭和11(1936)年4月9日(木)

天氣 曇後晴

朝出懸ケニ近ク金ヲ取りニ來ラレテ氣ガイソヽシタ 尚仕事ノ事モ佐藤出勤セズ呼ビニヤツテヤット間ニ合セル 今村モ今日モ又休 鈴木ニ聞キニヤル様ニ云ヒツケテ出ル 其爲メバスニ一台オクレル

十時半梅木到着 バスニ乗ロシタガ様子分ラズタクシーニ乗ツタ處メーター割ニテニ円取ラレ心細クナル 日本飛行機会社多田専務ニ會フ。心安ク振舞ツテ呉レタノハ嬉シカッタ 工場モ見セテ貰フ プーモ見タ 職工ハ女工ト少年工ノ養生ニツトメテ居タ。山口君ノ就職ヲ頼ンダガ一寸見込ウスカッタ 履歷書ハ預ケテ歸ル 飛行館ニテ上原中將ニ會フ。グライダー學校資金ノ件相談シタガ全然問題ニナラズ。スグアキタル東日ニヨリ局ニ行キ三式ノ登録申請ヲナス。山田森兩氏ヨリ関口ノ就職ニツキ話シアリアイニク入院中ナノデ困ツタガスグナオル様ニ話シテ歸ル 聞イテ見ルトアト四十日ハ入院ヲ要スル由

◆▼107ページ◆▼ 昭和11(1936)年4月10日(金)

天氣 晴

今日ノ日本飛行クラブノ會合ト奈良原氏ニ依頼スルコトニシ鈴木菊雄ニ明日ノ座談会ノ件ニ共ニ手紙ト金十円ヲ事傳ル

武力屋作業終ル カウリンク出來ル

安岡山口ト同道東日へ出カケル

関口ノ病氣ノ模様ヲ見ニ埴山千葉醫大へ行ク 入院十日 退院後一ヶ月位カヽルトノコト一寸困難ナコトデアル

鈴木伊四郎小木渡氏へ話シヲキメニヤル

明日午後三時

航空時代

会費五円 宝亭

◆▼108ページ◆▼ 昭和11(1936)年4月11日(土)

天気 曇り晴

東京高工ノ五十円残金取りニ鈴木ヲヤル

山崎君來ルトノコトニ待ツタガ來ラレナクナッタト電話アリ

午後ヨリ山口君同道東日羽太氏ニ會ヒニ行ク 人夫デハ四五年モ辛棒(ママ)シテアト見込ミガ充分デナイノデ氣ノ毒ダトノコト 帰途愛知ニ行ク様進メテ居ク

東日クレム曳行用機陸軍カラ貰ッタトノコトデアッタ モス圖面ヲ作製次第見積書ヲ出スカラト話シテ居ク 十三日下坂 十六七日頃帰ル予定ノ由。カナリヤノメスヲ買ッテ帰ル 鈴木丁度帰ツテ居タ。ダメダッタトノコト

▲▼109ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月12日(日)

天気 薄小雨

少シ寒シ ソレデモ大分今日ハ大ヒガアッタ由 花ハ見頃ダ

奈良原氏見エルカト思ツタガツヒニ見エズ。ドコカ悪イノデハナイカシラ

朝鈴木伊へ只一枚ノ十円札ヲ持タセテヤル 松坂ノ五円ヤレナクナッタノデ洋服月賦ヲ十五日カラ船橋デヤルトノコトニ其時ニサセルコトス

関口ヨリ明日六十円貸シテ呉レトノ手紙來タガドウニモナリソウニモナイ

稲毛カラナホガ來タカ家内トスグケンカシテ用件モ云ワズニ帰ッタ 大体ワカッテハ居ルガ

▲▼110ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月13日(月)

天気 雨

終日大雨

明日ノ試験ニ百円ドウシテモ入ルノニ佐藤ガ金ヲ持ツテ來ナクナッタト困ツテ居タ

安岡埴山自分デ協議 兎三角大熊へ練習費ヲ入レサセル方針ヲ取ル

奈良原氏今日モ見エズ 身体デモ悪イノデハナイカシラ

▲▼111ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月14日(火)

天気 晴

意想外ノ好天気トナル

今井洲崎ヨリ一等ノ爲メ出張 安岡午後甲四空輪 佐藤孝太郎船橋ヨリ二等野外無事終了

午後自分モ船橋へ出張ス 山田航空官ニ挨拶 全部ノ帰還ヲ待ツテ帰途作業ニヨル 奥山君ニ會フ

加藤氏帰ラズ 桂林上京シタトノコト

奈良原氏シバラク見エナカタノデ心配シタラ今日見エタ

平松氏十五日帰ル 試験急ゲトノ入電アリ

局駒林氏ニ電話シテ今週中検査ノ件打合せヲナス

午後一時ヨリ安満閣下階(ママ)行社前以テ照(ママ)介ノコト

▲▼112ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月15日(水)

天気 曇リ

洲崎出張ノ安岡へ吉田ニ五円持参サセルツヒデニ浦山ノ件ニツキ明日五十円貰ヒニ來ルトノコトニ富山ニ出張 二十日帰ルカラト速達ヲ出サセル

夕方甲四安岡帰ル 今井無事終了シタル由

本日第一ノアブロ鳥川附近ニテ轉覆シタル由 電話デ見舞ヲ述ベル

作業ハ今数回電話スル 加藤夜帰ル予定トノコトデアッタガハタシテドウカ 信太郎ノ學費米代 ハマ、鍼力屋等支拂ガ大分滞ッテ居ルノデ督促ス

ヒサ午後來 五時帰ル

▲▼113ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月16日(木)

天気 曇後晴

ヒドイモヤデアッタ。十一時前山田氏來 天候ト汐ヲ待ツ 午後雨ハ來ナカタガ黒雲ト雷アリ 通過後アンリオ試飛行シタガ氣流悪シク試験中止 明朝七時ヨリ行フコトナル

其間碁ノ相手ヲナス 四目負ケテ二目勝ツ 初メ五目後チ六目ニス

埴山、角、富山へ出発ス 行キノ旅費ダケ作ル

平松氏九州ヨリ帰ル

夕方試製ペラ試運轉 廻轉計コワレダメ 安岡ノ話シデハ千四百位ラシイトノコト

昨夜安岡へ鈴木來 就職運動ノ爲メ十日程暇ガ貰ヒタイトノコトデ今日カラ休ンデ居タ 他ニ行ケレバ反ッテ工場ハ幸トナルノダガ

▲▼114ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月17日(金)

天気 晴

七時伊東左内、山田航空官來場 佐藤孝太郎場内終了 鈴木ノ二人共不良 廿四日場内ヤリ直シト決定ス 時間不足ノ由

奈良原會長來 晝頃遠藤氏ヨリ電話アリ 飛行館迄スグ來テ呉レトノコト 名古屋ノ

御原氏來テ居ルトノコト 奈良原氏ニ御足労ヲ願フ

明日駒林氏午後検査ニ來ルトノコトニグライダー急ガセル。夜三時迄夜業

九州ヨリ來ルトノ話シノ海軍最初ノ少年航空兵來 期待シタ金八入会金五十円ダケシ
カナカッタ

▲▼115ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月18日(土)

天気 晴

薄曇リ

奈良原氏來場 昨日夕方荒蒔閣下訪問 協会、航空本部ト相談ノ上決定スルトノコト
デアッタ由 次回総会ヲ開キ会見ノ予定ノ由

午後駒林氏來場 平松氏モ來 ペラネピア改造ノ分使用差支ナイ様デアッタガ穴ノ明
ケ方ガ悪ルカッタ爲メダメ 三式ノ分使用方ニツイテト發動機ノ方ト相談ノ上決定ス
ルトノコトデアッタ 其他ペラ材半分合格。グライダー二百終ル 十四号改造ノ方ノ尾
翼未完 スパーダケ見テ貰フ

アブロ佐々木分翼ダケ終ル

夕方清平來ル

鈴木伊本日出勤 先方ノ待遇ガ予期通りニ行カナイラシイノデ万一ノ場合引續キ置
イテ貰ヒタイトノコトデアッタ 本人ノ心マカセト云ヒ渡ス

▲▼116ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月19日(日)

天気 曇リ雨後晴

終日モスノ材料調査ヲナス

午後乗池君來 スピードメーター持参。ローンギヤヲ貰フ 次ギノ日曜廿六日ニ發
会式ヲ上ゲタイ由

▲▼117ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月20日(月)

天気 晴

快ヨイ春日和

午前中モスノ見積リ終ル 午後岡君ヨリ電話ニテ羽太氏ノ事傳ナリトテ福知氏ガ來テ
居ルカラ明日デモ來テハドウカトノコト 吉力凶カ

奈良原氏來 明日埼玉飛行場許可ニナッタニツキ役員会ヲ開ク由 自分ニモ行カナイ
カトノコトデアッタガ東日ヘ行カネバナライノデ行ケナカッタ

埴山帰ル 貳百円貰ツテ來タ由 内六十円工場へ貰ヒ電話料ト米、代引一個等ニテ電

燈会社延バス

▲▼118ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月21日(火)

天気 晴

早朝鈴木來 今日決定スルノデ又ヤッテ呉レトノコトヤル
十時頃ヨリ上京 羽太氏訪問吉カ凶カ? 福知氏來京 モスノ件大体承認シテ居ルカ
ラトノコト 先ヅ吉報デヨカッタ 片岡カラ貫ツタ道重大僧正ノ軸ヲ贈ル 共ニ東日ニ
行ク 福知氏局ヘ行ツタトノコトニスグ行ツテ見タガ帰ツタアトデ會エズ 大坂ノ井上名
古屋ノ安藤ニ會フ。石田氏ニ検査ノ打合セヲナシ課長ニ輕飛行機ノ奨励金ノ件ドウナ
ツタカ聞ク。不必要ノ様ナ話シデアッタノミナラス小サイノハ皆無クナツタ方ガヨイナド
放言スルニイタツテハアキレザルヲ得ナカッタ。ソレデモ何ント考慮スルトノコトデ南波氏
ニ其旨報告シ日日ニ行キ四時頃福知氏ト塩瀬ニ行キ茶ヲノミナガラ、モスノ件話ス 五
月末決算終了後決定シタイトノコトデアッタノデ呉レ、依頼シテ帰ル

▲▼119ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月22日(水)

天気 雨後三時頃ヨリ晴レル

本日鈴木伊四郎退社ノ発表ヲナス

奈良原氏武崎氏來場 山形飛行安岡ヲヤルコトニ決メル 午後大工ニペラ削リ初メサ
セル。角電報ニテ呼ブ 工場事ム埴山ニヤラセルコトニシテ一通リ事ムニツキ話シ金モ一
切引渡ス。鈴木ト違ヒ埴山ナラ金錢モマカセテ安心出來ルカラ

▲▼120ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月23日(木)

天気 晴

十一時瓦斯電三式空輸 無事羽田着 同地ハ風速十米余アッタ由 安岡竹崎氏ノ依
頼ニテ横浜飛行ニ出張

晝前神崎神社ヨリ五名來ル 奈良原氏來場 会見シテ帰ル

今村ヨリ東京飛行機へ入社(梅本ノ照(マ)介)シタイカラ暇ヲ呉レトノコトデアッタ
タ方希望ナラ暇ヲヤランデモナイガ同業者ノシカモ目ノ鼻ノ先キニノ處ヘ行クコトハ不
都合デモ有リ本人トシテモ佐野ノ前例モアルコトダカラ考慮スル様申シ渡ス
鈴木早朝手紙ヲ置イテ帰ル

▲▼121ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月24日(金)

天気 快晴後曇リ

本年初メテ南波氏宮本氏來 上岡一三飛行ニ到ラズ 回轉不調 クラブ一三翼ダケ残シアト終ル 佐々木アブロ胴体其他ローンモ終ル

二月末迄ノ収支予算ヲ作り安岡、埴山ニ提示想(ママ)談ス 千五百円ばかり赤字ニナル 六月早々大毎決定次第ソレハ解消出來ル

山田航空官來場 鈴木ノ方ノ試験ヤリ直シト拡張。クラブハ陳ノ甲四拡張スラ、終ル鈴木ノ方ハ大分ヤリ直シアッタ由

夜佐々木ヨリ廿八日○持ッテ行クトノ入電アリ

▲▼122ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月25日(土)

天気 雨後風雨

今日ハ電燈会社、松坂、大口、其他金ノ入ルコト多ク、先ヅ瓦斯電ヘガソリンノ金ヲ取リ方々山口君ノ就職トローン部品ノ話ニ行ク。外ノ話シハスラ、通ッタガカジンノ金ハアトカラ送ルトノコト 小林氏ヲ訪問 結局明後日王子カラ格納庫料送金スルコトニシテ貰フ 整備ノ金ハ完成後余リ足りナカッタラ足シテ貰フコトス 此頃ヨリ大雨トナル 帰途高工ニヨル 主任ノ教師休ンデ居タガ北村君ニ事ム所ヘ聞カセタガヤハリダメ校長マダ來ラズ 月曜送金ヲ依頼シテ飛行館ニ清平ト會ヒ計算ノ出來ルモノト圖工ヲタノミ、東日ニヨル 羽太氏席ニ居ラズ 局ヘ電話シタガドコモ皆ダメ。スグ帰宅 電気屋ハ明日ニシテ貰フ。大口モ來タソウダガ

▲▼123ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月26日(日)

天気 快晴

猪又ヲ呼ビ拂下納金トシテ七十円今日持ッテ來ル様話ス 九時埴山ト羽田ヘ行ク予定猪又來ラズ 大口モ早朝カラ來テ待ッテ居ルノデ聞キニヤッタラ明日デナイト金間ニ合ストテ埴山五円ダケ作ッテ來タノデ内二円五十錢大口ニアト持ッテ出カケタラ布施ガ來タノデ五十錢渡シ二円デ羽田ニ行ク スデ二十時過ギテ居タノデ間ニ合ワナイカト思ッタガ丁度式ガ初タバカリノ處ヘ到着出來タ 出席者ハ割合ニ少ナカッタガ谷口氏カラ特ニ自分ニ挨拶ガアリ且ツ大變ニ感謝サレテ反ッテ恐縮シタ。
羽太氏ト同道歸社 二十円六十錢グライダー材料代ヲ貰ヒ資生堂ノ立体写真像ニツキ調査シテ帰宅

▲▼124ページ▲▼ 昭和11(1936)年4月27日(月)

天気 晴薄曇リ

猪又四時過ぎ漸ク來 大分金二困ツラシイ 七十円受取り電気屋へ四十円 松坂十
円 今村布施安本ニ若干ツ、
五月五日ノ奈良原氏記念日ノ照(ママ)待状ガリ判(ママ)ニタノムコトニシ明日上京ノ予
定ナリシモ宗里ヨリ明日三回忌ヲヤルトノコトニ今村ヲ代理上京サセルコトニス
上岡一三式試飛行ヲ行フ 地上千三百五十 空中千四百五十出タ由 回轉計ガ悪ル
カッタラシイ

◆◆125ページ◆◆ 昭和11(1936)年4月28日(火)

天気 薄曇

午前奈良原氏來場 五月五日ノ件相談ス
十一時半ノバスニテ船橋ニ行ク 三回忌法要終ツテ酒肴 三時頃作業ニヨル 所沢ヨリ
梶原來テ居タ 五時前帰宅
仙台ヨリ式百円送金シテ來タ
夜広畑來 飛行機ガホシイトノコトデアッタガヨク清平ノコトナド話シテ居ク

◆◆126ページ◆◆ 昭和11(1936)年4月29日(水)

天気 曇リ

寒イ天長節デアッタ

奈良原氏來 五月五日ノ打合せヲナス 午後三時頃ヨリ繪葉書ヲ依頼シ上京 工藤
氏ニタノミ新聞切り抜き記事ハ時事へ聞イタガ写真部ヲ連レテ写シ來イトノコトデア
ッタノデ東日ニ行キ羽太氏ニ依頼シテ写シテ貰フコトニス
六時半帰宅 吉田重雄君ガ來テ居テ夕食ヲ共ニシ泊ル

◆◆127ページ◆◆ 昭和11(1936)年4月30日(木)

天気 曇リ

今日ノ支拂ヒニツキ埴山ト相談 マカセル。保俣(ママ)署ガ來タ 例ノガンバリヤデアッ
タガ埴山モ大ニガンバル 其他ハ一切延バシ今村ニ弐十円ダケ渡ス 今日ハ大ニタスカッタ
山口君瓦斯電ヘ金取リニ行ツテ貰フ 三式昨日午後三時頃コワシタ由 飛行中發動機
変調ノ爲メ飛行場地均シ中ノ處へ着陸 停止前又發動機ガ廻ツテ轉覆シタトノコトデ
アッタ。安岡ヨリ五十円送金シテ來タガ之レハ家ノ方ヘヤル金デ工場ニハツカエナイソウ
ダ

埴山ガヤツテ呉レテ今日ハ大ニタスカッタ 此調子デ内ノ心配ガナクナレバ自分ハ外ニ活
動ガ出來ル

▲▼128ページ▲▼ 5月

グライダー學校発表

ソアラ完成

モス七分通り決定ヲ見タルニツキ最後ノ努力

グライダー注文取り

▲▼129ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月1日(金)

天気 晴薄曇リ

奈良原氏來場 之レヨリ先キ昨夜來考ヘタグライダー學校ノ件クラブ、グライダー部
トシテ五日ニ二所ニ発表スルコトニキメ其原稿ト会則ヲ作り先生ニ見セ諒解ヲ得
讀賣ノ記者來 三日ノコト五日ノコト話ス

午後豊間君來 千葉ノ氣球隊ヘ行ク途中ダトノコト 三日ニ先約ガアッテ來ラレナイノ
デト十円会費ダケ預ル

五日ノ案内状今朝發送ス 一枚宛名ノナイノガ歸ッテ來タ 誰レカシラ 多分木村氏
カモ知レナイ

▲▼130ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月2日(土)

天気 曇リ

佐々木君來 百五十円殘金受取ル

午後ヨリ上京 日ハ羽太氏ト會ヒ五日ニ発表スベキグライダー部ノ原稿ニツキ諒解ヲ
求メ、神田ノ印刷屋ニ寄り、工藤ニ行キ東日ヨリ貰ツタ五月六日ノ記事写真ヲ工藤ニ
渡ス 記事ガモットヨイノガト思ッテ工藤君ト時事ニ行キ写シテ歸ツタガ記事ハヨカッタ
ガ最後ニ森田氏ガ以前ニ飛ンダ様ナコトガ書イテアッタノデ中止ス

▲▼131ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月3日(日)

天気 曇リ後晴

今日ハ野武士会 早朝榮助大變魚ガ這入カラ見ロト起シ來テ行ッテ見ル 大漁デ先
ヅヨカッタ。帰ルト根岸君來テ居タ。奈良原、飯沼、相羽、井上、北尾、メヅラシク川
辺君來。ズット後レテ漁ガ終ッテカラ渡辺君來 晝頃鈴木館ニ行キ大小四人ノ藝者ヲ
上ゲ五時頃迄愉快ニ終ル

作業ニ立寄り七時ノ自動車二川辺君ト帰り、安岡へ川辺君ヲ泊テ帰宅

朝カラ鈴木伊來 客ノアルノニヒツコク金呉レトセガム 結局十五円埴山ヨリ渡ス

◆▼132ページ◆▼ 昭和11(1936)年5月4日(月)

天気 快晴

朝サンパツヲナス 昨夜仁三郎ヲ夜起スノ二時間ガカ、リヨク眠レズ眠カッタ 床屋デヨク眠ル

今日ハシヅカナウララカナ、シートシタ日デアッタ コンナ日ニ考事ヲスレバヨイガト思ツタガアイニク川辺君ガ來テ二時頃迄居タリ、オチツケナカッタ

埴山サル太田原迄空輪 四時頃帰ル 今夜又會津迄行カネバナライナイトノコトデアッタガ明日ノ廿五周年ト明後日ノ神崎ノ飛行モアリ山口ヲ代リニヤルコトニス

◆▼133ページ◆▼ 昭和11(1936)年5月5日(火)

天気 晴

予算シテ五十円モアレバ充分ト見テアト十円シカ残ラズ支拂ハ一時全部延期シアトカラ埴山ニ持参スル様命ジ自分ハ十一時頃ヨリ上京 工藤ニヨリ繪葉書ヲ受取り局ニ行キ拂下ノ七十一円五十錢ヲ納入。南波氏ニ今日発表ノグライダー部会則及趣意書ヲ見セル。局デ免状ヲ出ス案ガ出來テ居タノトタマ、意見ガ同一デアッタノハ愉快デアッタ。駒林氏ニ三式ノ状況ヲ聞キ奨励金前田ノ分モ出シテ貰フコトヲ依頼シテ諒解ヲ得 飛行館ニ行ク。奈良原、渡辺、榊羽飯沼君來 四王天氏ニ會ヒ、小西勝一氏ノ表奨ヲ懇談シテ、今日ノ会場鳩ノ間ニ到ル。陸軍航空本部ヨリ石橋少佐來場 近ク津田沼見學ニ行クトノコトデアッタ。会ハスコブル盛大デ予定ヨリ十名程多クナル。九時終ツタガ費用モ随分カ、ル 会費五十円這入ツタガ不足シ川辺君ヨリ二十円借りテ終ルタ、磯部、伊賀、都築竹、志賀、日野ノ五氏ガ返事ガナカッタト來ラレナカッタノハ遺憾(ママ)デアッタ

◆▼134ページ◆▼ 昭和11(1936)年5月6日(水)

天気 晴後小雨

奈良原氏來 夕方帰ル 昨日ノ計算ヲシタラ約百三十円 内五十円会費ヨリ八十一円余ノ支出トナル 痛事デアッタ

角ノ父來 三百円受取ル 勘定スルト使エル金ハ一文モナイガ帰りノ運賃ヲ融通スルコトニシテモトテモ足りズ米屋ダケ兎ニ角支拂フ 中台ニ廿鈴木十五円内拂ヒ、松坂三度電話カケテ來タガ時間間ニ合ワズ明朝送金スルコトス 川辺ノ貸室方付ケル 何ガ

ナイカニガナイトテ巡查ノ四五名モ数度來テウルサカッタ

▲▼135ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月7日(木)

天気 晴タ立

安岡帰ル報アリタレドモ會津雨ノ爲メ明朝帰ルトノ入電アリ
奈良原氏來 江戸川区長宛願書書ク 平松氏來 アブロ廻ス 廻轉計不良ナリシモ千
四百五十カラ千五百位回ッテ居ル 明日安岡ニ試飛行サセルコトス 神崎神社ノ飛
行黒沢甲四ニテ行ク

角郷土飛行ニアンリオ發送ス

夜菅井來 明日又來ル由

猪又昨日朝日ノ拂下次點ト二十円違イノ八百七十余デ落札シタノコト 大變ヨカ
ッタ

明日所沢拂下アリ百円猪又へ申込ム 七十円ダケ夜持参ス

▲▼136ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月8日(金)

天気 晴

所沢拂下ノ爲メ出張ツヒデニウインチ曳行(ママ)ノ裝置スケッチノ爲メ大口同行 自分
代表トシテ落札 スグ引取ルコトニナリ津田沼へ電話ス 三時過ギ自動車來 其間學校
ニ行ク 近藤少佐本部へ行ッタアトデアッタノデ校長ニ会見ス グライダーモ追テ正式
練習ヲヤラセル方針ラシク、アンリオ、サル修理ノコトモ本部ノ秋野中佐へ行ッタラヨイ
トノコトデアッタ ウインチハ立川へ行ッテ居テ近ク上田へ持ッテ行クトノコトデアッタ。
自動車來テ積込ミヲ初メテ五時所沢發ニテ東日ニヨリ明日志鶴君ノグライダー羽田
着ノ時間ヲ確メテ帰ル

▲▼137ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月9日(土)

天気 晴

此頃ツカレルノカ夜ヨク眠ルノミナラズ朝眠クテ困ル

奈良原氏來 神崎神社ヨリ五六名來 三十日礼壇山ニヤル渡ス 壇山石橋富山へ出
発 クラブニテ五十円作ッタ由

平松機試飛行前后モヨクナル ペラモヨシ

昨日安岡帰場 汐ノ爲下志津着陸 本日帰場 二機無事 内一機ニテ一時二十分ヨ
リ羽田へ志鶴機ヲ向ヘニ行ク 二時十分姿ヲアラワシ同二十分着陸 中々ウマクナッテ
居タ 二時羽田発帰還 行キ二十分 帰り十六分。鳥飼氏來テ居タ 金ガ入ル様デア

ツタガナイノデタ食後帰ル 川辺君夕方東京へ行き明日大坂へ帰ル由

▲▼138ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月10日(日)

天気 晴

今日ハ原愛次郎氏來ルトノコトデ心待チニシタガツヒニ來ナカッタ
久坊一日遊ンデタ方帰ル 今月中デ暇ヲ貰ツテ帰ルトノコトデアッタ 午後沖ニ恵美
子、和子、家内トテ行ク マテ取りデ面白カッタ。マテトバカ貝、ドウシヨヲ持タセテ帰
ヘ
ス

午前中工場方針其他ニツキ考慮ス

▲▼139ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月11日(月)

天気 晴

奈良原氏來

今日ノ上京ハ金ノ都合デ中止シ奈良原先生ダケ行ツテ貰フ
ベニヤ板ガセインダケ取引ルコトガ出來タ

明日ハ奈良原氏大口ノ米代、工藤ノ帰郷等ニ大分金ガ入ルノデ作業へ電話シテ居ク

▲▼140ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月12日(火)

天気 晴

角郷土飛行第一日無事終了

奈良原氏來 昨日ハ竹崎ト梶原ガ來タダケトノコトデアッタ

▲▼141ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月13日(水)

天気 曇リ晴

横須賀出張ノ金七時ニ漸ク間ニ合 山口君行ツテ貰フ アト安岡二十円作ツテ來テ内
十円布施ニヤル 残り大口ニ分ケ自分上京 局ニ検査ノ打合せニ行ク 終ツテ協会ニ行
キ井上氏ニ會フ。軽飛行機ノ奨励金ノ件ヲ聞ク 出ルラシイ 帰リニ日ニヨツタガ羽
田へ行ツテ誰レモ居ラズ。買物シテ、長山ヲ見舞ヒ両国ノ工藤ニヨリ繪葉書ヲ受取り帰
宅

布施ノ新店棟上ゲヲ行フ

霞ヶ浦下見

金太郎立前

横須賀下見ト入札

◆▼142ページ◆▼ 昭和11(1936)年5月14日(木)

天気 薄曇リ

奈良原氏來場 明日學校ノ遠足ガアルノデ女工ガ金ガ入ルトノコトニ弱ッテ居タ處ヘ自動車用ニシタイカラトテガソリシタンクヲ買ヒニ來タノデ十五円デ賣ル マグネトモホシイトノコトデアッタガ大キクテ間ニ合ワズ 止ムナク奈良原氏ヘノ金ハ明朝持參サセルコトニシ帰ッテ貰フ

明日ノ検査ニ平松アブロガソリシゲージヨリ漏ルノデヨク調査スルト、フクロナツトノ坐金ノ部分ガ不完全デアッタノデ、ソレヲ直サセルコトニ夜業ヲヤラセル 矢野、坂本、青木ガヤッテ居タガ十一時一寸前タンクノフタヲシタマ、デサンソヲ使用シタ爲メ大爆発ヲナシ矢野腹部坂本左眼ヲ負傷 坂本ヘ船橋ノ渡辺 矢野ヲ大學ヘ入院サセル 矢野直チニ手術ス 手術前ノ話シデハ八九分通り大丈夫トノコトデアッタ 坂本ハ渡辺ヨリ樋田眼科ヘ轉院ス 横須賀入札

◆▼143ページ◆▼ 昭和11(1936)年5月15日(金)

天気 小雨

早朝千葉ヨリ電話アリ胃ト十二支(ママ)腸ノ付根ガ破列(ママ)シタ爲メ胃内ノ食物ガ腹部ヘ出テ居タトノコト 昨夜一回 今後一時頃一回 夜一回輸血ヲ行フ 醫者トシテハ最全(ママ)ノ方法ヲ取テ居ルトノコトデアッタガ夜十一時頃絶望トノ報アリ大口ト松坂ヲ急行サセル

金太郎ヨリ健(ママ)築ノ金三十円借り内十円奈良原氏ヘ。鈴木菊ヨリ十円借リル

奈良原氏十五会ニ出席ノ爲メ上京ツヒデニ衣笠氏ニ借入レ方頼ム 夕方來ラレタガ衣笠協会ヘ行ッテ會エナカッタトノコトデアル 明日行ク由

平松氏來 善後方針ハガソリシタンクヲ作ルコト 今月中ニ検査受ケルコト。松坂引取リニ出張

霞ヶ浦引取り

◆▼144ページ◆▼ 昭和11(1936)年5月16日(土)

天気 晴

安岡菅井ヘ金作りニ行ク 菅井カラ借りタクハナイガ衣笠氏ノ方ガ分ラナイノデ兎三角

タノム。後奈良原氏來 ハタシテダメデアッタ。王子ヨリニヶ月分格納庫料來ル。大二助カル

今朝六時五十九分矢野遂ニ死亡ス明日火葬ノ爲メ今夜ハ死亡室デ通夜スルコトナル協議ノ結果明後日午前十時鷺沼慈眼寺ニテ告別式ヲ行フコトス 飛行協会へ電話シタラ花環ヲ呉レルトノコトデアッタ

▲▼145ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月17日(日)

天気 晴

午前九時病院ニ行キ焼場へ送ル 晝前帰ル 花環ヲ注文ス
安岡金出來ズ 作業夜迄ヤッタガ之レ又ダメデアッタ

▲▼146ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月18日(月)

天気 晴

メヅラシク上天気トナル 七時半ヨリ骨上ゲニ行ク 弟竹雄叔母サン大口竹中ノ五人帰ッテスグ寺ニ行ク 正十時ヨリ初メ十一時過ギ終了 晝食後津田沼停留所迄皆二見送ラセル 矢野ノ計算二百九円余ノ内今日五十円ヲ渡シアトハ弟學費トシテ毎月十円ヅハヤルコトニ取極メル。ヤレハ、一段落ツイタガ作業会社金持参セズ寺モ花環ノ拂モ出來ナイコトニナル。金太郎ノ借りモヤレナイノデ、アルダケ大工へ支拂エル様ニ行ッテヤッタガグズハ、云ッテ居タノデ自分ノ冬ノ服トモーニング 家内ノ着物全部質入レサセルコトニス

▲▼147ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月19日(火)

天気 雨

今日カラ大ニ仕事ヲヤラネバナライノデソレハ、仕事ヲ云ヒツケ出カケタ處へ鈴木伊四郎來 同時ニ駒林氏引續キ坂本氏來 受検ノ方策ヲキメテ出ル。スグ航研ニ山崎氏ヲ訪問 東日ノグライダー、グルナウカ帝大型カラ 決定スルコト相談 氏ハグルナウノ方ガヨイトノコト 處ガ同機ハ石川島デ五百円デ陸軍へ納メテ居ルトノコトデ、ソレ以上ハ取レナイコトニナル 東日ニ行ク 羽太氏ハドチラデモヨイトノコトデアッタ。ソアラ一七月カラ飛行機曳行(ママ)ノ講習ヲヤルノニ買上ゲテモヨイトノコト 外ニ中島ノゲッピンゲン一型モアルガトノコトデ結局千六百円 内協会分六百円デ本社へ話シテ貰フコトトナル 協会へ行ク タレモ居ラズ。航空本部へグライダート修理ノ件ニツキ行ッタガ、アイニク会議中デダメ。朝日ニヨリ佐藤ニ行キ今月中材料ヲ廻シテ貰フコトヲ取キメニミリトボールトヲ貰ッテ帰ル

買入レ五十円借り金太郎二十四円 アト土丹板ヲ取ル

▲▼148ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月20日(水)

天気 曇リ

安岡埴山ト昨日ノ經過ヲ話シ今後ノ方針ヲ相談ス 尚發動機ノ方ガダン、暇ニナル
ノデ、佐藤ニ計器、マグネト、電池、酸素付等副業ニ力ヲソ、グコトス
中台來 今月全然出來ナイコトヲ諒解ヲ得

佐々木泰介返事出ス 今週中完成セシムルコトニ工場督励ス

▲▼149ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月21日(木)

天気 曇後晴

坂本ヲ見舞ニ樋田眼科院へ行ク 父親ガ來テ居タ

大変ヨク、イクラガ見エルトノコトデアッタ

散髪シテ、リベットヲ買ヒニ行ツタガナク第一二礼ニヨル

青木上京 妻君寢テ居タノデスグ帰宅

作業今日金出來ルトノコトニ埴山行ツタラ夜持參スルトノコトデアッタガツヒニ來ラズ
角廿三日旅客機ニテ残リノ飛行ヲヤル爲メスグ出發セヨ 尚ガソリン代百円貰テ歸レ
トノ手紙ガ來タノデ旅費ダケ都合シ計算書ヲ作ツテ持タセテ歸ス

鳥飼氏來 大坂ノ山縣君ニ送金方手紙ヲ出シテ呉レトノコトデアッタノデ書イテ上ゲ
ル。後チ浅草ヲ引上ゲネバナライコトニナツテ居ルノデ津田沼へ引越シ工場デ使ツテ
貰ヒタイトノコトデアッタ 之レニハ困ツタガ考ヘテ居クコトニ返事ス

▲▼150ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月22日(金)

天気 晴

今日ハ上天氣デアッタ

奈良原氏來 午後三時ヨリ同氏銅像寄附金ノ發起人タル承認ヲ得ル爲メ白戸へ行ク

大変ヨク元氣ニナツテ居タ 六時帰宅

明日近藤少佐へ安岡ヤルコトニキメル

▲▼151ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月23日(土)

天気 雨

実生ノ木コク本年初メテ花ヲツケル 香ハアマリヨクナイガ三寸鉢ニ四寸位ノ木ニ眞白

イ白花ヲ二房ツケタノハ見物デアル

安岡家内昨夜流産シテ今日ノ近藤少佐行キハ取ヤメ

双葉山今日モ男女ノ川ニ勝チ昨日玉錦ヲ破リ全勝確実トナル 破竹ノ勢トハ正ニ之レ

▲▼152ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月24日(日)

天気 雨

今日モアメ

奈良原氏來 練習生吉田ノ父來 練習費前納ニツキ交渉 今日三時間分 明日十時間分送金ノコト。今一人ノ方ハ明後日來ルトノ電話デコトワリガアッタ

朝平松氏へ五十円塗料費トシテ借用方ヲ申込ム 明後日検査ノ通知ト共ニ

正午山崎氏來 プライマリー改造ニテ東日ノ曳行(ママ)ニ使用スルコトキメル 夕方ヲ共ニシ奈良原氏ト八時頃帰ル

鍼力屋平松タンク夜業ス

▲▼153ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月25日(月)

天気 晴

明日ノ検査準備ニ急(ママ)ガシ 午後二時ヨリ上京 羽太氏へ改造五型ウインチ曳行(ママ)用ノグライダー見積リ提出 ソアラノ件昨日山崎氏ト打合せタル通り、ソアラヲ貸スコト、後チ代機ノ製作ヲ受注シタイコトヲ申入レル。大坂ノ方デハ九帝七型位ノモノヲアチラヘ注文出シタイ様ナ話シダトノコトデアッタ。外ニ東京高工へ七型ヲ貸シテ貰フコトヲ話シタガ夏期講習ニ三台持ッテ行キタイ希望ダトノコトデアッタ 今日ハ帰りヲ急イダノデ其儘佐藤ニヨリ三、五復ヨリト七ミリボールトヲ買ヒ帰ル 五時半着 皆明日ノ爲メニ居残ッテヤッテ居タ。大口、安元、十時半迄タンク仕事ス

▲▼154ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月26日(火)

天気 曇小雨

坂本井上両氏來 平松改造アブロ、上岡一三式、野呂十年式 佐々木アブロノ四機完成検査ヲ受ケ全部合格ス

外ニ八九式。パラシュート落下試験ヲ行フ 之レヲ局へ持参シテ見テ貰フコト

奈良原氏來 筑井ノ母來 練習費前納交渉ヲシテ貰フ 十時間ダケトノコトラシカタ

銀行佐野手紙入金ス。吉田ヨリ二百円來

▲▼155ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月27日(水)

天気 雨

終日在所

平松氏來

▲▼156ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月28日(木)

天気 雨後曇り雨

蔭ウツナ、イヤナ天気デアッタ。局へ行き登録申請ヲ全部スマセ平松氏ノ奨励金モ大体
諒解ヲ得タ 井上氏ニ北ノ花ノ一五二三式ノ件想(ママ)談 諒解ヲ求ム
南波氏ヨリ神風ノ説明書ヲ借リル

東日ニ行ク 静岡大分盛ンデ聯盟ノ手デ注文スルトノコト 早速カタログヲ送ル。後チ
羽太氏出社 モス操縦器ノ件革ニスルコト 成ルベク前ニスルコト等打合セヲナス
池田健治訪問 鳥飼氏津田沼へ來タトノコトニツキ相談 考慮ヲ頼ンデ居ク。四時帰
宅

今夜ハ眠レズ三時頃漸ク寢ニツク

▲▼157ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月29日(金)

天気 曇後晴

平松氏練習。佐々木アブロ同上
クラブサルト一三ヲ練習開始
一三タンク圖面作ル

裏ノ砂取り本日ニテ終ル

王子号發動機運轉尚不良

▲▼158ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月30日(土)

天気 曇小雨

奈良原氏來場

皇子号二日ニ検査來ルトノコトニ準備急ガス

朝局へ電話シテ佐々木堪航証上棒ニ渡シテ貰フコトヲタノム。定置場承認書ヲ至急送
ルナラ渡ストノコトニ引受ケテ上棒晝前歸ル

○時半出發ス 関口ニ書類ト金ノコト頼ンデヤル 三時半無事到着

▲▼159ページ▲▼ 昭和11(1936)年5月31日(日)

天気 雨

終日ヨク降ル

朝バカ貝取リヲ樂シミニシテ居タ處東風デ雨ガ降ッテ居タガ家内ヤ仁三郎ト出カケテ見ル 汐ヨク引カズ不良 間モナク汐ガドン、上ゲルノデ帰ル。バカヲ取ラズニバカヲ見タ訳ダ

鈴木伊四郎來 埴山ニ聞ケバ手紙ヲヤッテ居イタトノコト ヒツコイ奴ダ。今日ハ筑井帰ラズ 全部五日頃迄支拂延期 埴山ガスベテヤッテ呉レタノデ大助カリ ソレデモニ三分ニ會ヒタイト云フヤツガアッタ
オリンピック水泳ノ豫撰最終日ノラジオヲ聞ク

▲▼160ページ▲▼ 6月

○ モス決定ニ進ム

○ ソアラ―完成 グライダー注文多数ノ見込ミ 如何ニシテ間ニ合セルカ

▲▼161ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月1日(月)

天気 晴

久シ振リノ好晴 朝出テ羽太氏ヲ訪問 金ノ件ヲ話ス予定ガ旅費ノ都合デオソクナリ十一時前出ル。航空本部ヘ十二時ニツキ一時頃迄待ッテ石橋少佐ニ會ヒ改正クラブノ会則ヲ渡シ荒木ノ聯盟就職ヲ依頼シニ課長ニ照(マ)介サレ、坂野中佐ニ會ヒ三行ツタガ会議中デ引上ゲル サルアンリオノ練習ヲヤルラシイ

協会三行コカト思ッタガ道順デ東日ニ行ク 岡君ヨリ津田沼デ事ガアッタソウダ電話ヲカケル様トノコトニ、スグ電話スル 出ル時練習シテ居ターニデ斎藤ガ墜落 同乗者ハ信太郎トノコトデアッタ 斎藤ハ即死 信太郎ハ醫大ニ入院サセタトノコト ドウセスグ帰ッテモ金ノコトガアルノデ羽太氏ニ會フツモリノ處、ドコヘ行ツタカ分ラナイトノコトニ三時頃帰宅。信太郎ハ骨折等モナク経過ヨキ方トノコトニタ方病院ニ行ク トコロガ醫師ハ今夜トウモ六ツ間敷トノコトニ、アキラメテ、ソレバ、手配ス。然シ何ントカナラナイカトモ思フ 不動尊ヲ祈ル 二時頃呼吸悪シク絶望ト思ワレタガ三時頃痛イト云ヒアバレ出シ小便ヲシタイトカ云ヒ出タノデ、一安心ス。コレナラヨクナルカモ知レナイ

▲▼162ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月2日(火)

天気 晴

八時ノ回診デ昨夜ヨリ幾分スベテガヨイガマダ安心ガナラナイトノコトデアッタ 其後モ小便ニ回アリ意識モ次第二ヨクナル 大分アバレルノデ今朝ハ五人津田沼ヨリ呼び交替サセ、一先ヅ帰宅ス 少シ床ニツイタガ眠レズ 病院ニハ清平居ル。夜行ッテヤロウト思ッタガ疲労ヲ感ジ下腹ガ冷込ンダ様ナノデシオデアタタメテ床ニツク 穴倉醫師ガ來タノデ噴門ヲ見デ貰フ。イボ痔ト確定

信太郎午後モヒ注射シテ寝サセテアルトノコト 夕方マダ目ガサメナカッタ由

▲▼163ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月3日(水)

天気 晴

五時起床 交替ノモノヲ五名千葉ヘヤル 後チ自分モ行ク

主任醫師ノ談 自分ノ一番心配シタ肺ハホント影セキノナキ迄ニヨクナッタ 心臓ハモトヨリ強ク胃腹(ママ)モ健全 タゞ意識ガ回復シナイダケトノコトデアッタ 意識ハ昨日ヨリカエッテ悪イラシイ 小便ノ出ルノガ分ラナクナッテ大分ヨゴシタトノコトデアル 脳ノ内出血ガ早く吸収サレバ早く氣ガツクノデ今ハタゞソレヲ待ツノミトノコトデアッタ 外ガ健全ダカラ漸次ヨクナルモノト確信スル 意識不明ハ今迄一週間 永キハ一ヶ月モ氣ノツカナイノサエアッタカラ幾ラカ安心ダガ小便ヲオシナクナッタノハ、モヒノ爲メデハナイカシラ

十時過ギ帰宅 一時ヨリ告別式 久々田ノ東善寺ニ行ク。協会ヨリ野田少将、遠藤君來 郷里カラハ昨日弟清松ガ來タダケ

午後吉千葉ニ行キ夜帰ル カワラヌ由 眼ハ開クガ全々見エナイ 視神経ガオカサレテ居ル爲ラシイ

一刻モ早く氣ノツクコトヲ神ニ祈ル

一日クラブヘ這入ッタ二百円ノ練習費今日デナクナル 明日羽太氏ヘ行ク予定

大坂新世界ヘ夜電話シテ様子ヲ知ラセ皆ニ通ジテ貰フ

▲▼164ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月4日(木)

天気 曇リ

王子号検査ノ爲メ上京 局ニ行ク 八日飛行予定ガ八日デナイト行ケナイトノコトニ王子区役所ニ電話シテ中止トナル 上岡一三堪航証返納ス

羽太氏自宅訪問 グライダーハマダ稟議ガスマナイノデヒマガカハルノデ、ソアラノ分トシテ金ノ出ル方ニテ取ッテ居ルガ、曳航用自動車ト一所ニシタイトノコト 二三日内ニ頼ムト御願ヒデ種々想(ママ)談 約一時間半 終ッテ協会ヘ礼ニ行ク 正憲ノコト聞ク 出スコトニハカラッテアルトノコトデアッタ

帰宅 工場ノ用件ヲスマセ病院ニ行ク 大分ヨク分ル様ニナツテ今日ハ自分ヲ初メテ分ツタ。分ツタ、ト何辺モ云ツテ和子ハト聞イタ。今日ハ玉子式ケ牛乳五勺リンゴ二個ヲ鼻カラツキ込シダノガ納マツタ由 夕方初メテロカラ薬ヲノマセタガ之レモ吞シダ。熱ガ三十八度九アリ 軽イガ肺炎ヲ起シテ居ルトノコトニソレダケガ心配デアルガ大体ニヨイ方デ安心ス
九時帰宅

◆▼165ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月5日(金)

天気 晴

奈良原氏來場 見舞ヲ貰フ

満州ニハ国松母來ルヨシ

今日ハ昨日ヨリ又少シ分ル様ニナツタ

夕方一寸行ツテ見ル。見タ處マダ、イケナイ

肺炎モマダ直ラズ熱モ下ラナイ

明日ヨリ食事ヲ自炊スルコトナル 何ニシロ手ツタイニ來テ呉レルノモ入レルト八九人ツ、ニナルノデー 日五六円ノ辨當代ニナルカラ、看護婦ノ發案デソウスルコトス

東日ニ電話シテ明日午後行クコトヲ羽太氏ニツタエ利根川氏ニ電話シテ自動車ノ見積書ヲ明朝出シテ貰フコトヲ依頼ス

◆▼166ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月6日(土)

天気 晴タ立アリ

意識益々明瞭。熱幾分下ル。流動物鼻ヨリ入レル量多クス。根木ニ晩泊ツテ帰ル 北村一寸來タ由。今日ヨリ自炊ス

上京 局ニ行キ月曜日検査確定 花環代請書提出 今井免狀第一ノ青木氏ニタノム 井上喜代市氏ヨリローンニ三台呉レル由。航本ニ行ク 坂野中佐ニ會フ。サルアンリオノ修理ハ支部ヘ云ヒツケタノデ、出ストスレバ支部カラ出ス筈トノコト。然シ今度ハ外ヘ出ス程仕事ハナイダロウトノ事デアッタ 石橋少佐ニ會ヒウインチ見學ヲ申込ム 係ノ小池大尉ヲ呼ンデ聞ク 見學ハサセナイガ圖面ヲヤルトノコト 來週土曜日又行クコトヲ約ス。東日ニ行ク 羽太氏伊香保ヘ行ツテ明日午後帰ル由。大坂ビルノ井上剛一、桑原氏ニ會フ 瓦斯電拂下ノ件單價ノ打合セヲナス。

◆▼167ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月7日(日)

天気 晴

今日ハユックリ大坂方面へ信太郎ノ様子ヲ書ク 昨日ノ工合ハ大変ヨイトノコトデソノ様ニ書イテ出ス 十一時頃黒沢ヨリ電話アリ 昨夜カラ少シ悪化シテ茲ニ三日ハ危儼(ママ)トノコトニスグ行ッテ見ル 丁度自分ガ行ク前静脈注射ヲヤッタラ急ニ悪クナッタトノコト 自分ガ見テモモウ永クナイト思ワレタ 十時頃マダ右手デ手ヤエリヲツカンタリシテ居タガ意識ハサラニナクソレモ次第二ウゴカサナクナッタ。早ヤ出ルイキガ多クナッテ一時二十五分遂ヒニ呼吸ヲ引取ル 家内ハ自分ガツクトスグ帰宅サセタ 恵美子、仁三郎、和子、清平、キン、お叔母サン、大口等死目ニ會ッタガ徳次ハ今朝友人ノ野球試合ノ写真、写スコトヲ頼マレタトテ行ッテ二時頃帰宅 ツヒニ會エナカッタ 病院カラスグ明日焼場へ運ブ予定ニシタガ帰宅スルト信太郎ガ家へ歸リタイト何度モ云ッタトノコトデ其マ、一度連レテ歸ルコトニシ七時頃到着ス 小供ハ予定通りノ教育ガ進行シ一二年後ニハスデニ役立ツ予定ニナッテ居タノガ、ツヒニ歸ラナクナッタ 省ミレバ「グライダー」ヲヤラセテヤッタ以外之レト云フ樂シミモサセナカッタ 物質的ニハ、ヨク理解シテエシノンデ與レタコトモ涙ノ種トナル

◆▼168ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月8日(月)

天気 晴曇リ

大坂ヨリ兄來ル

醫大ノ診断書ヲ取ルニ入院料全部支拂フ必要アリ 東日ノ方マダ見込ミ立タタ(ママ)ズ。島ノ練習費五百円前納ヲタノンデ居イタノガタ方來 今日ノ金ニナラズ午前中漸クカキアツメテ百十余円支拂ヒ役場ノ手續キヲナス 夜徳永大佐清水録君來 今日家族ト協議ノ上鷺沼ニ墓ヲ作ルコトニ決定ス ヒサノト昨夜母ハ睡モセズ泣キ通シテ居タ

◆▼169ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月9日(火)

天気 雨

イヨ、生身ノ信太郎ト別レル日ガ來タ 九時出棺前晝ヲ取ル 眼ノ間ガヒドク青ナジンデ居タ 顔色ハ眞青デアッタ。大分ニオヒガシテ來タ 一シキリ涙ヲサソワレル お晝頃一尺角ノ箱ニナッテ歸ル 今夜ハお通夜ヲヤメルツモリノ處工場ノモノガ最(ママ)非ヤラセテ與レトノコトニヤラセ

ル 平松氏來 十二日出發シタイトノコトデアッタ

◆▼170ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月10日(水)

天気 薄曇り

安岡須藤ノコトデ局へ行クツヒデニ平松氏ノ材料買ワセル

二時頃大坂ヨリ電話アリ 新世界ノ兄一時デ立ツタカラ迎ヘニ行ツテ呉レトノコト 今日ハ清平ガ夜來ルコトニナツテ居ルノデ丁度幸ヒ 電話ヲカケテ東京駅ヘ迎エニヤル。少シオソク十二時前到着サレタ

清平ガ写真引延バシテ來タガアマリヨク出來テ居ルノデ今ニモ物ヲ云ヒ歩テ歸ツテ來ル様ナ氣ガシテ又涙ノ種トナル

▲▼171ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月11日(木)

天気 晴

午後雲出タガ朝ハ日本晴レノ好晴 風モナクヨイ日デアッタ 八時頃カラ花環ヲ運ベセ十一時ヨリ遺骨ト供物ナド行列ヲ組ンデ寺ヘ送ル 工場前ニテ写真ヲ取ル

一時自分モ寺ニ行ク 荒蒔、安満、小野、高崎各閣下初メ本堂ニアフレル程ノ人デ町ノ人モ大分來テ呉レタ 花環ノ数二十八個 生花其他多数 徳次モ主トナリ黒沢進行係リニヨリ無事終了。帰宅後學生ノグライダー部員ヤ工場クラブ員其他ニ折リ詰メラ出シヤット方付ク 大坂カラ井上代理トシテ中前君來 徳永、井上、同級生、グライダー部員ノ弔詞アリ ボロ、涙ガ出テ困ツタ

何度考ヘ直シテモオシクテ仕方ガナイ。アキラメネバナナイガマダオシイ。看護婦モ今日夕方ヤット歸ル

▲▼172ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月12日(金)

天気 晴

六時起床 喜代市兄ハ今日歸ルトテキカズ十時頃清平、久次郎兄同道東京見物ノ上タ六時二十分東京發ニテ歸坂ス

七時頃清平久次郎別ニ歸シタ食後清平名古屋ノ航空學會ノ三菱愛知時計見学ニ出張 二十円渡ス

終日今日成田山へ参詣ノ予定ガ違ツタノデ終日オチツカズ信太郎ノ守ヲナス 写真ヲ見ルトドウシテモ死ンダ様ニ思エナイ 見ツメテ居ルトダキシメタイ様ナ衝動ニカラレル。兄ガウツ巻線香ヲ買ツテ來テ呉レタ 寢ル時ツケル

▲▼173ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月13日(土)

天気 晴

兄ト二人成田山ニ参詣 護摩ヲ上ゲテ貰ヒ其間公園ヲ散歩ス。本堂前ニテ飯沼夫妻

ガ小供二人連テ居ルノニ會フ。久シク参ラナイノデ兄モ始メテノコトナノデ佐倉ノ宗吾堂ニ參詣 甚兵衛ソバニヨリ晝食シテ午後二時頃帰宅
奈良原先生來 平松氏四時半頃カナリ強ヒ南風ヲツイテ羽田ニ向フ 無事ツイタガ油圧ガ上ラナイトノコトニ明早朝佐藤ヲヤルコトニス
今日ハ一七日 平松機出發ト同時ニ坊サン來 終ッテカラ胴骨ト一所ニ満、照子ノ御骨モ寺ニ預ケル

▲▼174ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月14日(日)

天気 晴

皆ツカレテ居ルラシイノデ今日ハ休日トス ソレニ聯盟ノグライダー大坂ノ方デハヤライトノコトノ由 羽太氏ハ東日分予算ヲ取ツテモヤルトノコトダソウダガマヅダメト見ナケレバナラナイ

平松機風ノ爲出發見合セ

■時ヨリ上京 鳥飼氏宅ヲ見舞フ 妻君一人デ床ノ上ニスワッテ居タ 見タ處ソウ早ク死ニソウデモナイ。スグ出テ途中東日ニヨッタガ誰レモ居ラズ。時間ヲ計ッテ数見氏ニ行ク 児供ハマダ七ツハツ位デアッタ 四年越シ悪ルカッタノダソウダ ヤハリ酒ノ爲メデ脳イツ血デアッタ由。スグ帰宅スルト安藤正継氏ノ長男ガ死ニテヤシク今日二時カラ告別式ノ由 間ニ合ワナイノデ打電シテ居ク

▲▼175ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月15日(月)

天気 晴南風

局へ行キ井上氏ト打合セ 平松君奨励金ニ関スル件 終ッテ航空本部ニ石橋少佐ヲ尋ネル 圖面ガ來テ居タノデ貰ッタガリリースダケノ圖面デアッタノデウインチノヲ小池大尉ニタノム スグ取寄セテ居クトノコトデアッタ

明石町ヘ自動車ノコイルヲ買ヒ三行キハドソンノハ無クシボレーノヲ買テ歸ル 東日ヨヨ香奠返シヲ調ベタラ二百五十バカリ入ルノデ、グライダー模型ヲイツモノ處ヘ見積リヲ頼ミニヨル 圖面ヲ渡シテ東日ニヨル タレモ居ラズ羽太氏ニ置手紙シテグライダー羽布一反ヲ買ヒ帰宅 午後二時半

▲▼176ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月16日(火)

天気 晴

終日在所 奈良原氏來場
完成機ノ計算ヲナス

妻ニグライダーノ羽布ヲ縫ワセ二三枚小サイノヲ自分デカブセテヤル
五時頃浜名氏來 久シ振リデアッタ 六時過ギ夕食ヲ思ッタガマダ一軒ヨルトノコト
デ失禮ス

七時大蔵大坂ヨリ來 九時過ギ岩次郎ヘ行キ泊ル
平松機午後一時三〇分無事大坂着

▲▼177ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月17日(水)

天気 晴

朝方声(ママ)デ佐渡島西店ニシカラレテ居タ。今日迄ノ自分ノ無能ガヒシ、ト感ゼラ
レル。モットモット強クアリタイ

九時頃大蔵帰ル

八時頃山田航空官來 須藤ノ二等場内飛行ト荒木ノサル擴張アリ 晝食後信太郎ニ
線香ヲ上ゲテ帰ル

夕方ノラジオデ川西ノ海江田氏海中ニ墜落即死ノ報アリ スグ弔電ヲ打ツ

▲▼178ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月18日(木)

天気 晴

奈良原氏來場 グライダー競技会開催ニツキ協会井上氏ヨリモヤッテ呉レトノコトデ
アッタトテ予算ヲ作ツテ見ル 千三四百円カゝル 奈良原氏ハ二三三百円デ出來ルツモリ
デ居ラレタラシイ

昨日アタリカラ考慮シテ居タノダガ軍部ノ希望ニ添ヒ且ツクラブノ發展策ニツキ今日
府県青年團カラ一縣ニツキ先毎年十名ツ、ヲ民間學校ニ入レルコト 練習費ハ一名千
円ヅ、縣デ補助シ協会ノ式百円乃至五百円ト軍部カラ機材ノ提供ヲ受ケルコトニヨリ
実現セハ年二四五百名ツ、養生スルコトガ出來ルコトナル 先ヅ試ミニ千葉県デ十名
募集シテ見ルコトニ方針ヲタテル。工場帳簿整理ヲ行フ

▲▼179ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月19日(金)

天気 雨

北海道ノ北デ皆既食トナルノデ先日來サワイデ居タ 當地ハ朝カラ雨 ラジオニヨルト
北海道ハ晴レテ大体成郊(ママ)シタラシイ

夕方ヒサカラ電話アリ 羽太氏ノ妻君入院シタトノコト 淋シイノデ泊リニ來テ呉レト
ノコト キンヲヤルコトニシタガ泣イタリ、ナンカシテツヒニ青木ヲヤル
決算表ヲ作ル

夜香奠返シノ調査 ドウシテモ皆スルニハ三百円入ルラシイ 航空関係ハシナイ様ニ仕様
カドウカマヨウ

◆▼180ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月20日(土)

天気 晴

昨日ト違イ上天気デアッタガ金が無ク今月アル注文ノ聯盟ノグライダー静岡ノグラ
イダー共ニダメトナリ名古屋ノミ脈ハアルガマダ注文書來ラズ。仕事ハ材料ノ不廻リカ
ラ遅レ勝ちトナル

今日ハ局ヘ瓦斯電ノ三式ノ検査願ヒニ上京 ツヒデニ関口ノ就職ノ件荒木ノ學聯就職
ノコトナド森少佐ニ話シテ羽太氏宅ニ行ク 順天堂ニ入院シタガ誰レニモ知ラセテ呉レル
ナトノコトデアッタ由 東日ニ行ク 清水ニダケ話シテ居ク 羽太氏知ラナイカラ。二
時ヨリ帰宅 車中ドウモ淋シイ、タヨリナイ感ガシテ泣ケテ仕方ガナカッタ
今日ハ終日憂鬱デアッタ

◆▼181ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月21日(日)

天気 晴時々驟雨

一日カハリデ庭ノ芝ノ植替手入レヲナス
以前カラ信太郎ニ手傳ワセテヤルツモリガツヒニ一人デヤラネバナラナクナッタ。工場
ノモノ半日手傳ワセル タ方サツパリトナル
杉村ヘ香奠返シノ模型百三十個注文ヲ發ス

◆▼182ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月22日(月)

天気 晴南風強シ

奈良原先生來 來ル金曜日会合 青年飛行士養生ノ件打合せヲナス
清平ニ電話シテ神風シンダー利用ノニシンダー發動機設計者ヲタノム
埴山王子ヘ出張 ガソリン代ダケシカ貰ワズ
女工テル二十円約束シタガ十円ダケ渡ス。
中山弘一氏ヨリ香奠十円來。大口ノ友人齋藤ガ死ンダノデ十円入ルトノコトデ其マ、
渡ス

安岡、菅井ニ呼バレ伊豆伊東へ場所ヲ見ニ行ク
埴山航空本部ニテ各校合同ヲ進メラレタル由

◆▼183ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月23日(火)

天気 晴風夕方止ム

埴山横須賀へ出張 夕方帰ル ツヒデニ横須賀ノ板倉ト云フ海軍出入商人ヨリ代納方申出アリタルニヨリ立寄ラセル タレカ海軍ノ上官カラ伊藤ノ代納ヲヤレト進メラレタトノコト 最(ママ)非ヤラセテ呉レトテ海軍ニ出ス書類一切ヲヨシタ、ガ国税納入額ト設備ニツキ不備ヲ感ズ。ドウシタモノカ考慮ヲ要スル 清平ニ相談シテ見様。
平松氏熊本ヨリ第一信來 発動機々体共ニ何等故障ナカッタ由

◆▼184ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月24日(水)

天気 曇リ

奈良原氏來 昨日上京セラレ清水氏計畫ノ通相招待会ガ実現スルコトニナッタトノコトデ土曜日カ日曜日ニ行フ筈ダトノコト 清水氏ヨリ後チ電話ニテ通相ノ都合上今月中ハ出席不可能ニツキ來月早々ニシテ呉レトノコトデアッタ由。奈良原先生ノ洋服ヲ注文スル 三十七円

昨日清水ヨリ電話デ話シアッタガ昨日奈良原氏東日ニ行キ福知氏ニ會ッタ由 グライダー三台決定シタ由 少シ氣ガ晴レタ 早速材料調査ヲナシ三河へ材木ノ見積リヲ出ス

今夜一度眠リ十時頃目ヲ醒シ再ビ一時頃目醒ル迄ニ死後初メテ信太郎ノ夢ヲ見ル今ノ居間ノ上リロデニ三度歩キ例ノ写真帖ヲ持ッテ間ニハサンダ切ガナイト自分ニ聞クノデアッタ 自分ハ二三日ドヘ行ッテ居タト聞クトソレニハコタエズ窓ヨリノタンスノ前ニシヤガンタマ、次第二影ガウスクナッテ目ガ醒メタ

帰ッタ々々ト大声ニヨビ最後ニコレガ本當ニ帰ッテ呉レタノナラト声ヲ出シタノデ自分デ目ガサメタ。オシイ様ナ氣ガシタ 顔ハ上クチビルガ少シハレテ居タ

◆▼185ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月25日(木)

天気 晴

新グライダーB三型ノ材料調べ予算ヲ作ル

奈良原氏午後來 明日ノ例会ニ出ス操縦士養成案ヲ書イテ來ラレタ 之レニ愛国操縦士ノ名ヲ冠シ多少加筆シテ謄写版ニスラセルコトニス

大坂中山氏ヨリ上京電話アリ 幸ヒナノデ明日ノ例会ニ出テ貰フコトノ承認ヲ得七月一日飛ブ伊豆伊東ノ消防組合長來場

埴山王子へ百円貰ヒニ行キ買物シテ帰ル

◆▼186ページ◆▼ 昭和11(1936)年6月26日(金)

天気 晴

暑い日デアッタ十一時頃デ上京 東日ニ行ク 福知氏羽太氏ニ會フ 東日ノグラライダーセコンダリー二機ダケ決定ス 金六明日出ス様ニスルトノコトデアッタ 桑原君ニ會フ夜食事ヲ共ニシタイトノコト 会合ガアルノデ事ワッタガソレガスンデカラデヨイトノコトデ八時カラ約束ス

五時飛行館ニ行ク。岡田氏ニ會フ 明日返事スルコトス 今日ノ出席者安満、上原、高崎、山崎、渡辺、清平、安岡、埴山、奈良原、自分。外ニ清水オソク來ル 愛国操縦士養成ノ件安満、上原、高崎皆卒業後ノ就職保証ヲ要スルトノ意見デアッタ 食事終ル頃自分ヨリ其不可能不必要ヲ論ジ反省ヲ乞フ 丁度羽太君來タノデ失禮シテ大森ニ行ク。井上浅氏桑原氏待チアグンデ居タ。結局八百余円デ引受タ由デアッタ。十一時頃終ツテ帰ル 大雨ニ會フ 津田沼ハチットモ降ツテ居ナカッタ 十二時半帰宅

▲▼187ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月27日(土)

天気 曇リ

奈良原氏來 共ニ上京 自分ハ東日ニ直行局ニ行ク 有元ノ標式ヲ貰フ 駒林氏ヨリ東日十年式定期ニ當リ下翼補助翼操縦索滑車ノ處デ圖ノ(訳注：図アリ)如クニナツテ居タニテシカラレル 三式ノコックト云ヒ平松アブロモ羽田デ何ニカアッタラシイ 又検査ヲ嚴重ニスルトノコトデアッタ

東日ニテ須田氏モ見エタノデアヤマツテ居ク

一時頃ヨリ待チ五時半半金五百円受取ル アト三十日ニ又呉レルトノコトデアッタ。買物ニ廻ツタガ時間ガオソク重イノトデ充分出來ズ帰ル 八時半頃ツクト皆待ツテ居テ金ヲ取りニ來タノデイヤニナッタ。埴山ヲ呼びニヤリスマサセル 清平來テ居タ 大蔵省全三十三條ニツイテ調べテ來テ呉レタ

▲▼188ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月28日(日)

天気 雨

終日降ル 清平ヨリ神風シンダー利用ノ発動機設計ニツキ報告アリ 柳沢氏ハ新規設計ヲ希望スルラシイノデ同氏ノ指導ヲ受ケテ清平ガヤルコトニス 夏休ミニ小木サンニ手傳ツテ貰フトノコトデアッタ

三崎來 電話ニテ話ス 午後來 五十円ヲ渡シアト明後日百円都合スルコトトシテアトノ注文ヲナス 三日中ニツクトノコトデアッタ

金太郎金ノ相談アリ百円五日頃迄ニアト七月中ニヤルコトニ大エト交渉サセルコトトス

太田三日ニ帰国シタイトノコトデアッタ

▲▼189ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月29日(月)

天気 雨

奈良原氏來場

清平朝帰ル

▲▼190ページ▲▼ 昭和11(1936)年6月30日(火)

天気 曇リ

航空本部ニ石橋少佐訪問 マダ圖面ガ來テ居ナカッタ 東日ニ行ク 今日ハ羽太氏モ十二時頃出ル グライダー殘金全部トゴムノ金百円 外ニ酒田ノ分百五十円受取ル 羽太氏三時ニテ静岡ニ出張ス。フインチ商会ニテ吹付器ノ部品購入 四十円カゝル 高イモノダ 協会ニヨル 飛行場ノ金今日送ツタ由 局ニ行キ井上氏三三日各務ヶ原拂下ノ金依頼ス 再ビ東日ニ行キ鹿島ノ山本氏ニ會フ 今夏ノ講習鹿島ニ決定 日取リヲ七月廿日ヨリ卅日迄 第二期ヲ一日休ンデ八月一日ヨリ十日迄ト決定ス。三河、佐藤、東日迄來テ貰フ 金支拂フ

▲▼191ページ▲▼ 7月

ソアラー グライダー 完成

海軍考慮善處スル事

▲▼192ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月1日(水)

天気 雨

奈良原氏來場 先生ニハ今日ハ五円ダケニシテ貰フ

四時半安岡伊東へ出発 濃霧ノ爲メ羽田ニ不時着後十時一分伊東着 午後一時過ぎ東日ヨリ電話アリ パラシュートノ綱切レテ菅井君墜死ストノコト。埴山東京へ行クトテ出カケタノデスグ呼ビモトシニヤル 其内伊東ヨリ電話アリ 埴山來テ呉レトノコト有金サラエテ十五円持タセテヤル

飛行協会ノ金來ラス

夕方渡辺一英君來 広告料ノ件及浴依(マ)ノ件タノマレル。夕方ヲ進メタガ帰ル。盆栽スモモト、カリン余リ元氣ガヨスギルノデ鉢ニ取ル

▲▼193ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月2日(木)

天気 雨

雨ノ爲メ検査ナシ 然シ念ノ爲メ朝伊東へ電話シテ埴山ヲ呼ビモドス 十二時頃帰場ス。
菅井ノ墜落原因ハ前夜マニラ麻ノ細イモノヲ自分デ付ケタノガ開傘ト同時ニ切レタモノ
トノコトデアッタ

奈良原氏來場 洋服明日出來ル

川辺君ニ居タ松田(朝鮮人)昨夜來 今朝ヨリ來場 使フコトス

▲▼194ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月3日(金)

天気 曇リ晴レ

午前九時ヨリ上京 第一ニ府廳ニ行キ江戸川ノ奨励金ヲ受取り海上ビルニ多田氏ト會
見 山口ノ変リニ黒沢、今井、竹中ノ履歷書ヲ出ス 黒沢採用 但シ二三ヶ月臨時ノコ
ト 都合デ或ハ永久ニナルカモ知レヌ プウノ利用法ニツキ協議 貸飛行機ヲ江戸川デ
ヤル案ニツキ双方考慮スルコトス

局ニ行ク 井上氏、變更登録申請書瓦斯電ヨリ提出 井上氏待ツテ居ラレタソウダガ
自分オソク會ワズ

東日ニ行ク 二時頃芝浦ノエンパイヤニ行キトラックヲ見洲崎ニヨリ更ニ姫路製紐ニテ十
八ミリ五十米ヲ買ヒ社ニ帰ル。六時半ヨリグライダー映畫アリ見ル 八時頃終ル 清
平ニ會フ 二十馬ニサイクル發動機設計タノムコトニキメル 山崎、奈良原、今井、徳
次ト夕食ヲ共ニシテ十二時帰宅

之レハ四日ノ記事

▲▼195ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月4日(土)

天気 晴

安岡帰り昨日ノ協会奨励金残り四十円シカナイノヲ菅井ノ香簞ニ全部持ッテ行ク
金太郎ニ、百円約束ノヲタ方ツヒニ自動車ヲ賣ル決意ヲナシ猪又ヲ呼ビ話ス 百円ヲ
受取りアトハ前ノ分ハ内入ニスルコト モシ發動機分解シテ使用シ得ル様ナレバ十七八日
頃金デ返ス約束トス

野呂氏ヨリ電報アリ V型線上野迄出シニヤル

之レハ五日ノ記事

▲▼196ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月5日(日)

本日ノ記事ハ四日ニアリ

▲▼197ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月6日(月)

天気 雨

今日ハ寒イ日デアッタ 平年ヨリ五度余リ低イ由

斎藤国松ノ母來 今迄ノ誤解ヲワビテ居タ 男ノ様ナ人デアッタガ、ソレデモ年ニ似ズ色ノ黒イノニお白粉ヲツケテ居タノハ少シ變デアッタ。菊池ハ差押エヲシテ來タノソウデ百六十余バカリノ品物デ渡シタ由 其後モ又不足ダト云ツテ取りニ來タ由 ソレハ、ヤラナカッタトノコトデアッタ

奈良原氏來場

晝食後上京 東日デウインチノ金百五十円ト花環代二十五円受取ル。山本平八郎氏來 講習ノ打合せヲナシ帰ル 途中ウインチ用滑車ヲ佐藤ノ前ノ機械屋ヘ注文ス

▲▼198ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月7日(火)

天気 晴レ

曇リ次第第二晴レル

埴山所沢拂下ニ出張 百六十円持タセテヤル

各務ヶ原ノサル汐留ニツイタノデ引取りニ十二三円入ルトノコト 第一ヘ持参サセル。

所沢ノローン今日引取ルトノコト二十時頃自動車ヲヤル 五時過ぎ帰ル 東日ノイス。パノノモ頼ンデ來タ

安岡今日モ菅井ヘ行ク ツヒデニグライダー受注ノ件ニツキ近藤少佐ヘヤル

▲▼199ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月8日(水)

天気 曇リ

埴山霞ヶ浦行

菅井君ノ告別式ガ行ワレルノデ十時頃ヨリ上京 局ニ行ツタガ検査官誰レモ居ラズダ
メ

酒田ノ標式ダケ貰ヒ東日ニヨル 羽太氏席ニ居ラズ來タ時ハ二時ニナツテ居タノデ告別式ニ行ク 誠ニ淋シイモノデアッタ。奈良原氏ト同道東日ニ帰り昨日立替タ拂下代金ヲ受取り、山崎氏ガ津田沼ヘ行ツタカモ知レナイノデスグ帰ル 五時前帰宅ス 來テ居ナカッタ

▲▼200ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月9日(木)

天気 雨

奈良原氏來場

晝前井上氏來 グライダー(酒田行)ト八七作業ノ機体ダケ検査終ル 高工ノ重心変更ノ分モ終了ス

アト十円ヨリナク作業遅延 氣ヲモム

夕方河野浩太郎君來場 十年式ノ件安岡ニ相談サセルコトトス 但シ八月下旬デナケネバ出來ナイコトワコトワツテ居ケ

▲▼201ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月10日(金)

天気 晴雨半バス

昨夜來ノ大雨デ縣下出水多シ

酒田行グライダー積出ス

今日ハ仕事少シハカドル

河野ノ十年式ネット千三百円契約千四百五十円デキメテホシイトノコト安岡ヨリ話シアリ承認ス 金今日來ルトノコトデアッタガ夜鈴木館ヨリ電話アリ向フテ水上ニシテ貰エト云ツテ來タ 金六十三日ニ來ルカヲトノコトデアッタ 何ンダカ少シアヤシイ

▲▼202ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月11日(土)

天気 快晴

奈良原氏來場 昨夜ノ集リ七名 予定ヲ九月下旬トシテヤル由

今夜十時迄共ニ夜業ヲナス 中々ツカレル

竹中酒田へ出發サセル 旅費ニ一苦勞スル

ソアラノ計算書ト圖面山崎氏ヨリ來ル

▲▼203ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月12日(日)

天気 晴

ヨイ日曜デアッタ

山崎氏朝早く來ルトノコトデアッタガ午後來 夕食ヲ共ニシ八時半頃歸ル。九帝五型ノ件ニツキ佐藤博先生へ手紙出ス 名古屋能見氏ヨリ聞合セノ件ニツキ 今日ダケ夜業休ム

▲▼204ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月13日(月)

天気 雨

終日大雨 又出水が大分アルシイ

今日八十時迄夜業 午後アタリカラ身体ガイタクテタマラナカッタ 夜業トタマノ仕事
ノ精ラシイ

猪又ヨリ二百五十円借リル 東日ノネピアトイスパノ クラブノサルヲ担保ニシテ二十
日迄

埴山午後ヨリ局へ行ク

▲▼205ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月14日(火)

天気 晴

梅雨気圧ハ取レテ本格的ノ夏ダソウダ

今日モ大ニガンバツテ夜業 十時十一時半一時頃迄ノモノトヤル 自分ハ十一時半終ッ
タノヲ見テ床ニ入ル

予定ヨリ少シオクレルノニ氣ヲモム

▲▼206ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月15日(水)

天気 晴

大口ト大工一人休ム 今日ノ作業予定ヨリ大夫(ママ)遅レル

十時迄夜業 ソアラ一ハ十一時過ぎ迄

一三ベンツクラブノ分発動機試運轉ヲ行フベク出ス 附近ニテヒビアリ修理。面倒ナリ

▲▼207ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月16日(木)

天気 晴

風強ク砂ホコリデ自分ノ室ハ困ツタ

下痢ガシテ疾ガ痛ンデ閉口シタ

努力ヲ續ケル

ソアラ一ノ金安岡ニ借りニヤツタガ出来上ツテカラニシテ呉レトノコトデアッタ

家内ガ発起シテ共同用ノ老眼鏡ヲ一円五十銭也ニテ買フ ハッキリトヨク見エルイ

ヨ、老境ニ入ッタモノカ

▲▼208ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月17日(金)

天気 晴

風ヤ、ナギ上天気

太田九州ヨリ帰ル

夜十二時半迄夜業 今日ハ身体ヨクナル

母ト吉ガ恐クテ困ル

B三ノ検査木目田氏見テ貰ッタガソアラノ爲メニ駒林氏來場 無事終ル

▲▼209ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月18日(土)

天気 晴

▲▼210ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月19日(日)

天気 晴夕立

マレナル大夕立アリ 七時頃ヨリ停電 九時半頃ツク 其爲メ夜業オクレル 大落雷アリ

羽太氏ヨリ講習ノ一期分百二十五円埴山行ッテ貰フ

▲▼211ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月20日(月)

天気 晴

昨夜ノ大夕立後ノ清々シイ朝 冷ヤカナ風 シメツタ大地 心好イ日デアッタ。初メテナツタ桃二葉枝ゴト取ッテ先ヅ兄ニ供エル 見事ニ實ツタ

作業ハカドラズ ツヒニ徹夜シテマトマラズ

朝五時頃三十分位眠ッたら大ニ気分ヲ回復シタ

埴山局買物等ニ上京サセル

今日ハ支拂ヒ多数ニテ埴山苦心シタガツヒニ及バズ猪又ノ今日期限ノヤツ夜十一時同氏ヲ呼ンデ自分ヨリ交渉 サルヲ渡スコト アトハ霞ヶ浦ノ分ニテ貳百十円ニ対シ品渡スコトニテ話キメル

奈良原山崎氏來場

▲▼212ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月21日(火)

天気 晴

今日モトウ、一日カ、タガ完成セズ夜ニ入ル 自分モソレニツレツヒニ一睡モ出来ズ拂
曉ニ及ブ

▲▼213ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月22日(水)

天気 晴

トウ、夜ガ明ケテモマダ完成ニイタラズツヒニ晝ニナル 十一時半トラック出發 十二
時組立ノ爲メ自分ノ外ニ佐藤、太田、外数名特ニタクシーヲヤトヒ出發 三時着 其
間ヨク眠ル。十五分オクレテ、トラック着 スグ組立ヲ命ジ自分デ萩原へ電話ヲカケニ行
ク。晝食後帰ッタトノコトニガツカリシテ砂丘ニ帰ルト羽太駒林両氏ガ來テ居ラレタノ
デヤット安心 組立試飛行ヲ行フ 七時五分前試飛行ヲ終ル 駒林氏今夜名古屋ニ
出發スルノダソウダ 大変氣ノ毒シタ
自分等ハ夕食後八時出發 トラックニテ帰ル 十二時船橋駅へ羽太氏ヲ送り 十二時
半帰宅 ヤレ、

▲▼214ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月23日(木)

天気 晴

颱風ハ九州ヲアラン日本海ニ出ル
鹿島へ運搬車ヲ持タセテヤル爲メ安元ト小柴ヲ作業サセル 午後二時頃出来上リ山
口君行ク 角同行ス 明日帰ル様申シツケル
今日ハ余暇アリ次第眠ル ヨク眠ル

▲▼215ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月24日(金)

天気 雨後止

日本海ノ颱風ノ余波ニテ風雨アリ 午後止ム
上京ノ予定ナリシモ金ノ爲メ中止ス
拂下代金ノ請求アリタ方ヨリ埴山ト相談 漸ク見込ミツケル

▲▼216ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月25日(土)

天気 晴

局へ五十三円拂下代金ヲ納入 有元及酒田ノ堪航証出ル様手續キヲナシ、大多和君
ニ會フ 社迄送ツテ貰ヒ有楽町ヨリ福知新次氏ヲ訪問 不在デアッタ 留都(マ)ノ人

ニ香奠ヲ預ケ悔ミヲ述ベテ帰りニ品川駅ニテ晝食ヲ取り新橋下車 ヒゲヲソリ大坂ビルニ桑原氏ヲ訪問シタガ東上産業ハカンベンナク戸ガシマツテ居タ 東日ニテ桑原氏ニ會フ。部品ノ賣價決定ヲタノマレ尚遊覽飛行ノ件ヲタノマレ

ソアラ―完成イツニナルカトノコトデアッタガ來月三日頃検査ノ予定ト返事ス

帰宅 寺ノ都合ニテ六時頃寺ニテ讀經ヲ乞ヒ工場員クラブ員高工學生三名モ参拝ス 帰ツテ夕食ヲ出ス

▲▼217ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月26日(日)

天気 晴

晝前清平來 夜帰ル 來週ヨリ小林サント來ル由 トナリノ室ヲ整頓シテ居クコトトス 支拂予定ヲ作り埴山安岡ト相談方止ムヲ得ザル外全部七日頃支拂ニキメル。桑原氏ノ部品定價表ニ分ル分ダケ記入シ尚エヤータクシーノ計算表ヲ作ル

▲▼218ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月27日(月)

天気 晴

上京 局ニ行ク 加藤氏ト市川ヨリ一所ニナリ同道ス 堪航証明 日コナル由明日出ル 森サンニ関ロノ件タノム スグ一度聞合セテ見ルトノコトデアッタ。万一ノ場合海軍航空廠ノ方ヲ頼ム。

東日ニ行ク 夕方迄居ル。桑原氏ニ會フ 嶋風ノ金來月十日頃ニシテ貰フ タクシー予算書渡ス

局ニテ斎藤国松事故判定ヲ写シ協會倉重君ニ渡ス 夜協會ヨリ安藤堅造氏ノ欧州ノ近況ヲ聞キ活動ヲ見テ帰ル 九時帰宅

▲▼219ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月28日(火)

天気 晴

終日在所 局ノ奨励金來ルカ、ト待ッタガツヒニ來ラズ。ソアラ―ノベニヤ取レズ。夕方渡辺一英君來タガ拂エズ。

憲兵分隊長トノ會合ノ爲メ谷津遊園樂天府ニ行ク 五時ヨリ分隊長他一名來 話シハ写真撮影ガ主デアト二一寸支那人ニ関スル話ダケ 結局自分ノ方ニハ余リ關係ノナイコトデアッタ 二三時間想(マ)談シテ分レル

朝日ノ中野君來 古イ民間ノ人ノ坐談会ヲヤリタイノデ其人達ノ名ヲ聞キタイトノコトデアッタ

▲▼220ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月29日(水)

天気 晴

終日在所

今日モ金來ラズ 作業遅レル

▲▼221ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月30日(木)

天気 晴

大政ヲ連レ津田沼ヨリ乗車 千葉七時五分発ニ乗車 笹川駅へ降リルト肥田木ガ柳原先生ヲ迎ニ來テ居タ 成程知ラナカタガ柳原氏ガ二等車カラ出テ來タノデ同行ス萩原デ自動車ノ便悪ク大分時間ガカッテヤット砂丘ニツク。スグ柳原氏ノ講演ニウツリ閉会トナル

十日間ノ概況ヲ聞キ、今井武中帰ルトノコトニ羽太氏ヨリ二期分ノ中ヨリ三十円借リテ渡ス 肥田木ナド休マセテヤロウト思ツタガ二期ノ会員ガ多スギルトデ十号ヲ組立ルベク明日仕事スルコトヲ申シ渡ス 羽太氏一行ト共ニ潮來旅館ニ行ク。萩原ヨリ舟デ行ツタノデオソクナリ九時頃入浴後食事。潮來情趣アヤメオドリヲ見ル

▲▼222ページ▲▼ 昭和11(1936)年7月31日(金)

天気 晴

朝羽太氏ノ起キルノヲ待ツテ山崎氏ト共ニ自動車ヲタノミ、銚子ニ行ク 小野氏モ同乗シテ鹿島神社ニ参拝 コヽデ小野氏ハバスニ乗り替へ砂丘ニ行ク 潮來ニテ第二期講習費殘金九十五円ヲ受取ル 十号機ノ修理ニ着手ス 津田沼ヨリ工藤病氣デ行ケヌトノ電報アリ。夕方高工ノ根木外二名來 スグ手傳ツテ呉レタ。夕方薄クラクナル頃タ立雲ト風ガ來テグライダーヲ格納シタリシテ時間オクレル。山口、肥田木、大政、近藤、山本氏同道神柳亭ニ行ク 歩クト中々遠ヒ 入浴後ビールヲ初メ十二時頃終ル 今日運轉士ガ來タトテ自動車動ク様ニナル 試運轉ニ皆送ツテ呉レテ歸リハ助カッタ 自分獨リ泊ル

▲▼223ページ▲▼ 8月

ソアラ―完成

軽飛行機進行

第二ソアラ―着手

プライマリ、B三着手
モス注文決定ヲ進メルコト

◆◆224ページ◆◆ 昭和11(1936)年8月1日(土)

天気 晴

六時半起床 昨夜ビールノ飲ミ過ギデ朝食ハ取ラズ八時過ギ自動車ヲタノミ勘定ヲ支拂テ砂丘ニ行ク 第二期入会員ヲ迎エル順(ママ)備ヲト、ノエカタワラ十号ノ修理ト組立ヲ進メル

十二時過ギ会員ト共ニ清水、武中、今井來場

一時過ギ羽太氏一行來 開会ノ辭 羽太氏小野氏ノ挨拶 柳原氏ノ氣象、山崎氏ノグライダーノ原理以上終リB三ノウインチ曳航ヲ行フ 武中清水ト二回ヤル 沈下モ話シ程早くハナカッタ 傾斜サセナケレバ決シテ悪イ状態デハナイ様ダ。ウインチノローラガ工合ガ悪イノデ應急手當ヲ命ジテ居ク 五時過ギ立ッテ七時五分笹川発ニテ帰ル一行ト千葉駅ニテ分レル
終バスヲ幕張デトラエテ帰ル。久次郎來テ居タ

◆◆225ページ◆◆ 昭和11(1936)年8月2日(日)

天気 晴風

風強シ。

鳥飼氏來 イヨ、コチラへ來ルカラ宜シクタノムトノコト 客分トシテ居イテ貰ヒタイ、給料ナドヲキメナクテモヨイトオシツケテ來テノ話シデ長屋へ這入リタカッタ様ダガ之レハ、体ヨクコトワル。安岡ノモト居タ家ヲ家賃ヲ聞イテヤルコトニス。コマッタコトニナッタ奈良原氏來。明日上京 明後日來ル由。六日透明飛行機發明者一行鹿島へ同行スルコトニキメル

安岡、埴山ヨリ留都(ママ)中ノコトヲ聞ク 局ノ金卅一日ニツイタ由ダガ作業ガ呉レナカッタノデ大分苦シダ由

◆◆226ページ◆◆ 昭和11(1936)年8月3日(月)

天気 曇リ

昨夜來雨 晝ハヤム

昨夜十一時半ヨリト今朝六時半カラ獨逸ノオリンピック実況放送アリ 大變ヨク分ツタ 百米デハ日本ノ期待シタ吉岡ガ第一豫撰ニ破レ第二豫撰デ鈴木負ケ準決勝ニモ這入ラナカッタ 一万米デハフィンランドノ三人ニ村社一人アリ頑張ツタガ四着トナル

非(ママ)壮デアッタ

市川在郷軍人明後五日カラ鹿島ニ行キタイトノコトニ羽太氏ニ話シ承認ヲ得
今村、太田休ム。北坂出タガ兄ガ來テ午後休ム 不在中梅川ノヤッタ仕事ヤリ直シデ
合板張替エ 又一日遅レル
今日カラソアラ一時間延バス

▲▼227ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月4日(火)

天気 曇リ後晴

埴山横須賀行 午後四時頃帰ル

奈良原氏來 金ガ入ルトノコトニ安岡五円ドカラ作ッテ來テ渡ス アト金ノ入用アリ
甲四梶原へ譲ルコトトシ電話デ話シ車輪ヲ取ッテ四十五円デ渡ス 今日金ヲ取リニヤル
午後清平ニ横河電機へ見積リニツキ不明ノ點ヲ聞キニヤル 夜九時頃帰ル 見積リヲ急
グトノコトデアッタ

▲▼228ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月5日(水)

天気 晴

横川電機見積書提出

ソアラ一翼巾二十ミリ広ク出來テ居ルコトヲ発見 ツヒニ切りツメルコトニ決定 ヤリ直
サセル

今日晝前研究所小林サン來テ呉レル
午後カラ仕事ニカッタ

▲▼229ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月6日(木)

天気 晴

一番自動車デ幕張ヨリ行ク 千葉ニテ奈良原先生ト会ヒ同車ス 東京カラ來ル筈ノ透
明飛行機ノ連中笹川ニツイテモツヒニ來ラズ。ガツカリス
砂丘ニテローラーヲ取替午後ヤッテ見ル 大変工合ガヨカッタノデ安心ス
徳次ノ飛行ヲ初メテ見ル 割ニウマクヤッタ 之レガ両手ガアッタラトツクハ、思フ。兄
タ方頼ンダ自動車デ七時五分笹川発ニ乗ル。千葉終発ノ自動車ヲ幕張デ丁度間ニ合
フ 帰宅夕食

▲▼230ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月7日(金)

天気 快晴時々雨

今日ハ悪日デアッタ 昨夜家内カラ皆ノモノガ給料ノコトニツキ今日話シニ來ルトノコトヲ聞イテ居タノデ埴山ト朝相談中、安岡ガ連レテ、今村、太田、佐藤、布施、角、來要求ハ食ニ困ルカラ他ニ職ヲ求メル、ソレニ工場ヲ休ムカモ知レナイカラ承知シテ呉レトノコトデアッタ 止ムヲ得ナイコトトシタガ承認ヲ與ヘル譯ニハ行カナイ 之レハ今村ダケノ話シラシイ 角ガ他ニ轉向シタイ希望ヲ初メテ申出デタノハ意外デアッタガ以前他カラ聞イテ居タコトガヤハリ事実デアッタコトヲ思ワセタ。

渡辺一英君來タガ金ヤレナカッタ 奈良原氏來 五円入ルトノコト。夕方猪又ヲ呼ビ佐々木ノデ全部一度決済スル約束デアトノ五十円出サセルコトニシ三十円受取り奈良原氏ニ五円 栄助へ五円 太田へ三円、羽太氏ノ花環代十一円デホトンド無クナル今夜兄ノナクッタノガ、ツクゞ、オシク淋シカッタ

今日早朝村ノ人ガ來テ御盆ノ新佛ヲ迎ヘル準備ヲ進メテ呉レタ

▲▼231ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月8日(土)

天気 晴タ立アリ

午後山崎氏來 ソアラ一仮組立支柱主翼ニツキ強サノ協議 重心點側(ママ)定ヲナス夕食ハ清平ノ友人三名モ來テ泊ルノデニギヤカデアッタ 食事中突然徳次ト久次郎ガ帰ッテ來タ 市川ノグライダーヲ持ッテ帰ヘッテ來タトノコト 丁度大雨ニナッテ來タ處デアッタ 八時過ギ山崎氏帰ル

▲▼232ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月9日(日)

天気 晴曇

昨日電話デ約束シタノデ芝谷ノ八七見積リノ爲メ洲崎へ丁度十時着 金主ラシイ人ニ照(ママ)介サレル スグ見積リ大体ニ金額ヲ千二百余円ト出ス ツヒニ中止トナルラシイ

遠藤君ト少時話シ會ッテ東日ニ行ク 自動車ノ整備費トフトンノ金ヲ貰フベク話シタガ予算ガナクナッタノデ一兩日中ニアトノ予算ヲ決定 其方カラ出ストノコトデアッタ。今日大蔵満州里ヲ午前十時五分出發シタトノコトデ情報ヲ待ツ 三時半頃一時二十分奉天着報アリ 発報ガナカッタ。シバラクマッタ後チ途中銅釘ヲ買ヒ帰途作業会社ニヨリ妻君ニ先日ノ見舞ヲ述べ帰ル

埴山作業ノ八七ニ桐生へ出發 一週間ノ予定

▲▼233ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月10日(月)

天気 晴曇リ

金ナクテ鹿島行き中止 猪又ニ五十円作ラセルベク朝夕二回話シタガダメ 悲観ス 夜協会ノ金急ガセルコトニキメル
夕方鹿島ヨリ自動車來 梅川帰ル 胴体ト尾翼ナド來ル 大分コワレテ居タ 昨日又最後后東京高工ノヲ一台コワシタ由

▲▼234ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月11日(火)

天気 晴

朝旋風ノ金ノコトデ桑原氏ニ電話シタラ不在。スグアトへ使ヒトシテ井上君ガ來タ 明日上京 午後東日デ會フ約束ヲナス
今日ハ翼七枚胴体一ツ帰ル 肥田木ト大政帰ル
朝今井、竹中來 講習中ノコトヲ聞ク
佐々木泰介、酒田、請求書提出

▲▼235ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月12日(水)

天気 晴

今日ハ又暑カッタ

奈良原氏來 局ノ佐々木ノ奨励金受取ル 猪又約束通り全額支拂ヒ改メテ百円借りル

東日へ行ク予定ヲ明日ニシ德次ヲ使ニヤル 五十円ダケ旋風ノ金ニ内金トシ、東日講習ノ修理材料代百〇七円余トナル 明細書ヲ作り自動車ノ改造費ト共ニ持タセテヤル。
岡田勇氏ニモ會フ約束シタノデ手紙ト共ニ約束手形書替エテ東日ニ預ケテ居ク
四時頃ヨリ奈良原氏ト徳永氏訪問 愛国操縦士ノ件大賛成セラレタノハヨカッタ。奈良原先生ノ口数多イノニ閉口ス。急所ダケ自分カラヨク頼ム

▲▼236ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月13日(木)

天気 晴

今日コトニ暑カッタ 宅デ三十五度ニナッタ由

朝協会ノ西山君ニ電話シタラ昨日手續キシテ居イタトノコトニ朝ノ郵便ヲ待ち通知書ヲ受取リスグ上京 東京府廳ニテ有元央郎ノ金受取ル。スグ第一銀行デ現金ニシツヒデニ時代社ヨリ三十円ダケ渡辺氏へ預ケフィチ商会ニテ、銀ラッカーヲ買ヒ東日ニ行ク 羽太氏不在 三時頃帰ル スグ金六貫ツタガ材料ハB三ノ修理代トナル。桑原氏同道シテ來タノデツヒニ五十円残金支拂フ 困ツタガ止ムヲ得ナイ。講習人員ニ名ダケ

金が出ルコトナリ帰ル。スグ支拂ヒニ着手 皆シナニモ少シツ、分ケニヤル アト銀行ノ
百十円ダケ残ル 如何トモナラズ 丁度桑原ニヤッタ五十円ダケ不足トナル

◆▼237ページ◆▼ 昭和11(1936)年8月14日(金)

天気 晴

終日在所 羽布張り終ル 後部尾翼前ノカバー型ヲ取ル

今日モ暑カッタ 奈良原氏午後來場

小林氏ニ、十五円 清平ニ五円札 清平明夜大坂へ立ツ由 大坂へ又送金シテヤルコト
トス。ソレデモ丁度銀行ノ金五十円不足ス 猪又ニ話ス 夕方迄ニ持参セズ 尚外二局ノ
納金五十円アリ安岡ニ話シテ居ク

洋服ヲ一着注文ス

◆▼238ページ◆▼ 昭和11(1936)年8月15日(土)

天気 晴

時事 水上日本万歳 二〇〇平泳千五百ニ優勝ス

今日モ天気ハヨカッタガ幾分楽デアッタ

明日B三飛行機曳航アンリオデヤル爲メノ準備ニ着手 櫓ヲ新調ス B三組立多少修
理ヲナス

今夜十時過ぎ近所ノ人ガ來テ御霊ヲ寺ニ送ル 寺へ五円上ゲテ送ッタ人ニモソレ、ハ札
ヲスルノダトノコト 一寸金ノカハルお盆ダ。自分ハ宅デ見送ル 何ンダカホントウノ人
間ガ帰ツテ行ク様ナ淋シサヲ感ズル
夕方山縣ノ墓ニ参ル

十時四十分ヨリ最后ノ伯林ヨリノ放送アリ 水上日本勝ツカ米国勝ツカノ決勝戦。聞
クノガ恐レラレタガ聞カナイデ居ラナレナイ氣持チ ソレデモ二〇〇、一五〇〇共ニ優
勝シテホツトシタ

◆▼239ページ◆▼ 昭和11(1936)年8月16日(日)

天気 曇リ晴

今朝大雨アリ。吹付屋外三四名出

十時頃清水君モ三人支那人ヲ連レテ來ル 晝メシ迄出サセテ困ッタヤツダ。今日ノB
三アンリオニヨル曳航ハ全ク清水ノ爲メニ行フノデ其爲メ数名ノモノガ出テ居ル訳ケデ
其旨話シテ居ク 晝食中午後一時頃協会ノ小野氏ト羽太氏來 イキナリ、整備モ出
來テナイデ飛バスコトハダメダトプン、起ツテ居タ 尚後チ今日ハソアラームB三モ出

來テ居ルトノコトデアッタガトノコトデソレハ何ニカノ間違ヒダ ソアラー今日飛バスナン
テ云ツタ覺エハナイト話ス 山崎氏ニ聞イタトノコト。アジアンゲッピンゲ一型ヲ買フコト
ニナルカモ知レヌカラ其時ハ悪シカラズトノコトデアッタ B三モ修理ハ完成シテハナイガ
飛バス爲メニ必要ナコトダケハシテアルノデ危儉(マ)ナド更ニナイハッデアッタガ中止サ
セル

▲▼240ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月17日(月)

天気 晴

朝曇ツテ居タガ後晴レ 塗料塗リニヨクナル

下塗り磨キヲナシ銀色仕上ゲ終ル

奈良原氏、豊田君來 晝食ヲ共ニス

羽太君へ昨日ノ件ニツキ手紙出シ誤解ヲ解クコトニツトム

▲▼241ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月18日(火)

天気 晴

奈良原氏來場

山口君自動車持ッテ來ル

▲▼242ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月19日(水)

天気 晴

羽太夫人ノ實家ノ葬式ニ参列ノ爲メ朝出ル 九時ニ参拝ヲ終リスグ帰宅。グライダー
整備ヲ急ガセル

運送店聞合セ 局ノ検査打合セヲナス。羽太氏へ廿二日積出スコト電話ニテ知ラセル
運賃玉造迄九十五円十銭 ソレデヨシトノコト

奈良原氏見エタガ気分悪イトテ早ク帰ラル

▲▼243ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月20日(木)

天気 晴

二三日來朝晩大變涼シイ

正午山崎氏來 組立オクレタ方時間後重心點ヲ計ル 夕食後八時過ギ帰ル

出田氏ノ話シタラ大變ヨロコンデ最(マ)非ヤル様ニシタイトノコトデアッタ。出田氏ヨ
リ返信來 コチラノ代價ニ対シ大体予定シテ居タトノコトデアッタ

検査明後日來ルコトニ決定ス

▲▼244ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月21日(金)

天気 晴

カバーノ一部マダ出來ナカッタガ午後三時過ギヨリ試験 ゴムニテ二回 後チ汐ガ上ゲテ來タノデアシリオニテ引ク 二十米位上ツテカラスグ綱ヲ放シタ。ヤハリ曳航ニナレナイ爲メトアシリオニカガナイ爲ラシカッタ

山崎氏來場

埴山桐生ヨリ帰ル 仕事ハマダ終ワラヌ由

夜業一時迄 明日ノ準備進メル

夕方電気会社ヨリ電燈ヲ消シ來テ閉口 中台ニ頼ンデ五十円借り漸ク夜業出來ル

▲▼245ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月22日(土)

天気 曇小雨

山風ニナル 朝カラ小雨心配シタガ後止ム 埴山局ノ井上武ノ金タノミニヤル 月曜日 送金ニナル由

荷造用ノ木材買フノニ大マゴツク 之又中台ヨリ融通シテ取ル

駒林氏來場 検査割ニ簡單ニ終ル アシリオヲ見テ貰ヒ日本飛行學校ノペラモ終ル

羽太山崎清水三氏自動車デ來 丁度曳航ヲ初メル處デアッタ 検見川迄行キ高度百米位ニテ右ヘ海ニ廻リ幕張前ニテハナス 少シ早過ギタノデ聞イタラヤハリ昨日ト同ジデグライダーノ方ガ下ツテ上ラナイ爲メデアッタ。羽太氏ヨリアトスグヤツテ貰フカラ金ハイツデモ出ストノコトデアッタ

▲▼246ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月23日(日)

天気 曇リ

雨模様デムシアツカッタガ午後サツト大雨ガ通過スルトアトハスゞシクナツタ

六時頃トテモ氣持ヨク起床 朝食後又眠クナツタノデ横ニナツタラ其マヽ晝迄寢テシマツタ 昨日デソアラヲ終ツタノデスツカリ、ツカレタラシイ 信太郎死ンデ以來始メテユツタリシタ氣持チニナル

午後大神宮ノ宮司外二名來場

昨日來タガ話シヲシテ居ル暇モナカッタノデ大藏ノ妻呼ビニヤリタ食ヲ共ニス

▲▼247ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月24日(月)

天気 晴

天気ヨクナル 航空局ヘソアラ一申請書提出 日誌ニ記入シテ貰フ(駒林氏) 森、山田
両氏ニ関口ノ件呉レタ々依頼ス 井上氏ヨリ拂下納入金六百三十円預ル
羽太氏丁度來テ居タ 後チ社ニ行キ千五百円ニテ見積リ提出 半分七百五十円借リ
ル 三時頃大坂ノ講習ニ行ク者集ル。兄ガ生キテ居タラ勿論行ツタ事デアロウシ福島
良子モ行ク 利根川氏ヨリセコンダリー製作ニツキ想(ママ)談アリ 夕方奈良原氏宅ニ
ヨリ明日監理課長來場ノコトヲ知ラセテ帰ル 清平ガ來テ居タ 十円ヤル おキンモ夜
帰ツテ來タ ドウモアスノ支拂ガ困難ニナル

◆◆248ページ◆◆ 昭和11(1936)年8月25日(火)

天気 晴

航空局監理課長來場ノ爲メ工場整頓シ居ク
午後二時頃來 奈良原氏其爲メ晝前來場 御供数名アリ 飛行場ノ沿革ニツキ一通
リ奈良原氏ヨリ話シ工場ヲ見、グライダーノ練習振リヲ見テ帰ル。奈良原氏通信省
ノ當地埋立計畫アルコトヲ話ス ソンナコトハ向フノ方ガ本家 今日來タノモ其爲メデナ
イカト思ワレルノデ余計ナコトヲ云ワレルト思ツタ 内務省ノ利根川治水工事ニトモナ
ウ埋立モ決定シテ居ル様ナ話シヲサレタノデ、之レハ内務省ノ予定計畫ニ新聞ニハ出テ
居ナカッタト打チ消シテ居ク

今日工場員二一通リ約一ヶ月分ツ、支拂フ 外ニ細カイモノ大部分支拂ツタガ材料屋
ノ大口ト中台其他保健ノ方モ九十余円アリイヅレモ出來ズ

◆◆249ページ◆◆ 昭和11(1936)年8月26日(水)

天気 曇リ雨

心配シタ局ノ井上武ノ奨励金到着 スグ金ニナル コレデイヨ、大坂ヘ行クコトヲ決メ
ル 香奠返シハ引取ルコトヲ止メ其内ヨリ渡辺氏ニ浴衣ノ金ヲ支拂フコトトシアトニベニ
ヤトガソリン米代等七八十円埴山ニ渡シテ居ク
家内ガ千葉辻土産物ヲ買ヒニ出カケ五円バカリ入ル キンニ五円ヤル 四時過ぎ皆ニソ
レ、依頼シテ出發 久次郎ト徳次ヲ連レ東京駅ニ荷物ヲ一時預ケシテ、タクシーデ泉
岳寺ヲ見物シ銀坐ヲ散歩シ天金デタ食ヲシテ東京駅デ一時間半程待ツ 九時五十五
分發ニ乗ル 大変スイテ居テヨカッタ 清平後キン清平ノ友人見送ツテ呉レル 品川ア
タリヨリ雨トナル。輸送会社ノ萩野氏同社シ寢台券ニ枚余ツテ居ルカラトテ久次郎ト
徳次ヲ寢サセル 久次郎夜中ニ起キテ自分ト代ツテ呉レタガツヒニヨク眠レナカッタ 三
等寢台ト云フノ二初メテ乗ツタ

◆▼250ページ◆▼ 昭和11(1936)年8月27日(木)

天気 晴

時事 颱風ハ朝鮮ヲアラシテ日本海ヨリウラジオ方面ニ到ル

七時起床 工場へ手紙ヲ書キ日記ヲツケヒゲヲソル 十一時半ヨリ久次郎徳次ヲ連レテ葬儀ニ参列 一時二十分終ルト講習員ト共ニ盾津ニ行ク 方向舵來テ居タ。土井君ヤツテ呉レナイノデ自分デ取替エル。調ベルト尾翼ナドボールトチットモベテナカッタ。肥田木ニ云ヒ付ケテ居ク

夕方帰ル。夜黒沢カラ電話アッタ由 今夕大坂毎夕へ賣タプウニ台ノ件デ來タガゴタツイテ居ルトノコトデアッタ

夜新世界へ行ク 竹中今井、島、外三名來 ビールトサイダーヲ出ス

◆▼251ページ◆▼ 昭和11(1936)年8月28日(金)

天気 晴

夜ガ明ケテ帰宅 小供等ハ天王寺大坂城ヲ見テ大蔵ニ行 自分ハ盾津行キ 今日ハ今里迄市電デ行キ晝ノ辨當ニすシヲ買ヒタクシーニ乗ル 一円三十錢デ丁度ツク 山崎氏居ラズ 四五人トすシヲ共ニ喰ヒ食後合宿デ一人眠ル 三時頃ヨリ練習ガ初マッタノデ飛行場ニ出ル 山崎氏來テ居タ 今朝十時ニツイタ由 夕方共ニ帰宅 山口君モ同道。夕食入浴後山崎氏ヲ梅田ホテルニ送り、山口ト寺ニ行キ十一時半迄居テ帰宅就床

◆▼252ページ◆▼ 昭和11(1936)年8月29日(土)

天気 曇リシユウ雨

時事 大多田氏墜死

大津駅ヲ通過シタノデ萩野君ヲ起シ京都ヲ過ギテ朝食ヲ共ニス 一人分ダケ寢台料ヲ支拂ツタガ取ラズ 焼蛤ヲ一ツ贈ル。

葬兄ノ宅ニ九時過ギツク 今日丁度元ノ家ニ引越シタ處デアッタ 父ノ死後六年振リデ生家ニ落付クコトガ出來テ嬉シクカツナツカシカッタ 晝頃和田氏盾津へ行クトノコトニ徳次ヲ連レ十二時十五分前大毎ニ行ク 佐藤先生、和田氏福知氏同道盾津ニ行ク 順潮ニ進行シテ居タ 大蔵ニモ會フ 其他元氣ニヤツテ居タ 大多田氏モ挨拶ニコラレタ。三時頃社ノ自動車社(マ)デ帰ル 七時頃大蔵ヨリ電話アリ 曳航機一三墜落 操縦士小林(国粹)同乗大多和氏即死トノコト スグ津田沼ニ知ラセ、モーニング送ラセル。十時頃寺ガキマッタノデ御通夜ニ行ク。グライダーガ飛行機ノ上ニ出タ爲メ垂直ニナリ墜落セリ 大多和氏ハグライダー離レル瞬間飛ビ出サレタトノコト。グライダーハ浜

松ノ 氏操縦 無事デアッタ

▲▼253ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月30日(日)

天気 晴

モウ、金ガ減ルノデ氣ガ引ケル
兄同道徳次ヲ連レ盾津ニ行ク 講習会教官連ニビール一打持参 盾津ヘツクト丁度四
王天中将 小野少将、近藤中佐ガ來テ居タ。山崎氏ヨリ近藤サンニソアラノ説明ヲ
ナス。今日平松君ガ一型ノ櫓ヲコワシテ練習オクレル。C一ノ試飛行出來ソウニモナイ
ノデ三時頃大軌迄送ツテ貰ツテ帰ル 新世界ニテ入浴 夕食ノ馳走ニナリ山崎氏ニ新
世界ヲ一廻リシテ大毎ニヨリ梅田駅ニ行ク 時間一時間アルノデ地下鉄ニテ南海迄行
キ、アイスクリームヲ一杯ノンデ引返シ九時五十分發ヲ見送ル。荒蒔中将十二時帰ル
ノデ之レヲ見送リ十時三十五分羽太氏太多和君ノ遺骨帰ルノヲ見送ル 一枚ノ入場
券デ三列車ヲ見送ツテ帰宅 トテモクタ、ニクタブレタ

▲▼254ページ▲▼ 昭和11(1936)年8月31日(月)

天気 晴

暑イ日デアッタ ユックリ八時過ギ迄寢タガマダクタブレガ取レナカッタ
十一時半中山氏ニ電話シタガ分ラズ西店ヘ晝過ギ聞イタラ今帰ッタトノコト。兎二角店
ヘ行ツテ見ル 丁度一時 今食事ニ行キマシタトノコト。一時間程待ツ 他ニ來客アリ三
時頃少シ話ス。増資ノ方法ハ株式公募ガヨイダロウトノコト 大坂方面ハ二三中山氏引
受ルトノコトデ其方針デ研究ヲ進メルコトトス ドチラニシテモ本年ハ運勢ガ悪イカラ
研究ト下準備ヲシテ來年度実施スル方針ニ心デキメル
スグ盾津ヘ行ッタラ格納庫ガシマツテ誰レモ居ラズ。午前中デ止メタトノコト 馬鹿ヲ見
テスグ引返ス 途中島ニ会フ 利根川氏ノ金取ルコト 二三十円都合スルコトヲタノンデ
居ク。帰ツテ少シ晝寢 夜早寢ス

▲▼255ページ▲▼ 9月

- 一 東日ソアラ進行
- 一 アト他注文運動ノコト
- 一 軽飛行機着手

▲▼256ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月1日(火)

天気 晴

徳次一人デ奈良見物ニヤリ自分佐渡島ニ行ク 久シ振リノ主人ニ會フ 小一時間懇談
航空界ノ状勢ヲ報告ス 増資問題ニツキ話シ年内研究準備シテ來年度發表実施スル
方針トス。中山氏ニモ會ツタガ話シハ昨日済ンダノデ失禮。大毎ニ福知氏ト會見 輕飛
行機旋風ヲ付ケテ協会ノ金デアルコトヲ進メル。一三ペラ予備ガアッタラ送ツテ貰フコ
トヲタノム 帰途朝日ニ挨拶ニヨル 皆霧ヶ峰ニ行ツテ不在 名刺ヲ置イテ帰ル。
夕食事中大雷雨アリ 附近ニヶ所ノ電柱二本焼ク

▲▼257ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月2日(水)

天気 晴

五時半起床 六時五十五分發富士ニ乗ルコトガ出來タ
今日航空章授與式ガ通信大臣カラアルノガ十時トノコトニ京都ヨリ祝電ヲ發ス 受賞
者安岡大蔵、張三人本所出身 其他七名ハ委託生第一期ヨリ三名 第二期ヨリ三名
第三期一名デアツテ純民間出身ハ本所ダケデ獨センシタ訳デアッタ。大津ヲ過ギ伊吹
附近カラハ車窓左側ニソウテ、キムラスガツゞキ箱根迄切レ間ナカッタ。大坂東京間帆
走モ可能ニ思ワレタ
五時前工場作業中帰宅。オミヤゲヲ少シヅゝ分ケル 早く床ニ入ツタガ又夜中ニ雷リ
デ眠ヲサマタゲラレタ

▲▼258ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月3日(木)

天気 晴

九時頃迄眠ル マダ眠カッタ
奈良原氏來場 安岡ノ祝賀會ヲヤロウトノ事デアッタガドウモ氣ガ進マナカッタ
タ方考ヘテ霧ヶ峰モ丁度見タイシ朝日モ顔出シナケレバ悪イ様ニ思ッタノデ今夜ノ夜行
デ行クコトニキメル
十時宅ヲ出新宿十一時五十分發ニ乗ル 甲府迄電化シテ居ルノデ笹子ハ樂デアッタ
坐席ハ二人ニナッタノデ眠レナカッタ
タ立アリ

▲▼259ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月4日(金)

天気 晴

六時着ト聞イテ居タガ七時デアッタ スグ駅前ノタクシーニ朝日ノ旗ヲツケタ自動車
ガ居タノデ今カラ山ヘ行ク人ヲ迎ヘニ行クトノコトニ同乗ス 少々キマリ悪カッタガ山田

航空官や藤田、鈴木大尉ト一所ニナル。山デハ嬉(マン)ンデ迎ヘテ呉レタ 長山敬、尾崎行輝氏ナドメヅラシイ人ニ會フ

晝食ノ午前ソアラノ競技ヲ見終ツテ晝食後帰ル 出田氏ト一所ニナル 四時三十分ニ乗ル

八時五十分新宿着 十時帰宅 クタブレタ

◆▼260ページ◆▼ 昭和11(1936)年9月5日(土)

天気 晴

午前中工賃材料調査傳表ヲ作ル

奈良原氏來場

晝食後東日ヘ挨拶ノ爲メ上京。羽太、岡、清水皆居タ 昨日見学ノ模様ヲ話シ函根ヲ急速ニ進メルコトヲ進言ス 丁度三島カラオリンピックニソナエテ積極的ニ進ムベク手紙ガ來テ居タ。B三ニ台プライマリニ台修理ニ式百五十円程カヽッタコトヲ話シ奨励金貰フコトニス。ソアラノ羽田ニ到着 自動車四時廿五分羽田着 ソアラノカバーヤ計器板ヲ付ケル爲メ津田沼ヘ送ルコトヲ依頼ス。帰りニ報知ニヨル 早川氏不在 九ニ欲シイトノ件河井氏デハ不明デアッタ

C一評判悪ルクアトノ分ソアラヲ作ツテ貰ヒタイトノコトデアッタ スグ其旨山崎氏ヘ手紙出シテ居ク

◆▼261ページ◆▼ 昭和11(1936)年9月6日(日)

天気 晴

午前中自分ノ室ニテ讀書ト輕飛行機性能ノ書キ抜キ

午後宅ノ方デ休養 高見氏ヲ待ツ 二時頃小供三人連レデ來 大楠公ヨリ小楠公ニ與ヘタ遺訓ノ写シガ同氏ノ父ノ手ニヨツテ保存サレタノヲ公ケニスル爲メノ寄附デアッタ 十円ノロヲ申込ミダケシテ居ク

夕食後帰ル 午後風アリ涼シカッタ

今日性能調べヲ筆記スルノニドウモ字ガ小イサイノデ目ガチラツキ、クタブレルノデ目鏡ヲ用ヒタラ大変楽デアッタ イヨヽ老境ニ入ッタカ

◆▼262ページ◆▼ 昭和11(1936)年9月7日(月)

天気 晴

晝前ヨリ上京 東日ニ先キニ行クコトニス 羽太氏會議中 一時間位待ツテ會フ 山崎氏希望ノ通りC一改造ノ事ニ決定ス。局ヘ行き局ヨリ山崎氏ト電話ニテ話ス 四時半新

宿デ會フ約束ヲナス。四時半会見 圖面ヲ持ッテ來ルカトテ更ニ一時間待ツ 五時半ヨリ赤坂ノ青写真眞屋ニ行キ附近ノ喫茶店デ説明ヲ聞キ帰宅 八時半 入浴 夕食 就寢シタガ眠レズ一時半迄本ヲ讀ム。法華經モ見タガヨク分ラナカッタ

◆▼263ページ◆▼ 昭和11(1936)年9月8日(火)

天気 晴

終日在所 アト、ソアラノ準備ニ着手。ソレ、命ズ 奈良原氏來場 昨日モ見エタ由 神經衰弱デシバ、腦貧血ヲ起ストノコトデアッタ

鳥飼氏來 金五円借りタイトノコトデアッタガイニク今日ハナカッタ。水平羅針儀一個欲シイトノコトニ上ゲル

作業ノ金今日モ間ニ合ヒソウニモナイ様ニ思ワレタノデ東日へ埴山ヲヤル 午後帰ッテノ話シデダメトノコト 少シ無理カト思ッタガ出來ナイノハ意外デアッタ。午後カラ二回モ電話デ羽太氏ト話シタノニ其事ハ何ニモナカッタカラデアッタ 協会ノ金モ一週間後デナケレバダメダトノコト ソレデハマダ二週間シナケレバ手ニ入ラナイ。夜更ニ作業ヘヤル

◆▼264ページ◆▼ 昭和11(1936)年9月9日(水)

天気 晴

今日モ暑カッタ

銀行へ入レル金ヲ作業ノ運賃デ融通スベク朝カラ数度工場へ持ッテ來ル様電話シタノニ直接運送屋へ行ッタノデオジヤン。十時上京 航本第二課へプライマリー見積リ出ス 間ニ合セテ呉レトノコトデ其足デ姫路製紐ニゴム二本注文ニ寄り、利根川ノ小切手ヲ金ニスベク浅草ノ銀行迄行ッタラ横線デダメ。シヤクニサワル 久シ振リデ押上ヨリ帰ル 二時帰宅

川口爲ノ助氏來 大口ガ出資ノ件ニツキ話シテ居イタ元縣議長 二時間余リ、カナリ突込シダ質問アリ大分眞儉(ママ)ラシク思ワレタ。自分モ眞儉(ママ)ニ話ス。工場ノ現在ノ營業狀態ノ報告書ヲ欲シイトノコトニアトカラ送ルコトトス

◆▼265ページ◆▼ 昭和11(1936)年9月10日(木)

天気 晴

奈良原氏來場 晝食後町議補撰ニ學校迄自轉車デ行ク

洲崎送りプライマリートセコンダリー取リニ山口君來 リリーズ二個渡ス

ソアラノ奨励金六百元受取ル 今井ニ半分ノ百五十円ダケ返スコトデ諒解ヲ得 支

拂ヒヲキメ、佐藤仙台出張ヲ取ハカライ、アト埴山ニタノミ四時ヨリ上京 飛行協会ニ
行ク 長山敬氏坐談会ト云フヨリ歓迎会ノ様ナモノデアッタ 大分盛会デアッタ
満州送り機体ヲ十五日朝迄ニ羽田報知格納庫迄送ルコトナル

瀬尾氏協会へ來テ待ッテ居タトノコト 氣ノ毒シタ 十二日洲崎へ來ル由

◆◆266ページ◆◆ 昭和11(1936)年9月11日(金)

天気 晴

正午山ロソアラ一胴体取りニ來ル 午前中計器板取付ヲ作ル

川口氏ヨリ徳川閣下ニ會ヒタイトノコトト營業報告書ヲ送ッテ呉レトノコトデアッタ
夜三河屋來 七十円ダケ渡シアトソアラ一材料注文ス

◆◆267ページ◆◆ 昭和11(1936)年9月12日(土)

天気 晴

田中不二夫來。セコンダリー最低イクラデ作ッテ呉レルカトノコト プライマリーニナセ
ル付ケタモノデ協会奨励金以外式百円出スコト。吉原ハ五十円デ呉レルト云ッテ居タ。
竹崎ノ發動機トクランクケースガ欲シイトノコトデアッタ 竹崎ノ諒解ヲ得テ來ル様話
ス。今井ヲグライダーノ指導者ニホシイトノコトデアッタ

正午ヨリ東日ト下谷区役所主催ノグライダー大会ニ出張 一時瀬尾栄太郎ト遠藤宅
ヲカリテ会见。満州ニ飛行學校ヲ作ル計畫ヲヤッテハドウカトノコトデアッタ。之レハ小
笠原中将(航空)カラ話シガアッタコトトノコト。ソレナラ乗氣ニナッテモヨイト思ッタノ
デ考慮ノ上更ニ會フコトヲ約ス

山崎氏ニ會ヒ翼ノ訂正圖ヲ貰ヒ清平ト同道帰宅ス

◆◆268ページ◆◆ 昭和11(1936)年9月13日(日)

天気 晴

日曜ナレドモ十七日ノ御祭リニ休ムコトトシ満州行プライマリー急グ

清平ニ海埋立ノコト 増資ノコト、出資者ノコトナド話ス。川口氏へ出ス營業報告書タ
イプライターヲ頼ム 夜食後帰ル

海岸ノ件ニツキ埴山区長ヘヤル マダ本田ガ手ガ切レズ八月三十日ノ期限ガ九月三十
日迄口頭デ延バシタトノコトデアッタ 十月一日ニスグ契約シテ仕舞ヘバヨイ 何ントカ
シタイモノダ

◆◆269ページ◆◆ 昭和11(1936)年9月14日(月)

天気 晴

天気ヨク續キ米下ル

満州送りプライマリー全員カゝル。正午ヨリ東日へ行ク 羽太氏ニ會ツタガ松竹ノ金今日云ツテヤルトノコト。鹿島ノ金ハ全々マダ考テ居ナイラシイ。ソアラート自動車津田沼へ廻送スルコト諒解ヲ得。東北一週飛行ハ今ノ處無期トナル 一文ニモナラナカタノデスグ帰宅 明日二百円バカリドウシテモ入用ナノダガ止ムヲ得ナイ 今夜ユックリ考ヘルコトニシテト二角プライマリー完成ニ努力 夜九時頃迄カゝル

◆◆270ページ◆◆ 昭和11(1936)年9月15日(火)

朝七時漸ク自動車來 九時頃出ル 布施同乗サセテ羽田ニ送ル 帰リニソアラノ檜材引取ラセル。飛行協会ノベント返納ス。十時過ヨリ上京 出田氏訪問ス 発動機購入ノ件イツ取引出來ルカト聞ク アト一週間モセネバ決定セヌトノコト。鉦定へ行キ釘ト木捻ノ買物ヲナス。マダ時間ガ早イノデ銀坐ノ伊東屋デ埴山ニ頼マレタ用箋ヲ買ヒ品川ニテ余リ暑カッタノト用便ヲ感ジタノデ屋上デスゝム 風ヤ、強クタチマチ汗モカワク三時二十五分瓦斯電着 四時半頃漸ク柳原氏ト乗池君ニ會フ 五時頃迄話シ會ツタガツヒニ井上氏來ラズ ヨツテ井上氏來場ノ節奨励金ヲ貰フコトヲ話シタコト 委任状モ貰ツタノデ安心シテ居タコトヲ話シ貰フコトトス 参考トシテ本所ノ委任状ヲ一枚(羽太氏ノモノ不用品)ト修理計算書乗池君ニ預ケテ帰ル。桑原氏ニ會フ 同氏モ井上氏ヲ待ツテ居タ。ローン頼マレル

◆◆271ページ◆◆ 昭和11(1936)年9月16日(水)

天気 晴

奈良原氏來 プウ利用ノ件 安岡埴山等ト協議 金ノカゝルコトハ止メルコトニ決定。今日ドウシテモ二百円バカリ金ガ入ルノデ東日ニ行クベク上京 先ヅ局ニ行ク グライダ―奨励金ノ件南波サン宛名刺ヲ駒林ニ依頼 今日アンリオ検査 飛行ダケ一人先キニ見テヤツテタ方駒林氏見ニ行クトノコトデアッタ。一時日本飛行機へ行ツタガ多田サン三時頃ニナルトノコトニ東日へ先キニ行ク。金ノ件話シタガダメ アト検査済ンデカラトノコト。朝日ニヨリローン八十ノ件購入方依頼シタガ之レハ手持チガ大分アルカヲトノコトデアッタ。今井ノ参加手當トシテ金一封呉レル 帰ツテ見タラ二十円アッタ

六時頃帰宅シタラ駒林氏マダ居ラレテ「アンリオ」終リ 尚グライダ―モ式台終了ス 二十円ヲヒサヤ一二名ニ分ケ與ヘル
明日カラノ御祭りデ一寸困ル

◆◆272ページ◆◆ 昭和11(1936)年9月17日(木)

天気 曇小雨

昨夜來秋冷ヲ覺エ今日ハセルノ羽織ヲ着テ丁度ヨカッタ
朝二三金ヲ取りニ來ルモノガアッタガ皆コトワル

昨日局へ調べニ行ツタト云フ福岡氏來場 聞ケバ大口ノお参ニ行ク御稻荷サンノ信者デ、
稻荷サンノ奥サンガ同行シテ來タ 非常ニ耳ガ遠クテ、奥サンガ通辨ヲスル 大変ヨク
分ツタト云ツテ帰ツタガドンナコトコナルイカニ分ツタノカ。

川西ヨリプロペラ到着ス

夕方清平タイプライター打ツタモノヲ持テ來ル 二円ダケ渡ス 八時半帰ル

▲▼273ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月18日(金)

天気 晴

眞鍋ヨリ二十円借リタ金ヲ返サネバナナイトテ安岡ガ云フノデ勘定ヲサセタラ結
局廿四円余トナリ取ルモノハ取レナイコトニナル。プラグモ廿七円ニナルノハ帰ツタラ返
送スルカラ金ヲホシイトノコト 最モ帰ル旅費ガナイノダソウダ 終日苦心シ王子辻取
リニヤツタガ皆ダメ 其内午後三時過ギ警察署ヨリ電話アリ 荒木アンリオニテ前橋
附近ニ不時着 機体破壊ノ由 夕方應援タノムトノ入電アリ 久田ヲ出張サセル。万
策ツキテ夜椎名サンへ奈良原サンニ行ツテ貰ツタガダメ。安岡ニ作業ヘヤツタガ十一時過
ギ帰ツテ來タガヤハリダメデアッタ。明朝東京ノ吉田ヘ行ク由

▲▼274ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月19日(土)

天気 曇小雨

安岡早朝上京 吉田ニテ百円出來電話アリ上京 上野駅ニテ二十円受取ル 局ニ行ク
井上長一ニ會フ。一三検査ノ件依頼 名刺ヲ置イテ東日ニ行ク 航空本部ニ行ク予定
ナリシモ土曜日デダメ

十一時上野ヨリ日大中學ニ大島先生ニ會フ 徳治ノ學科思ワシカラズ 數學ハ以前ノ
處ヲ復習サセルコト等注意ヲ聞ク

東日ニテ四時ヨリ鹿島ニ於ケル講習生ニ免狀授與ヲ行フ

大口東京ノ福岡氏ヘ行ク

▲▼275ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月20日(日)

天気 晴

川口爲ノ助氏十時頃會フトノコトニ朝日ノ方止ムナク中止シテ大口ト九時半ヨリ行ク
十時十五分着 十二時五分前迄種々懇談。大別シテ民間ダケノ仕事ナラ五万乃至

十万デ現状ヲ充実拡大スルコト 陸軍受注出來ソウルナラ別ニ工場ヲ新設シテ二三十万トスルコトノ二方法トシテ明後日徳川氏ト会见打合ヲ行ヒ帰ル。午後讀書午睡

▲▼276ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月21日(月)

天気 雨

奥山氏ノ九州行協会奨励金土曜日ニ通知アリ 千葉へ聞イタガマダ來テナイトノコト
安岡航空局へ一三検査打合せト廿四日拂下希望ヲ持ッテ行ク 東日ニヨリソアラー、
及自動車運搬ノ件ヲタノシデ帰ル 三時半帰所

電話今日ギリデ止メルトノコトナレドモ外ニ入金ナク筑井ノ今夜帰ルヲ待ツコトトス
奈良原氏來場 夕方帰ラル

▲▼277ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月22日(火)

天気 小雨及曇

鈴木菊雄ヨリ三十円借り電話料ヲ納メ、米ハ久々田ノ方ヘタノミ今日ノ間ニ合セル
十一時前ヨリ上京 東京駅ニテ川口氏ヲ待ツ 十分位シテ來 丁度十二時 精養軒デ
晝食ヲ共ニシ、航空本部ニ行ク 徳川閣下ニ會フ 小一時間打解ケタ話シニテ大ニ声援
ヲ得テ心強ク。航空本廠香積少將ニ會ッテ行ツタラトノコトニ行ツタガ会計検査院ガ
來テ急(ママ)ガシク第二課ニ行キ高橋大佐ニ相談 同大佐ガヨクニ部長トドンナ仕事
ヲヤラセテ貰ヘルカ聞イテ居イテヤルトノコトニ委任ス。川口氏モ大ニ満足セラレタコト
ト思フ 瀬尾氏訪問シタガ大坂ニ出張。東日ニヨル。安岡臨時ノ件クラブヨリ死傷ニツ
キ引受書ヲ出ス。カン話料二十円、出張ノ場合日當九円手當五十円トノコト 日當ハ
ヨイガアトハドウモ少ナ過ギル

▲▼278ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月23日(水)

天気 晴

中日絶好ノ日和

奈良原氏來場 夕方安岡金作ッテ帰ルノヲ待ッテ五円渡ス

▲▼279ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月24日(木)

天気 快晴

五時半起床 立川拂下ニ出張 六十円持ッテ行ク 鈴木菊同道。アンリオ一台程度悪
シ 外雑品 三時頃自動車積込ミヲ命ジ積ミキレヌモノハ鉄道輸送ニシテ送ラセル手配

リツケ梅木、青木ト三人デ帰ル 五時半帰宅 佐藤マダ帰ラズ

▲▼280ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月25日(金)

天気 晴

快晴 航空本部高橋大佐ニ會フ 工場方針トシテ部品下請ヲヤルコトヲ主眼トセヨト
ノコト 兎ニ角政野中佐ニ會エトテ同中佐ニ會フ 修理ハ原則トシテ支廠デ行フコトニ決
定シテ居ルカラ出シテモ年ニ一台力或ハ十台力極マラナイトノコト ヤハリ下請ガヨサソ
ウナ口振リデアッタ。ソレニハ各製造会社ヨリ受ケルコト 工場設備ハ東京監督官ニ見テ
貰フコト等デアッタ

高橋大佐ニ挨拶シテ協会ニ行ク 正憲今月二十日ニ五十円伊藤菊司氏ノ手續キデ貰
ッテ居ル。斎藤国松ノハ昨日決定シタ由デ千六百円 信太郎ガ予想通り三百円デアッ
タ

東日ニヨリ、利根川氏ニ來テ貰ヒ契約ス 百五十円小切手受取ル

▲▼281ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月26日(土)

天気 晴後曇雨

坂本氏來場 一三完成 サル、ローン分解検査終ル 正午晝食後帰ル

八時過ギ船橋へ山田航空官挨拶ニ行ク 試験終ルノヲ待ッテ挨拶 正憲ノ手紙渡ス

正午帰宅

埴山漸ク八七ニテ帰場ス

奈良原氏來場

利根川君來場 途中自動車障突シタノデ車預ケテ帰ル

夕方ソアラート自動車來 山口君食事シテ帰ル

区有海岸圖面出來ル

▲▼282ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月27日(日)

天気 曇雨

降タリ止ンダリ全国不連續線デーパイ

大口朝川口氏へ行ク 同氏ノ方順潮ニ進ンデ居ルトノコト 後チ小林区長へ行キ飛行場

前海岸分譲ノ件交渉 相談シテ返事アル筈

大口、安岡、埴山ト晝食ヲ共ニス

▲▼283ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月28日(月)

天気 曇時々雨

風稍強ク時々雨

埴山横須賀拂下ニ出張 明日ノ保轉拂下ノ金作業ニテ作ラセル 夜キマル

東日自動車改造計畫ヲ立ツ

B二材料表ヲ出シ作業ニ着手サセル

▲▼284ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月29日(火)

天気 曇晴雨

定マラナイ天候デアッタ 夜ノラジオデ颱風ハ大東島ノ南二〇〇キロニアリトノコト 明

日ハイヨ、ハアヤシクナツテ來タ

奈良原氏來場

自動車作業發動機部ニヤラセル

横須賀拂下引取り恵出張サセル

▲▼285ページ▲▼ 昭和11(1936)年9月30日(水)

天気 曇晴

颱風近ツク 今日ハ琉球ニセマル

夜月オボロナガラ眺メラレタ

埴山旅費ヲ作ツテ呉レタノデ所沢ニ出張 晝食後甲斐技師ニ會フ 所沢デノ修理ハゴク

簡單ナモノダケシカ、ヤラナイソウデ工場モ見セテ貰ッタガ三四台アッタバカリ 職工

モチラリホラリデ發動機手入レガ大分居タダケデ總数五六十名位ノモノト思ワレタ。

立川ノ久保技師ニ照(マ)介ノ名刺ヲ貰ツテ歸ル。

▲▼286ページ▲▼ 10月

増資出資ノ件進行

陸海軍連絡(マ)ヲヨクスルコト

極東B二完成

東日ソアラ進行

▲▼287ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月1日(木)

天気 晴曇

奈良原氏來場

一三其他傳票作製

長山敬へプライマリー請求

颱風動カズ タ六時頃ヨリヤ、北北東へ移動シ初メル 時速十Km

◆▼288ページ◆▼ 昭和11(1936)年10月2日(金)

天氣 曇リ雨

今朝奄美大島附近ノ颱風ハ北東へ進行 夜半土佐沖ニ達ス 上陸ノ模様ナキハ何ニヨリ
デアル。夜十一時、二時、二通報アリ ソレ迄眠ラズニ聞ク

奈良原氏來場

鈴木菊雄ニ話シ明日二十円ダケ都合スルコトニナル アト百五円明日利根川氏ニツクラ
セ間ニ合セテヤルコトニ腹ヲキメル

◆▼289ページ◆▼ 昭和11(1936)年10月3日(土)

天氣 風雨

颱風々々 朝カラ準備シテイザコイトバカリ待ツ 九時頃生アタ、カクナツタノデ
イヨ、來タナト思ツタガラジオニヨルト銚子カラ浜松ニカケテ不連續線ガ出來タノダ
ンウデコノ爲メト分ル カンジンノ颱風ハ午一時ニハ房総半島ノ沖五十キロヲ通過シタ
トノコト 四時頃ニハ西ノ空カラ晴レテ來タ 何ノコトダ 物足リナカッタガ先ヅ、結
構 埴山利根川君ヘヤリ三十円受取ル 航空局東日ニヨリ三時頃帰場ス

◆▼290ページ◆▼ 昭和11(1936)年10月4日(日)

天氣 快晴

上天氣 奈良原氏來 ソアラ一三式ニテ曳航試飛行 武中操縦第一回三百八十
米アリ 第二回三百米アリ 成績良好。夕方山崎氏來場 ソアラノ翼一部訂正アリ
奈良原、山崎、武中、角夕食ヲ共ニス 八時半頃帰ル

◆▼291ページ◆▼ 昭和11(1936)年10月5日(月)

天氣 曇少晴

今日ハ暇デアッタ 正午ヨリ曳航練習アリ 昨日ヨリヤ、結果良好デアッタガ沈下率一、
二位 マダ研究ノ余地アリ
夕方庭ノ球根植替ナド行

朝千葉ノ斎藤氏 來場 川口氏ノ方目下研究中ノ由ニテ遠カラズ出資カ買収カ方法ヲキメテ着手スル由

▲▼292ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月6日(火)

天気 曇少晴

朝廷手入レ

奈良原氏來 午後ソアラ一沈下速度テスト ヤハリ一、二位最初ハヨカッタガ百米グライカラ急ニ下ゲタカラ大分早クナッタ

午後松本楼支配人ト仲介者來場 大口ト会談ス

大口カラ話聞クガ少シ食ヒ違ガ出來テ居タラシカッタ 返ス金ハ出資ニシテ貰ッテ新ラシイ金ヲ出資ニシテハドウカトノコトデアッタ由 尚現在ノモノヲイクラニ見積ルカアト何程出資ガ必要カラ明後日大口行ッテ回答スルコトニシタトノコトデアッタ

▲▼293ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月7日(水)

天気 曇リ

奈良原氏來場 羽太氏來ル予定ノ處來ラズ ソアラ一飛行中止ス

電話デ清平ヲ呼ブ 夜來 明日大口上京 松本楼トノ話シニツキ腹案ヲ相談ス 結局自分ノ考ヘ以外ニ出デナカッタ 工場財産ハ其儘トシ權利金ヲ十五万円ニ見アト三十万円ヲ出資サセ四十五万円ノ会社ニスルコト 九時清平帰ル 此ノ次ギノ日曜日ニ写真機持ッテ來ル様話ス

▲▼294ページ▲▼ 昭和10(1935)年10月8日(火)

天気 晴

奈良原氏來場 夕方帰ル

大口上京 松本楼ノ話シニ行ク 一昨日來練ッタ案ヲ鉛筆書キニシテ持タセテヤル 三十万円ヲ望ムモ場合ニヨッテ十万円デモヨイコトトス
ソアラ一坐席改造ヲ初メル

井上氏電話アリ 一週間位後金持参スルコトヲ約ス

満州飛行協会ヨリスグ金オクルトノ返電夜來ル

夜大坂ノ姉病氣見舞ニ新世界ヘ電話スル 昨日カ一昨日大分悪カッタガ今日ハ大變ヨイトノコト ヨイ醫者ニ見セタラ心配ナイトノコトデアッタ

▲▼295ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月9日(金)

天気 晴

終日ソアラー改造ヲ指導ス

大坂兄ヨリ今夜電話セヨトノ入電アリ 姉ノ病氣カト思ツタガ海岸ノ地所ニ金ヲ出ス
人ガアルノデ圖面ヲ送レトノコトデアッタ

▲▼296ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月10日(土)

天気 曇リ

少シ遅レ夜業シテソアラー改造ナル

一三式發動機小故障ノ爲メ取降ロシ 明日飛行不可能ト思ワレタガ夕方出來ル
山口君來 自動車午後羽田へ歸ル 明日市川へ行ク予定 指導者肥田木ヲヤルコトトス
今日日本飛行機会社ノ招待ガアッタガ冬服出セズツヒニ中止ス

▲▼297ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月11日(日)

天気 曇少雨

奈良原氏來場

帝都グライダー會員十名バカリ來 初練習ヲ行フ

今月分トシテ五円置イテ行ク

市川在郷練習指導ノ爲メ肥田木出張ス ウインチ曳航各二回ヅ、初歩ノモノゴムデ
ヤル内ストール大破

ソアラー坐席改造終リ一回練習飛行ス。天候不良ノ爲メ。羽太、山崎氏來ラズ 清平
ニ飛行中ノ写真取ラセル

▲▼298ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月12日(月)

天気 曇リ小雨

奈良原氏來場

朝埴山病氣ノ爲メ惠拂下引取リニヤル 三式夕方帰ル 余リ上等ナノデ整備シナケレ
バナルマイト思ワレル 猪又ノ方解決ノ要アリ

▲▼299ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月13日(火)

天気 雨

終日大雨 颱風ハ八丈島東方ヲ通過 夜九時頃ヨリ晴レル

ソアラー鶴羽号ト極メ元ノ鶴羽号ト同ジ鶴ヲ畫クベク下圖ヲ作ル

信太郎ノ慰助金三百円千葉ヨリ受領 晝頃埴山帰ル 佐野ノ手形ヲ一寸延バシ猪又ノ拂下代金借リテ支拂フ 三河屋へ五十円送金 其他デッヒニ自分ノ冬服質受ケ出來ズ又上京不可能トナル
大口今朝來 昨日棒氏ヨリ返事アリ 十万円ノ一割欲シイトノコトデアッタ 之レニツキ考研ス

◆▼300ページ◆▼ 昭和11(1936)年10月14日(水)

天気 晴

西北風ヤ、強カリシモ快晴

奈良原氏來場

夕方竹崎外二三名來場 山形飛行タノマレル 安岡行クコトニ決ス

今日モ小サイ金デ苦心ス

大口ニ一割ハ棒氏一人ニヤルノデナク工場トシテハ棒、安田、大口三人ニ上ゲルモノデア
ルコトヲ話シ其點アトデ問題ニナラヌ様シテ居ク

◆▼301ページ◆▼ 昭和11(1936)年10月15日(木)

天気 晴

銀行ト電気屋今日中ニ支拂ワネバナライノデ埴山苦心 ツヒニ過日拂下ノ三式ヲ出
スコトニ決定ス ドウモ止ムヲ得ナカッタ

午後ヨリ上京 東日ニ行ク 奨励金願書ニ羽太氏ノ判ヲ貰ヒ局へ提出ス 再ビ社ニ歸リ
清平ノ來ルノヲ待ツ。会社法ノ本ヲ借リル。出資ノ件拙速主義デ十万円ロキメルコト
ニ相談ス

朝一三式不時着シテ破損 午後グライダー大破ス ヤハリ三リンボーハイケナイ

奈良原氏來場 武崎氏一三式相談中トノコトデアッタガ今日ノ金ニ間ニ合ワナイノデ
拂下ゲルコトニス

一三、グライダー破損

◆▼302ページ◆▼ 昭和11(1936)年10月16日(金)

天気 晴

終日会社法ヲ研究ス

夕方峰島、植草、高橋某來場 濱崎機関少将カラノ手紙ト云フヲ見セタガ二三十
万円軍需工場へ出シタイ 貸金トシテ利子年一割 三年乃至六年償還其他條件面談
ト云フ様ナ意味デ明日カ明後日來場スル由デアッタ

夜満州飛行協会ノ名デ長山ヨリ今日オクルトノ返電アリタリ 又例ノ送ツタデナイノ
デ、ハタシテ送ツタカドウカアヤシマレタ

▲▼303ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月17日(土)

天気 曇リ小雨

佐々木君來 サル契約ヲナス 晝食ヲ共ニス
帝都グライダー会員九名來 内五名泊ル。グライダー晝前ニ完成 練習間ニ合フ
夕方松ヲ掘リ上ゲテ鉢ニ取り形フト、ノテ盆栽ニス クラクナルト急ニカガヒドクナツテ
仕事デ出來ナカッタ
鉄聯創立四十年記念祭ニ徳治ヲヤル

▲▼304ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月18日(日)

天気 雨

降ツタリ止ンダリ 帝都グライダー練習ヲ行フ
一三修理成リ午後練習ヲ行フ ペラ、次第ニ破レ目大キクナル
夕方ニナツテ山崎氏來 ソアラ一胴体原圖ダケ持参 安岡ヲ倍(ママ)賓トシテ夕食ヲ
共ニス 八時過ギ帰ル
佐々木泰介午後一時ノ汽車デ仙台ニ帰ル 金アト百円スグ送ル様タノム

▲▼305ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月19日(月)

天気 雨

埴山カスミヶ浦出張
吉田ノ父來 安岡面会 四十円受取ル 内三十円預ル
安岡午後東日ヘ行ク

▲▼306ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月20日(火)

天気 大雨

後晴レル 颱風ハ八丈島南方ヲ通過ス
安岡昨日上京ノマヽ帰ラズ
埴山横須賀出張
佐々木金明日電送方々方打電ス
午後木製プロペラノ金属メッキ方法、プライマリーノ改造方法ニツキ考案ス

夜帝都グライダーノ坂野氏來 廿五日ノ日曜日手傳ツテヨシヲ刈リタイトノコトデア
ツタ。明日交渉ノ上返事スルコトトス

▲▼307ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月21日(水)

天気 快晴

今日モ無爲ニ終ル コウシテハ居レナイ氣持チハシナガラ一歩モ動ケナイノデ閉口
奈良原氏四五日振リデ來 筑波ノ模型ヲ持参ス
佐々木ヨリ金送金ナシ 手紙來 更ニ夕方打電ス

▲▼308ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月22日(木)

天気 晴

安岡義勇ノ爲メ兄弟ニテ山形ヘ飛行
奈良原氏來場

セツパツマツテ利根川ヘ金取リニヤル 百円ノ予定五十円ダケ貰ツテ來ル 羽布ト操縦
線ヲ買フ

棒氏ノ外雨宮鉄工場社長同伴 大口面會 夜大口ニ來テ呉レトノコトニ行ク
松坂昨日休ミ 今日呼ビニヤツタラ一寸出テ又休ム。

▲▼309ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月23日(金)

天気 晴

Bニ急グノニ休場者多ク閉口 松坂呼ビ話シテ明日ヨリ出ルトノコト。

アンリオ調査終リ發動機試運転 一三八〇回轉デ少シ多カッタガカーチスノペラヲ間
ニ合セルコトトス

夜清平來

夕方満州

▲▼310ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月24日(土)

天気 晴

夕方満州ヨリ七百四十円到着ス

松坂フトン貸シタルコトニ話シツイタニカ、ワラズ取リニ來ズ 又出勤モセズ

国吉朝明日支拂ノ分延期ノ手紙出シテ居ク

埴山買物ニ上京

安岡ツヒニ山形飛行不可能トナル 今日モ行ツタガダメ。ガソリンタンクニ水ヲ入レタ爲
メトノ事

▲▼311ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月25日(日)

天気 曇リ

今朝ハ休ムモノ多カッタガ午後梅川肥田木出勤ス

スパ、ハギ初マル

夜角ニ大工フヤスコトヲ頼ミヤル

国吉二、三十円

▲▼312ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月26日(月)

天気 雨

奈良原氏來場

満飛ノ金現金ニナル 支拂ヒ予定ヲ作製ス

瓦斯電井上氏ヨリ電話アリ 返事ニキユウス 取アエズマダ金ガコナイノデ調査ノ上返

事スルコトス

夜業十一時半迄 大体今日ノ予定ダケ終ル

駒林氏役所終ツテカラ見ニ來テ呉レル 夕食後帰ラル

▲▼313ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月27日(火)

天気 晴

今日モ大体予定通り進行ス

昨夜床ニ入ッテカラセキガ出テ六ニ眠レナカッタ 今日ハウガイト浅田飴デ養生シ夜モ

八時頃床ニツク 幾分楽デアッタ

夜一時迄夜業

▲▼314ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月28日(水)

天気 晴

時事 猪原君洲崎ニテグライダー練習中墜落即死

埴山上京サシタガ利根川君不在 金ニナラズ買物モ出來ズ

安岡義勇十年式ニテ山形ニ飛行 無事到着 明日カエル由

夜十一時過ぎ迄共ニ仕事ス 羽布張り明朝ニナル 一寸予定オクレル

帝都グライダー江戸川ヘグライダーヲ運ブ 夜ニ入ル
徳次猪原君見舞ニヤル アトヨリ死シタトノ報アリ

▲▼315ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月29日(木)

予定通り進行 今夜女工三名徹夜ス 木工六十時頃 縄斗羽布張ハ十二時頃終ル
奈良原氏午後來場 筑波支部ト報知新聞デ十四日ヨリ五日間記録競技ヲ行フ由。
夕方報知ノ浅井氏來 出場方懇請ノ爲メ

埴山上京 買物ト猪原弔問 菓子ヲ持タセテヤル 夜帰ル
ベシプロペラ到着ス

▲▼316ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月30日(金)

天気 曇リ

奈良原氏上京

作業幾分遅レ支柱ノ爲メ角、矢野徹夜ス 自分一時半 大田二時迄 ドウモツカレガ
多ク感ゼラレル

▲▼317ページ▲▼ 昭和11(1936)年10月31日(土)

天気 晴後曇リ

奈良原、大貫氏來 高山組ノモノマダ葭ヲ刈リシカモ他ニ賣ツテ居ルトノコトニ清水氏へ
中止方打電ス 大貫氏四尺ニ余ル懸崖ノ菊持参セラル。多分呉レタノダト思ツタガ向
フテ何ニモ云ワナイノデ礼モ云エズ晝食後自分ダケ上京 猪原君ノ葬儀ニ列ス 學生
ノ弔辭デハ涙止マラス 信太郎ノ親友デアリ不思議ナコトニ落チタ時刻 脳ノ内出血
デ他ニ外傷骨折ノナカッタコトナド信太郎ト同一デアルノモ何ニカノ、ツナガリガアルノ
デハナイカトサエ思ワレル。スグ帰宅。利根川氏ナド來テ居タ 今夜積込ミ明朝運搬ノ
コトニ取キメル 十時頃全部終ル

▲▼318ページ▲▼ 11月

- ・増資本月中ニ取キメヲ要ス
- ・陸海軍調査進行ノコト
- ・東日ソアラ―完成ノコト
- ・東日輕飛行機契約ヲ進メルコト

▲▼319ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月1日(日)

天気 晴後小雨

今日ハツカレテ寝タカッタガソナ訳ニモ行カズ。埴山ニ昨夜ノ小切手ヲ金ニ替エサセ、竹中、今井ト江戸川ニ行ク 奈良原氏スデニ居ラレタ 十時半頃組立ヲ終ル 会員数僅カニ七名 十一時十二時ニナツテモ羽太氏見エズ 先キガ遅レルノデ十二時ニ練習開始式ヲ行フ 奈良原氏ヨリ挨拶ヲシテ、乗合デ小松川ニ出タクシーヲ捨(ママ)テ洲崎ニ行ク 羽太氏スデニ居ル 江戸川ヘハ十一時丁度ニ行ツタガ分ラナイノデ帰タタ津田沼ヘ行ツテ來タトノコトデアッタ 極東ノ命名式ハ荒蒔閣下ヨリ奉公號ト名ヅケラレ一名清水君ノ自動車曳行アツテスベテヨク終ル。羽太氏ニ自動車デ東京駅前送ラレル 車中軽飛行機ノコト話ス 大坂ノ方熱ガナイトノコトデアッタ。

四時羽田着 丁度終ル前デアッタ 朝日社ノ人名ニ挨拶シテ小栗君ニ会ツタノデアンリオノペラヲ借り六時半クタブレテ帰ル 朝胃ガ悪ク食事セズ晝モツヒニ出來ズヘト、ニナツテ帰ル

▲▼320ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月2日(月)

天気 晴

ツカレモ取レテ少シ落付キガ出來タ
埴山王子ヘヤツテ局ノペラヲ取りニヤル
夕方奈良原氏來場 同清水君ヨリ電話ニテ石橋中學グライダー製作方依頼アリタル由
午後ソアラ―丸胴ノ設計ニカゝル

▲▼321ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月3日(火)

天気 晴

奈良原氏來場

晝前明日立川拂下ノ通知アリ 夕方猪又ニ其金ヲ話シタガツヒニ出來ズ 中台ヨリ四十円借りル 作業ヘ話シ加藤氏用意シテ行クトノコトニ決ス 埴山モ氣ノ毒デアッタ 夜九時頃終ル

▲▼322ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月4日(水)

天気 晴後曇リ

六時起床 七時船橋駅ニテ加藤氏待ち合セル約束ノ處七時半ニナリ立川着九時半ニナル 例ノ通り終了 サルノ工具トスリ合セ機 プラッグヲ貰フ 廿四円八十銭 加藤氏支拂フ

久保技師二面会ヲ求メ工場ヲ見セテ貰フ 修理台数ハ聞イタガ云ワナカッタガ工場ハ行ツテ見ルト今月完成機來月完成機ト云ノガ数テ見ルト今月十七台來月十四五台アツタ 機札ノ数ガ十八張ヅヽニナツテ居タカラ多分十八台位ガ限度ラシイ 大シタ工具ハナカッタ。六時半帰宅

◆◆323ページ◆◆ 昭和11(1936)年11月5日(木)

天気 晴

明日カラノ試験ノ金策ニ困難 埴山大矢(作業ノ合計)ヨリ百円借り夜自分ヨリ猪又ニ話シ五十円出サセテソレヽヽ出發サセル

奈良原氏來 飛行館ニ行カレル 信太郎初メテ航空神社ニ祭ラレルノデ最(ママ)非行クツモノ處前記ノ金策ノ爲メツヒニ行ケナクナル。安岡カラツヒニ送金ナシ

東日ヨリ電話アリ 三島トイフル作ル由 明朝十時社ニ來テ呉レトノコトデアッタ

◆◆324ページ◆◆ 昭和11(1936)年11月6日(金)

天気 晴後曇リ

上京 十時社ニ行ツテ三島町役場ノ兵事課長野村氏ニ會フ 清水同道洲崎ニ新シイトイフル見ニ行キ社ニ帰リ羽太氏ト會ヒ津田沼ヘ野村氏同道工場ト作業ヲ見セル 奈良原氏居ラレ佐渡屋ヘ行キ晝食ヲ出ス 二時ニナル 四時野村氏帰ル 船橋駅ニテ埴山東京ヨリ帰ルノト會ヒ佐渡屋ニ帰リ勘定シテ五時頃帰宅 安岡ヨリ金來ラズ。旅順齋藤ヨリ五十円送ツタ内二十円上岡ヘ 二十円寄附スルトノコトデアッタ

床ニツイタガ血滯ハナハダシク気分ハ何ントモナカッタガ気味悪カッタ 十二時半目ガ醒メタ時ニマダ止マナカッタ 一分間ニ一回乃至二分間ニ二回位ヤル

吉田三時半羽田ニ帰着

荒木熊谷ヘ四時半不時着ス

◆◆325ページ◆◆ 昭和11(1936)年11月7日(土)

天気 曇雨

安岡ヘ又打電シタガ返事モナク金モ出來ズ

止ムナクトイフルノ見積書ヲ作り東日ヘ埴山ヲヤル 内金貰ヒニ羽太氏三時ノ汽車デ名古屋ヘ出發スルノデ話シ出來ナカッタトノコト 夜中台デ六十円都合シテ一時間ニ合

セル

奈良原氏來場 心臓が悪クテ醫者ニ見テ貰ヒタイトノコトニ穴倉ヲタノム 夕方來 血
圧百二拾 心臓非常ニヨワツテ居ル由 藥ヲ貰フコトニス 自分ノ血圧ハ百六十五デニ
十程高シ

▲▼326ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月8日(日)

天気 曇リ

今日ハ發動機以外全部仕事ヲナス

試験ハ行ワレズ。夕方山崎氏來 ソアラ一胴体ノ現圖ヲ書クノデ八時過ぎ頃迄カヽリ
夕食ヲ共ニシ肥田木角二人陪食シテ会談 九時頃帰ル

▲▼327ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月9日(月)

天気 晴

朝床ニ居ル中ニ埴山來 富山ヘ行ツテ來ルカトノコトデヤル 晝頃迄自分ハ高足ノ運動
台ノ修理中天氣ノヨイノニ一向音ガシナイデ今日モ出發出來ナカタカト思ツテ居タ
處十一時頃裏ノ声ニ飛行機ヽヽ燃エテルヽヽトノコトニ格納庫内ノ飛行機ニデモ火
ガツイタカト思テ走り出スト谷津ノハルカ先キト思ワレル海中ニエンヽト燃エ上ツテ居ル
ハ七ガ先キニ飛ンデ居タトノコト 見テ居タモノニ聞クトマッサカサマニ墜落 火ガ出タ
トノコト。第一ニ電話スル 青木君ノ話シデ埴山トハッキリ分ル。トデモダメトハ思ツタガ
万一ヲ頼ミニス。ツヒニ悲報ハ來リ同乗ノ二名モ焼死ストノコト 家内ニ知ラセ船橋ニ行
ク。結局合同葬ト云フコトニナル

作業ハ加藤氏富山ニ 奥山氏秋田ニ出張 明朝帰ル 安岡モ明朝帰ル由

▲▼328ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月10日(火)

天気 曇夜雨

朝加藤氏奥山氏相ツイデ帰ル 通知狀、弔問見舞札狀ヲ出ス

十時岩間氏香月氏同道來場 工場ヲ見テ帰ル 面會ス 奈良原氏ホトンド獨リ話シス

▲▼329ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月11日(水)

天気 雨

明日ノ天氣氣ヅカワレタ

午前中工場ノ用事ヲナス 埴山ガ居ナクナツテ書物ヤ雜用多ク閉口

安岡ヲ東京日日ヘトイフエル内金貰ヒニヤル 局ノ拂下納金 報知カサ車輪ノ代金(今朝八七式車輪一組賣ル)

午後作業ニ行ツテ御通夜 奈良原氏來 明日ノ事打合セ作業ヘ共ニ行ク 葬儀委員長ヲヤツテ貰フ

▲▼330ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月12日(木)

天気 晴

上天氣トナル 安岡帰ラズ心配 七時帰宅 止ムナク猪又ヲ呼びニヤリ五十円貸ス様話シタガ貸サズ 鈴木菊ヲ呼びニヤロウトシタ處(安岡帰ル 昨日金モ貰ツテ居タトノコトニヤットホットシタ(ドコカデノシタ)ニ違ヒナイガ気分ガ悪クテ帰レナカッタト云ヒ訳ケヲシテ居タ) 正午作業ニ行ク 一時少シ過ギニ式初マリトゴウニナク(ママ)終ル花モ参列者モ信太郎ノ時ニ比シテ非常ニ少ナカッタ 作業関係ノモノハ花ワズカニ一ツト云フ有様デアッタ
夕方帰り食後スグ床ニ入ル

▲▼331ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月13日(金)

天気 晴

朝埴山妻ノ兄外国カラ來タ人二名來 結局ドウシテ貰エルカト聞クノデアッタラシイガ、コチラモハッキリシタコトハ云エナイノデ小供ガ出來タラ何ントカ考慮シ様ト云ツテ居ク。取アエズ百円弔慰金トシテ包ミタ方安岡ニ持タセテヤル
斎藤キヨミヘ五十円受取ツタコト 二十円上岡ニヤッタコト 受取書ヲ入レ近所ノ支拂ヒヲ送金スル様手紙出ス 自分ノ方ノ三十円ハ其返事ノアル迄預ツテ居クコトトス
奥山氏挨拶ニ來ル 皆今夜故郷ニ帰ルトノコトデ氣ヲモンダガ明日ニ延期トナル
東日奈良原氏來 筑波行キノコトデ先生其ノ事バカリ云ワレルノデ、コチラ金ノ心配ガ大變デ少々シヤクニサワツタ 午一時ノ汽車デ奈良原、大牧、島出張。夕方トイフエル完成。山口君ノ自動車ニテ肥田木、金同乗出發ス
佐々木泰介アブロ、ローンノ内部検査ニ木目田氏來場 ツヒデニ、グライダー見テ貰フ

▲▼332ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月14日(土)

天気 晴

午前中工場用務 十一時五十分ニ三式ニテ今井安岡C一型三武中搭乗筑波ヘ向ツテ出發ス 夜奈良原先生ヨリ大成功無事着陸トノ入電アリ
午後船橋作業ニ行キ三時頃ヨリ加藤氏ト第一、警察、役場、谷津遊園、谷津消防組

頭へ礼廻リ 四時四十分船橋発ノ佐藤氏遺骨ヲ見送り引返シテ埴山ノ出發ヲ更ニ船橋駅迄自動車デ送ル 時二六時 帰宅 夕食後徳次ヲ連レ上野駅ニ行ク 九時発帰郷ヲ見送ッテ帰宅 大分ツカレタノデ床ニ入ル

◆◆333ページ◆◆ 昭和11(1936)年11月15日(日)

天気 雨

朝カラシト、降ッテ居タガ後チ止ミ、時々日モサス
終日床ニ入り面會謝絶ス
夜モ又早ク眠ル

◆◆334ページ◆◆ 昭和11(1936)年11月16日(月)

天気 曇リ

書類整理ニ終日カ、ル 千葉ノ花環屋ガ來テ百二十五円アルトノコト 少シ前埴山ニ聞イタ時ハ七十円位残ッテ居リマスト云ツタコトハ確カデアッタノニ。領収書ヲサガサセル羽太氏ノ二回目ノ分モタシカニ拂ツタト云ッテ居タノニ、マダニナッテ居タ午後三時石井氏帰郷スルトノコトニ見送リニ船橋駅迄行ク。六時頃山崎氏バルクヘットノ圖面持参 八時半帰ル

◆◆335ページ◆◆ 昭和11(1936)年11月17日(火)

天気 晴

三島ノ書類、佐々木アブロノ見込書、米井ノゴム請求、日本飛行機タイヤヘソアラノ車輪注文等ヲ出ス
午後書類整理
練習ノ爲メトベニヤ板スル爲メ鈴木ヨリ十五円借り猪又ヘモングースノケースト車輪ニテ出ス
局ヨリ金來ラズ 安岡ヘ手紙出シ森航空官ニ埋立ノ件聞カセル

◆◆336ページ◆◆ 昭和11(1936)年11月18日(水)

天気 曇リ

時事 佛国ジャビー氏遭難

一三ノ金通知ガ來タガ明日デナケレバ金ニナラズ
今日モ書類整理 ヤ、一段落ツク

▲▼337ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月19日(木)

天気 晴

今日ハ電話ノ金デ苦心シタ ツヒニ鈴木二十円出サセテ廿三円十銭納金 明日ハガソリ
ン代ダ

埴山ノ本葬廿三日トノコト通知アリ

夜八時頃ソアラート竹中帰ル 奈良原氏ノ話シデハソアラ―曳航デ帰ル筈デアッタノニ、
セコンダリーモ二度ヤル予定ガ大牧一回ヤッタダケノ由

坂本氏來 佐々木アブログネット一個タイム合ワズツヒニ試験出來ズ

▲▼338ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月20日(金)

天気 晴

安岡今日モ帰ラズ 困ツタ奴ダ

奈良原氏來場 晝過ギ帰ル

ガソリン屋ノ支拂ヒノ爲メ倉庫ヨリコード線眞中若干ヲ出ス。皆ノ風呂銭モ入ルノデ
多少作ル

夜清平來

▲▼339ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月21日(土)

天気 晴

安岡今日モ帰ラズ 本日ノ記事ハ二十日ニアリ

▲▼340ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月22日(日)

天気 曇リ

十一時頃岩間氏東京米穀商品取引所支配人柳父悦三氏 荒瀬清四氏來場 奈良原
氏ヨリ航空界ノ一般的話シアリ 後工場ヲ見具体的ノ収支予算ヲ知リタイトノコトニ、
第二工場陸軍 第一工場民間機及學校 右三対スル資金三十万円同費途ヲ作製 タ
方出來上リ渡ス 其間江戸川飛行場見学ニ行ク

今日ノ人ハ初メテ熱心デアッタ、ダケニ有望視サレタ

▲▼341ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月23日(月)

天気 晴

昨夜中カラ猛烈ナ西北風デヨク眠レナカッタ

清平朝帰ルノデソアラノ小イサイボールト類ヲタノム

東日羽田ヨリ電話アリ 明日十年式空輸スル由

▲▼342ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月24日(火)

天気 晴

奈良原氏來

東日十年式胴体來 明日翼來ル由 須田氏山口君晝食ヲ出ス

午後南波氏來 石橋中學内部検査終ル アプロ未済 中台デ三十円都合シ石橋中學ノ材料全部トノエル

▲▼343ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月25日(水)

天気 晴

上天気デアッタ 今日モ又金デ困ル

大口十時頃來 昨日会见ノ結課(ママ)スグ今日ニモ調印シタイトノ先方ノ希望ナレドモ三十万円出資 當方権利並三元ノ出資合セテ二十万円ヲ資本ト認メズ公証証書ニシテ更ニ増資ノ場合ニ認メルコトニシタイトノコトデアッタ由。處へ峯島氏ノ方山口鉦山ヨリ三十万円貸與トシテ更ニ拡張ノ場合株券ニスルモノナリトノコトデアッタ由。此ノ方話シ進メル爲メ一方大坂ノ方ト相談スル爲メト稱シ式三日返事ヲ延期スルコトニシ電話ス

佐々木アプロ明日坂本氏來場ノコトニキマル

▲▼344ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月26日(木)

天気 曇リ

坂本氏來 佐々木アプロ定期終ル

近藤ヲ上京 右登録申請ト石橋中學ノ標式ヲ貰ワセル

南波航空官ト電話ニテ話シ土曜日グライダー検査ニテ証明書出スカラ明日手續キヲシテ居ク様トノコトデアッタ。奈良原氏今石橋へ行ッテ居ラレルカラ多分明日書類持ッテ帰ラレル筈

作業ヨリ十円受取ル

▲▼345ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月27日(金)

天気 曇後雨

午前ノ便デ金來ラズ 東日十年式見積書ヲ作り正午ヨリ上京 局ヘ行き石橋中學グライダー明日検査ノコト 登録書類今朝來タガコチラカラ送ッタダケ來ラズ間ニ合ワナイノデ明後日飛行スルコトノ諒解ヲ課長得ベク待ッタガ會エズ 松浦氏ニ依頼シテ東日ニ行ク 見積書提出 内金六三四日後ト云フコトニナル。ガツカリシタガヤムナク帰宅夜中台コトワリニヤル
朝奈良原氏來場

▲▼346ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月28日(土)

天気 晴

熱カイヨイ天気トナル 朝南波氏鈴木氏來 石橋中學グライダー完成検査終了 午後三時東日トラックニテ出發 大坂肥田木出張サセル
午後四時頃長田某峰島氏照(ママ)介ノ人來 工場ヲ見一通リ様子ヲ聞カレル コレカラ考慮スルトノコトデアッタ 大口ノ話シノ如クスグニハトテモ出來ソウニハナイ

▲▼347ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月29日(日)

天気 晴

奈良原氏來場 工場休
大口上京 出資ノ形式人員金額等ニツキ聞カセニヤル 工場全圖青写真ニシテ持参スタ方帰り明日更ニ上京 会见ノ由 本日ハ二人ダケニアッタ由
お婆サン稲毛ヨリ帰ル

▲▼348ページ▲▼ 昭和11(1936)年11月30日(月)

天気 晴

大口上京 出資ノ方法顔振レヨク聞キニヤル
正午ヨリ上京 局ニ行ク 森サンニ會ヒ埋立ノ件ヲ聞ク 場所変更等ノコトモナク予算ハ少シ減少シタガ事実ハ出來ダケ取レタトノコトデアッタ
東日ニ行ク 大口岩間安田三氏待ツテ居タ。十年式ニ内金貳百五十円モライ三十円山口君ノ自動車ノ金渡ス 岩間安田氏ヨリ話シヲ聞クト三十万円ノ株式会社ニシテ工場ヲ買収スルトノコト ソレニ権利モ何ニモ認メナイデハ吾々ノ浮ブ處ガナイノデ色々工場ヲ評價シテ大体七万五千円買ヘルコトニナル。清水ビルニ到リ柳父、荒瀬両氏ト会见覺書ノ下書ヲ作製 ヨケレバ一週間に決定 年内ニ總(ママ)立スルトノコトデアッタ。
スグ九州ヨリ神田ノ佐藤氏ニ会见 意見ヲ聞ク 讚(ママ)成デアッタ 條件モヨカロウト

ノコト 自分モ條件ハ満足ナモノデハナイガ、先方ノ人物サエヨケレバ。明日大坂へ行クコトニ決メル

◆▼3550ページ◆▼ 昭和11(1936)年12月1日(火)

天気 晴

大坂へ相談ノ爲メ帰ルベク朝中山氏ノ在否ヲ奈良へ電話シタガ通ゼズ。兄ヘタノム 返電ヲ待ツタガ來ラズ 一時出カケル 局ニ石中ノ書類ヲ提出。佐藤サンニ行ク 其前実業聯合会三星野氏ヲ訪フ 丁度醫者行ク處ダトノコトデアッタ 柳父氏ハ知ツテ居ルガアレニ出來ナイダロウ 或ハ久シク會ワナイカラ出來ル様ナ身分ニツタカモ知レヌガ一度會ツテ聞イテ見テヤツテモヨイカラ、ヨコセトノコトデアッタ 急デ居ラレタノデ、カンジンノ人物ヲ聞クノヲ忘レタ。佐藤氏ノ方ハ聞合セ全然不明ニツキ、取引所ノ支配人ト云フコトガ、ハタシテ事実ナリヤ否ヤモ、明ラナクナツタノデ、電話ヲカケテ見タラ、ハタシテ居ルコトガ分ツタノデ今日大坂へ立ツコトヲ話シ東日ニ行キ清平ヲ待ち合セル 五時頃工場ヨリ兄カラ中山氏五日ノ朝帰ルトノ電報デアッタ由 今日ノ出發ヲ見合セ、清平入所ノコトヲ取キメ、帰宅 山崎氏待ツテ居タ。十時半帰ル ツカレタ

◆▼3551ページ◆▼ 昭和11(1936)年12月2日(水)

天気 晴

清平ト同道七時半出發 八時十分發十時三島着 東日通信部へ風則(ママ)計ヲ預ケ役場ニ行ク 委任状ト金百五十円受取り ■村氏ト青年學校ニ行ク プライマリー整備出來テ居タ 修理箇所モ乗人ガヤッタノダカラ。ダガ使用上差支ナイ スク津田沼ハ百円電送シ十一時五十六分ニ乗ル 車中調ベルト桜ノ前ノ列車ニ合フノデ急行券ヲ安クスル爲メ清水迄行キ乗り替エル 八時半大坂 ■九時帰宅 新世界へ先キニヨル姉ハ今里へ行ツタトノコト。ソシナニヨクナツテ居ルノデ安心ス
河野道永君先月死亡 シカモ自殺トノコトニ同君モ自分ト同年デアル點カラ見テ悪カッタノデアロウ。自分ハ自分自身ニナントモナイガアマリニ犠牲ガ多カッタ ソレ等ニ対シテ感謝セネバナラナイ

本日ノ記事ハ三分 一日ノ分ハ五日ニアリ

◆▼3552ページ◆▼ 昭和11(1936)年12月3日(木)

天気 晴

色々考慮ノ末ヤハリ中山氏ト明日會見 意見ヲ聞イタ上西店ニ會フ方ガヨイト思ツタ

ノデ、新世界ニ行キ 晝迄色々キヌ子ノコトや家庭ノ話シヲ聞ク
正午ヨリ大毎ニ大蔵ヲ訪ヒ晝食ノ馳走ニナリ福知氏ト会见 帰途井上ノ店ニヨリ中君
ニ來ル様事傳シテ帰ル 夜姉キヌ子ト敷島クラブヲ見ニ行ク 十時半エミス町ニ帰り床ニ
ツク

清平ヨリ昨日午前中ニ秋田氏ニ会ツタ報告ガ來テ居タ 二人共人格ハヨイガ資力ハナ
イトノコトデアッタ

本日ノ記事ハ四日分

▲▼3553ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月4日(金)

天気 曇リ後晴

奈良ヘ電話シ十時安堂寺町デ会フ約束 丁度ニ行ク 十一時頃來 一應話ス 大体條
件不良ニツキ佐渡島ノ意見ヲ聞イタ上デ対策ヲシテハトノコトニ行ク 來客アリ少時待
ツ一通リ話シタ結果丁度他ニ來客アリ五時頃迄カ、ルトノコトニ明日芦屋ヘ行クコトニ
シ、ソレ迄ニ自分ノ右ニ対スル意見ヲ書イテ來イトノコト 中山氏ト晝食ヲ共ニシ協議
東京ノ方ノ出資者ニ対スル條件案ヲ作ル

万一右不調ノ場合西店引受ケルカ、問題 ソレデナイト強ク出ラレナイ。新世界ニ歸
リ大体現有財産ヲ見積モツテ見ル 六万三千円ハ六理ノナイ處 外ニ製作權ナドモ見
ラレル

本日ノ記事ハ五日分

▲▼3554ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月5日(土)

天気 晴

今一日待機 明夜行ツテ下坂ニ決メル

本日ノ記事ハ一日分ナリ

▲▼3555ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月6日(日)

天気 晴

今日ハ朝天王寺公園ヲ散歩ス 一日何事モ用事ナク兄ト会谈。夜牛肉デ会食スルツモ
リデ居タ處新世界養子ガ來タカラ会ツテ呉レトノコトデタ食ヲ共ニスルコトナル
人品骨柄モヨカッタ 今日ハ話シハ決定シタ由 マ、ヨカッタ 清平モ心配シテ居タノダカ

ヲ結構ナコトダ

◆◆356ページ◆◆ 昭和11(1936)年12月7日(月)

天気 晴

十時中山氏ニ行ク 十一時來 西店へ行ッタガ今日ハ上坂セラレズ四時頃芦屋へ來テ呉
レトノコトニ一度帰宅 最少限度ノ出資予算書ヲ作り五万円トシテ芦屋ニ行ク 九時
頃迄懇談 結局金ハ出ナイコトニナッタノデ予定ノ東京ノ方ヲ進メルコトノ諒解ヲ得
中山氏同道帰坂 アトヲタノミ十一時ノ汽車デ帰京スルコトス

◆◆357ページ◆◆ 昭和11(1936)年12月8日(火)

天気 晴

七時沼津ニテ乗替七時半三島着 早イノデ附近デ朝食ヲ取り九時二町役場へ行ク
残りノ五十円貰フト思ッタガアトカラ送ルトノコトデアッタ 野村氏同道 十時二十五
分ニテ輕井沢ニ行キ山ニ登ル 丁度晝頃ツク 三四回練習ヲ見テ二時半ヨリ下山 三
時三十分ノバスニテ熱海ニ出五時発ニテ利根川氏ト帰京 新橋下車 清平ガ待ッテ居
タ 法律ニクワシイ友人ト云フノヲ連レテ來テ居タ 夕食ヲ共ニシ清平同道帰宅

◆◆358ページ◆◆ 昭和11(1936)年12月9日(水)

天気 晴

清平朝帰ス。留都(ママ)中ノ雜用ト來客デ今日ハツヒニ出ラレナカッタ
留都(ママ)中川口氏ヨリ度々電報アッタ由ダガ明日会见後ニシタ方ガトノ大口ノ案ニ
ス

午後坂本寿一來。時節ニ乗ル爲メ一舉二五百万円位ノ会社ヲ作ッテハドウガ 創立費
用ノ二三万ハ自分デ出ストノコトデアッタ。安岡ト三人夕食ヲ共ニシテ二三日中ニ返事
スルコトヲ約シテ帰ス

大坂兄ヨリ明日晩立チソチラニ行クトノ入電アリ

◆◆359ページ◆◆ 昭和11(1936)年12月10日(木)

天気 晴

早朝坂本君來 最(ママ)非ヤリタイ 工場ノ手入費モ三万円位出ストノ大變ナ意氣込
ミデアッタ 明日結果ヲ知ラセテ呉レ、ソシテユックリ相談シタイトノコトデアッタ

大口同道上京 分レテ局ニ行ク 誰レモ居ラズ 森サンニ今村ノ件ヲタノム。協会ニ行キ

利根川奨励金ノ件東京府へ送金シテ貰フコトニス 通知書モスグ受取ル

大口ニ電話シ岩間安田氏ト一所ニ米穀取引所ニ行キ十五万円トシテ株十万円現金五万円。常務ニナルコト 外二名内会社ヨリ役員ヲ入レルコトヲ要求ス。大体ソレニ添フ様ニ努力スルカラ覺書ヲヤメ設立ニ進行サセテ貰ヒタイトノコト 承認ス 三時分レテ明日自分一人デ來テ來(ママ)レトノコト ソレハアトノ設立予算書ヲ作ル爲メデアッタ。別ニ後チ岩間氏ニヤルトキメタラ今月中ニ借金ノ整理スル爲メ一万五千円程出スコトヲ話シテ貰フ様ニス

飛行クラブノ会合ハ中止シテ帰宅ス

佐藤ト秋田ニ右報告ニヨッタガ秋田氏不在

▲▼360ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月11日(金)

天気 晴

大口、川口氏へ行ク コチラノ方へ参加スルコトモ考へテ貰フ

兄大坂ヨリ來 タゞ成行ヲ氣ニシテ來タノデアロウガ清平ガ呼ンダトモ考へラレル

今日上京ノ予定ヲ取止メ電話デ明日行クコトニ打合セル 坂本ノ方へハ先方へ返事シタコトニツキ先方協議中ニツキヨイ返事デアレバ事ハ訳ニモ行カナイコトニナッテ居ルガ、イヅレ結果ハ報告スル旨電話シテ居ク

清平明日同道ノ爲メ材料(計畫書予算書)ヲ持ッテ來ル様ニス

▲▼361ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月12日(土)

天気 曇リ

正午飛行協会ニ行キ東北帝大行キノプライマリー見積書ヲ提出 地下室ニ岡田氏ト会见 二十円支拂ヒヲナス 手形書替エテ送ッテ呉レトノコトデアッタ。清平來 晝食後約東ノ一時二十分遅レテ米穀取引所ニツク 岩間氏來合セ約一時間待ッテ柳父氏出テ來ル 予算書ノ訂正ヲナシ五時頃大体終リ尚細部ヲ書キ直シ持参スルコトトス 東日ニ廻ロウト思ッタガオソク中止ス 途中買物シテ帰宅 兄、大口、清平ト食事ヲ共ニス

▲▼362ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月13日(日)

天気 曇小雨

時事 支那ニ大クーデター起リ張學良赤化 蒋介石カン禁セラル

六時頃大分降ッテ居タガ後止ム 北東ノ風ツヨシ 奈良原、兄、清平ト白戸ニ行クスデニ準備進ンデ居タ 間モナク曳航機來タガ風ツヨク雲低ク四百米位ニテハナシ上昇

反轉位デ御茶ヲニゴシ着陸 奈良原氏ノ講演後プライマリ、セコンダリーノ飛行ヲナシ、ソアラハ風向キ悪ク飛行場セマク離陸出來ズ中止 自動車ニテ帰ル 午後予算書ノ訂正ヲナス

夕方山崎氏來 夕食後帰ル

夜川口氏ヨリ電話アリ 京成ノ後藤氏ニ話シテ目下先方調査中ナリトノコト 外ニ東京デ明日話シタイ處ガアルガ如何トノコトニコチラモホントキマリカケテ居ルガ決定シテ居ラナイコトヲ率直ニ話シテ居ク

◆◆363ページ◆◆ 昭和11(1936)年12月14日(月)

天気 曇リ少晴

午前中雑用多ク且ツ拡張収支予算書ト計畫書ヲ作製 正午上京 東日ニ行キ羽太氏ヨリ二百五十円借り局ノ方打合せ十六日検査ノコトニホヰキマル

山本平八郎氏ニ會フ 三十六円余ノ處三十円ダケ支拂フ 格納庫講堂ノ設計ヲタノマレル

千葉保儉(ママ)署納金ノ爲メ大急ギ柳父氏訪問 丁度岩間氏モ居テ、權利ノ件陸軍指定工場トナッタ上五万円出スコト 役員ハ當方ヨリ二名取ルコト等話シアリ 自分ヨリモ權利ヲ主張スル意味デ買収ト云フコトデアレバトノ前程ノモノデアッタ。コチラヲ尊重シテ合同ノ意味デアレバ、アエテ主張シナイコトヲ申出テ居ク

会谈約三十分デ考慮ヲ約シ千葉へ急行シタラ工場カラスデニトゞケタトノコトデアッタ

◆◆364ページ◆◆ 昭和11(1936)年12月15日(火)

天気 快晴

時事 朝日機シヤムヨリ帰ル 台北着

大口上京 評價ノ爲メ來ル様ニ通知ニ行ク 大体木曜日頃トシソレ迄ニ棚卸ヲナスコトトス

所沢職工本制限リトシ計算シテ金ヲ渡ス

兄今夜行ニテ帰坂ス 清平來 送ッテ行ク 兄ニ旅費ダケ返ス トンダ損害ダ

奈良原氏來場 夕方帰ル 明日江戸川ヲ見テ來ルトノコト 三十余人デ草刈リヲヤツテ居ル筈ノ由

猪又ヨリ五十円借りル ベニヤトタイヤ代引引取ル

◆◆365ページ◆◆ 昭和11(1936)年12月16日(水)

天気 曇リ

時事 朝日機大坂安着

南波、内田両氏來場 佐々木サル完成終ル

大毎十年式上翼前縁張替ヲ要スルコトナル スグ翼羽布張ツテヨロシトノコト 三島B

二見テ貰ツタガモチット出來テカヲト云フコトニナル

今日カラ棚卸シヲ初メル 新会社引継ギ準備ノ爲メ

坂本ヨリ昨日電話アリシ由 今日カケテ見ル 明日二時頃会社へ來テ呉レトノコトデア
ツタ

▲▼366ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月17日(木)

天気 曇

朝局へ行き佐々木ノサル變更登録申請ヲナス 荒井課長ニ増資拡張スルニツキ津田沼
デ拡張シテ將來ノ見込ミアリヤトソレトナク聞イテ見ル アルダロウ 民間ノ連中ガ集
マルコトニナルトノコト 暗ニ飛行場設置ヲ裏書サレタコトニナルノデ安心ス スグ帰宅
佐々木三島等年末準備 作業準備ヲ進メル

坂本明日行クコトニ電話ス

東京柳父氏ヨリ明日夕六時會ヒタイトノコト 大口ト來テ呉レトノコトデアツタ

▲▼367ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月18日(金)

天気 曇

南風温カサリ

朝局へ

終日在所 午後船橋へ年賀狀ノ注文ニ行キツヒデニ散髪ヲナシ吹付屋へ來テ貰フコトヲ
交渉シ帰ル

本記事八十六日分ナリ

▲▼368ページ▲▼ 大正15(1926)年12月19日(日)

天気 曇小雨

十時ヨリ上京 局へ佐々木サルノ堪航証ヲ貰ヒ奨励金願書提出ス 年内間ニ合セルト
ノコト

南波氏月曜日三島へ行クノデ同町役場へ電話ヲカケテ居タノデ自分カラモ話シ金送金
方ヲタノム

東日ニヨリ十年式發動機ヲタノム 今日ノ航本會合ニ民間ヲ如何ニ振興スベキヤトノ案

ニ対シ羽太氏へ懸賞ニカギル旨述べテ居ク。ゴム十鹿島ノ格納庫及附属建物ノ略圖ヲ渡ス。買物ヲシテ二時米穀取引所ニ行ク 安田、岩間、大口、全部集ツテ覺書ヲ作り調印ヲ終ル。スグ帰ル

▲▼369ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月20日(日)

天気 曇小雨小雪

恵美子清平ニオゴラレ樂シデ居タ東宝行キ 七時半頃カラ千葉ノ友達ヲサソヒニ行ク。
今日ハ日曜デ夜業ヲ休マセヨウト思ツタガ、ソウモ行カナカッタ
夜清平恵美子送ツテ來ル 泊ル

▲▼370ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月21日(月)

天気 雪

今日ハ午後ハ大分降ル 一寸余ツモル 例年ヨリ大分早イラシイ
三島グライダーノ内部検査ニ田村ト云フ人初メテ來ル 感ジノヨイ人デアッタ
三島ヘ金打電シタガ返事ナシ。完成報告書原稿送ツテスグ出ス様依頼ス
奈良原氏來 廿五円借リル

▲▼371ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月22日(火)

天気 晴

久シ振リニ上天気トナル
東日發動機來 岡、須田氏來

▲▼372ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月23日(水)

天気 曇リ

又曇リ寒イ日トナル
奈良原氏須田氏晝前來 晝食ヲ共ニス 須田氏泊ル 佐渡屋ヘ安岡ニ案内サセル
安岡七時半頃來場 サル年内間ニ合ワナイ事諒解済ミ 金六百円ダケ受取ツテ一文モ
ナイコト等報告ヲ聞ク
中島航空官早川氏外一名來場 拡張試験ノ爲メ出ルニ二三格納庫ヨリ出ス時逆立サ
セ前部小破 受験不能トナル。鈴木ノ方ヘ行ク
本日ヨリ夜業ヲ止メル
驗査二十六日朝トキマル

佐々木ト三島へ打電 夜佐々木ヨリ○送ッタ関口ニ空輸タノムトノ返電アリ

▲▼373ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月24日(木)

天気 曇リ

朝駒林氏ヨリ電話アリ検査明朝行クトノコトニ今夜ハツヒニ夜業スルコトニナル
千葉ヨリ金貸シ來 工場担保約手ニテ手数八分利子日歩十二銭

▲▼374ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月25日(金)

天気 曇リ

駒林氏八時頃來場 須田、岡、山口來 テスト数分ニテ發動機焼付ク 調ベルトオイル
パイプヲ出ルノト這入ルノト間違エテ居タ 安岡ノ間違ヒデアリ佐藤ノ點ケン手落ち。
昨日セコンダリーノ方、支柱マダカワカズ 明後日來ルトノコトニテ徹夜シタコトガ何シ
ニモナラナカッタノミナラズ、信用ヲ、害シタルコトオビタゞシク 分解ノ結果シリンダー
ピストン羽田ニテマトメ、メタルコチラニテ取替整理シテ居クコトトス

▲▼375ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月26日(土)

天気 曇リ後晴

千葉ヨリ千五百円借入レ正味千貳百五十円入手 大口晝頃迄カゝル。収支予算ヲ立
テタルモ五百円尚不足

奈良原、川辺來場

高野外一名サルムソンノ件ニテ來 安岡ノ受取ッタ金ニツキ問題トナリ結局貳百円ダ
ケデ來月中旬迄ニ完成セシムルコトニナル 永イコトカゝリ終日仕事ガ出來ナカッタ
昨日ノ問題ニツキ家ヲ加エルコトノ必要ヲ感ジ佐藤安岡二人ヲ呼び右ニツキ申渡ス 方
法ニツイテハ考慮ノ上決定スルコト

▲▼376ページ▲▼ 昭和11(1936)年12月27日(日)

天気 晴

冬ラシイ晴レタ天気ニナル

帝都グライダー鹿島へ行ク 羽田ヨリ自動車來 ツヒデニスパノ三百シリンダー持参
ス 歸リニ寄ッテ悪イノヲ持ッテ歸ル筈デアッタガヨラナカッタ

帝都グライダーニ相談モセズ持ッテ行クコトニ注意ヲ喚起ス

朝駒林氏ニ電話ス 明日南波氏見ニ行クトノコトデ安心ス

工場方付ヲナス 今村又休ム

◆▼377ページ◆▼ 昭和11(1936)年12月28日(月)

天気 晴

南波氏午後來場 三島B二検査終了 証明書ハ多分送ツタ筈トノコトデアッタ
四時過ぎヨリ上京 晩翠軒ニ行ク 今日ハ柳父氏ト小生トデ岩間安田両氏へ御礼ノ意
味デノ会食 九時終ル 印刷シタ起業目論見書一部受取ル 七十万円ノ半額拂込ト
ナツテ居タ

大口ト銀坐ヲ散歩シテ帰ル 帰宅後間モナク清平來

◆▼378ページ◆▼ 昭和11(1936)年12月29日(火)

天気 晴

ツヒニ奨励金來ラズ

朝空中作業へ行ク 三百円貰フ様交渉シタガ話マトマラザル内三島ヨリグライダー取
リニ來タト電話アリ。スグ帰宅 残金二百円トゴム内金五十円受取ル。野村氏來ラレ
ル 晝食後出發ス。自分ハ小野少将長男告別式ニ上京 終ッテ渡辺一英君同道銀坐ノ
三越ニ行キ東日送りノ歳暮品ヲ買フ 渡辺君ニ広告料十五円渡スアト四円残り。帰
途作業ニヨル 加藤氏ヨリ小切手ニテ百円受取ル 明朝尚交渉ノ予定。清平大坂へ出
発ス

◆▼379ページ◆▼ 昭和11(1936)年12月30日(水)

天気 晴

今日中ニ終ラセタイト思ッタガソウモ行カナイ

作業へ話シサセタ處結局百円大矢君ガ來月十二日迄貸スコトニナル。シヤクニサワッタ
ガ止ムヲ得ナカッタ。ソレデモ幾分タスカル

十時過ぎ井上議氏來 百四十円渡ス。アツサリ持ッテ帰ッタ 発部品製作ノ件ヲ聞イ
テ見タ

銀行交渉シテ百四十五円入金 アト來月ニ廻シテ貰フコトス 之デ大体アト小拂ヒ
ダケデ熊本金ガ來レバゴムカントヒンヂガ引取レルシ來ナケレバ其マ、忘レタコトニスル外
ナイト腹ヲキメル

◆▼380ページ◆▼ 昭和11(1936)年12月31日(木)

天氣 曇小雨

七時起床 川口氏訪問 後藤氏ニ見セル収支予算書ヲ作ツテ呉レトノコト 五日迄ニハ
チト出來カネルト思ツタガ引受ケル。ツヒデハ悪イガ成田山へ本年中ノ御札詣リニ行
ク 十一時帰宅。朝食ヲ共ニ散髪ニ行ク 熊本平松氏ヨリ丸山氏旅行中ニテダメ
ト入電アリ 猪又昨日安岡ヨリ話シタ六十円取りニヤツタガ之レ又ダメ 結局支拂ヒ
ヲ出來ルダケ止メテ残ツタ金六一円タラズ 本年モ又文ナシ正月トナル。ゴム管ツヒニ引
取レズ

リブ材料ト型發送 角ベニヤ板釘ヲ持ツテヤル 不在ノ爲メ今夜泊ルトノ電來ル

◆◆381ページ◆◆ 補遺

本年ハ非常ナ計畫デアッタガ一ツモ実行サレズオソマキナガラソアラガ完成シタノミ
亡ヒシ處信太郎、埴山ヲ最トス 矢野ハ兄ヲ亡クシテヨリヨイ弟ヲ持ツタ

河野君ノ死ヲ思ヒ合セ今年四人ノ死者ヲ出シタコトハ残念ナガラ自分ノ犠牲ニナツテ
呉レタモノト有難ク感じ冥福ヲ祈ル。幸ニ増資計畫ガ進行シタコトハ本年唯一ノ獲物
之レヲ大ニ活カサネバナラヌ ソシテ死者ヲ慰メルコト

今年身体上ノ異変アリ 春迄ハ足ガ一晚中湯タンポヲ入レテ居テモ温マラナカタノニ
秋カラハ毎年

◆◆382ページ◆◆ 補遺

十月頃カラ湯タンポヲ入レルノニ本年ハ其必要ナク床ニ入ルト間モナク足ガ温マル様ニナ
ツタ。血圧ガ高クナツタ爲メカ ソレトモ信太郎ガ病ヲ持ツテ行ツテ呉レタノカ